

平成30年度福島県UIターン実態調査事業

調査報告書

平成31年3月

福島県地域振興課



## <目次>

I	調査の概要.....	3
II	調査結果の総括.....	5
1	転入者の属性と特徴.....	5
2	転入理由及び転入先選択の理由.....	5
3	移住促進に向けての解決課題.....	6
III	調査結果.....	7
1	回答者の属性.....	7
(1)	回収エリア.....	7
(2)	性別.....	7
(3)	結婚の状況.....	9
(4)	年齢.....	10
(5)	福島県内居住経験.....	13
(6)	職業.....	14
(7)	業種.....	17
(8)	転入後の求職方法.....	18
(9)	転職に当たり気がかりだったこと.....	20
(10)	世帯人数（転入前・転入後）.....	22
(11)	転入後の家族構成.....	23
(12)	転入後の世帯における子ども・高齢者の有無.....	25
2	今回の転入について.....	26
(1)	転入前住所・出身地住所.....	26
(2)	移動パターン.....	28
(3)	転入した理由.....	31
(4)	転入した住まい.....	36
(5)	空き家の購入（賃借）.....	39
(6)	空き家を購入（賃借）しなかった（できなかった）理由.....	41
(7)	転入時に自治体の移住支援を受けたか.....	42
(8)	転入時の自治体対応の評価.....	44
(9)	今後の居住継続意向.....	45
(10)	移住者の抽出.....	48

3	移住者の意識について	49
(1)	転入した市町村を選んだ理由	49
(2)	転入した市町村の訪問有無・回数	56
(3)	他の移住先候補自治体	57
(4)	不安な要素	59
(5)	最も苦労した点	68
(6)	特に必要だった情報	71
(7)	必要な情報の入手方法	78
(8)	最も必要なサポート	84
(9)	期待する支援策	88
(10)	交流会やイベントの案内の可否	91
4	復興プロジェクトの認知について	92
(1)	福島県が取り組んでいる復興プロジェクトの認知	92
IV	資料	93
1	使用した調査票	93

# I 調査の概要

①調査の目的	<p>福島県の人口は、1998年（平成10年）以降、少子高齢化等に伴う減少傾向が続いていましたが、2011年（平成23年）の東日本大震災・原子力災害の影響を受け、県外への転出の増加（社会減の拡大）も加わり、200万人を下回るなど、人口減少がますます進行しました。</p> <p>時間の経過とともに、社会動態は震災前の水準に戻りつつあるものの、人口減少は依然として続いています。</p> <p>また、日本における人口減少が加速度的に進行する中、全国でも急激な人口減少下にある本県が、将来にわたり活力ある社会を維持し、持続的な発展を目指していくためにも、人口減少の進行度合いに歯止めをかけ、構造的な人口問題を解決していくことが求められています。</p> <p>このことから、本県では、人口減少対策の一環として定住・二地域居住を推進するため、昨年度に引き続き、本県への移住者の実態と傾向を把握し、今後の施策にいかすことを目的として、本県への新規転入者を対象としたアンケート調査を実施することとしました。</p> <p>アンケート調査においては、年代、職業、移動パターン（県内移動、Uターン、Iターン等）及び転入先（エリア）等に着目しながら、転入者（移住者）の特性を把握し、移住・定住に対する意識の差を明らかにすることとします。</p>
②調査期間	平成30年7月23日（月）～平成31年2月28日（水）
③調査対象	福島県内市町村において、転入届を提出した方
④配布市町村	<p><b>【県北】</b> 福島市、伊達市、二本松市、本宮市、国見町、桑折町、川俣町、大玉村</p> <p><b>【県中】</b> 郡山市、須賀川市、田村市、鏡石町、石川町、浅川町、古殿町、三春町、小野町、天栄村、玉川村、平田村</p> <p><b>【県南】</b> 白河市、矢吹町、棚倉町、矢祭町、塙町、西郷村、泉崎村、中島村、鮫川村</p> <p><b>【会津】</b> 会津若松市、喜多方市、西会津町、磐梯町、猪苗代町、会津坂下町、柳津町、三島町、金山町、会津美里町、北塩原村、湯川村、昭和村</p> <p><b>【南会津】</b> 下郷町、只見町、南会津町、桧枝岐村</p> <p><b>【相双】</b> 相馬市、南相馬市、広野町、楡葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、新地町、川内村、葛尾村、飯舘村</p> <p><b>【いわき】</b> いわき市</p>
⑤調査方法	各市町村の転入届提出窓口にて転入者にアンケート票及び返信用封筒を配布した。回答は郵送又はWEBフォームで回収した。
⑥回収状況	<p>配布数：7,387票                      総回収数：906票</p> <p>有効回収数：902票                  有効回収率：12.2%</p>

⑦調査結果の見方	<ul style="list-style-type: none"><li>◇調査数（<math>n</math> = number of cases）は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示す。</li><li>◇回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。したがって、単一回答形式の質問においては、回答比率を合計しても100.0%にならない場合がある。また、回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答形式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると100.0%を超える。</li><li>◇グラフ中の「0.0」は、その選択肢への回答が0件であったことを表す。なお、グラフの見やすさを考慮し、グラフ中の「0.0」を非表示にしている場合がある。</li><li>◇調査数（<math>n</math>）が少数の場合、統計上の回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析を省略している場合がある。</li><li>◇図表及び本文で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。</li></ul>
----------	--

## II 調査結果の総括

設問の調査結果の総括について、◇は全回答者、◆は移住者（※）のみの内容を示す。

※移住者の定義：本調査では、Q13 (P45) で「概ね5年以上住む考えがある」と回答した人とする。

### 1 転入者の属性と特徴

◇回収エリアは、「県中」「県北」で半数を占めている。

◇年齢別では、若い世代（「20歳代」「30歳代」）の転入者が多い。

- ・回収エリアは県中、県北、いわき、会津の順で回答者数が多く、特に県中（27.8%）、県北（23.4%）で全体の半数を占めている。一方、南会津、県南、相双エリアの回答者数は、それぞれ全体の1割未満となっている。（P7）
- ・20～30歳代の若い世代における回答者数の割合が、全体の6割を超える結果となった。（P10）

◇福島県出身者が半数を占めている。

◇移動パターンでは、「Iターン（県外出身）者」が約4割を占めているが、このうち移住者のみでみた場合には、「県内移動者」「Uターン者」「Iターン者」ともに約3割ずつとなっている。

◇年齢が低いほど県内移動者の割合が高い。

- ・福島県の各市町村への転入者は、福島県出身者の割合（53.1%）が高く、転入前の居住地については、福島県外からの転入者（69.1%）のほうが、県内移動者（30.5%）よりも多いことがわかった。（P26）
- ・移動パターンをみると、転入者全体ではIターン（県外出身）者の割合（44.5%）が高いが、5年以上の居住継続意向のある移住者のみでみた場合の内訳では「県内移動者」「Uターン者」「Iターン者」ともに約3割ずつを占めている。（P28）
- ・年齢別のクロス集計を行った結果、20歳代から70歳代以上にかけて、年齢が高くなるにつれ県内移動者の割合は低下している。（P29）

### 2 転入理由及び転入先選択の理由

◇転入理由は「転勤による転入」が最も高く、20～50歳代では約3～4割を占めている。

◇移住者のうちUターン者では、「親族との同居に伴う転入」が高く、Iターン者では、「転勤による転入」のほか「結婚に伴う転入」「社会人の就職・転職・起業による転入」が高くなっている。

- ・「転勤による転入」は、40歳代（43.1%）が最も高く、20歳代（30.2%）、30歳代（35.6%）、50歳代（38.6%）も3割を超えている。（P32）
- ・移住者のみの場合で移動パターン別にみると、Uターン者では「親族との同居に伴う転入」（29.7%）が他の移動パターンに比べ最も高くなっている。（P35）
- ・Iターン者では「転勤による転入」（23.4%）に次いで「結婚に伴う転入」（22.2%）、「社会人の就職・転職・起業による転入」（18.4%）の順となっている。（P35）

- ◆転入先選択の理由は、「家族・親戚がいる」「出身地だから」の順に高く、特にUターン者でみた場合の理由では突出して高くなっている。
- ◆県内移動者では「住宅価格や家賃が手頃」など、Iターン者では「転勤」などが他の移動パターンに比べ高くなっている。
- ◆Iターン者では、「家族・親戚がいる」「自然・気候が良い」「福島県に愛着があった」「希望する仕事があった（転職含）」の順に高くなっている。

- ・移住者の転入先選択の理由は「家族・親戚がいる」（45.1%）、「出身地だから」（34.5%）が上位となっており、Uターン者ではともに6割以上と突出している。（P49、53）
- ・県内移動者では「住宅価格や家賃が手頃」（23.4%）などが他の移動パターンに比べ高くなっている。（P53）
- ・Iターン者では「転勤」（17.1%）などが他の移動パターンに比べ高くなっているが、割合の高い順でみると、「家族・親戚がいる」（32.9%）、「自然・気候が良い」（27.8%）、「福島県に愛着があった」（24.7%）、「希望する仕事があった（転職含）」（24.7%）となっている。（P53）

### 3 移住促進に向けての解決課題

- ◆不安な要素では、「収入の確保」「仕事の確保」「冬の寒さ・積雪」「人間関係」の順となり、それぞれ約3割を占めている。
- ◆最も苦労した点では、「移住に伴う費用」が約2割と最も高い。

- ・不安な要素の上位は「収入の確保」（33.5%）、「仕事の確保」（28.8%）、「冬の寒さ・積雪」（27.1%）、「人間関係（しきたり・近所づきあいなど）」（26.3%）の順で、それぞれ約3割となっており、「収入の確保」は、年齢別にみると20歳代、50歳代で4割以上と高くなっている。（P59、60）
- ・最も苦労した点では、「移住に伴う費用」（23.5%）が最も高くなっている。転入元県内外別にみると、県内では「移住に伴う費用」が3割を超え県外に比べ高く、一方、県外では「仕事の確保」が県内に比べ特に高くなっている。（P68、69）

- ◆特に必要だった情報では、「生活環境」「住居」が約5割を占め上位となっている。
- ◆必要な情報の入手方法では、「友人・知人からの口コミ」「親・親戚からの口コミ」が4割以上を占め上位となっている。
- ◆最も必要なサポートでは、「仕事・暮らしの情報が一覧できる総合情報サイト」「仕事・暮らしのことが相談できる総合相談窓口」が3割以上を占め上位となっている。

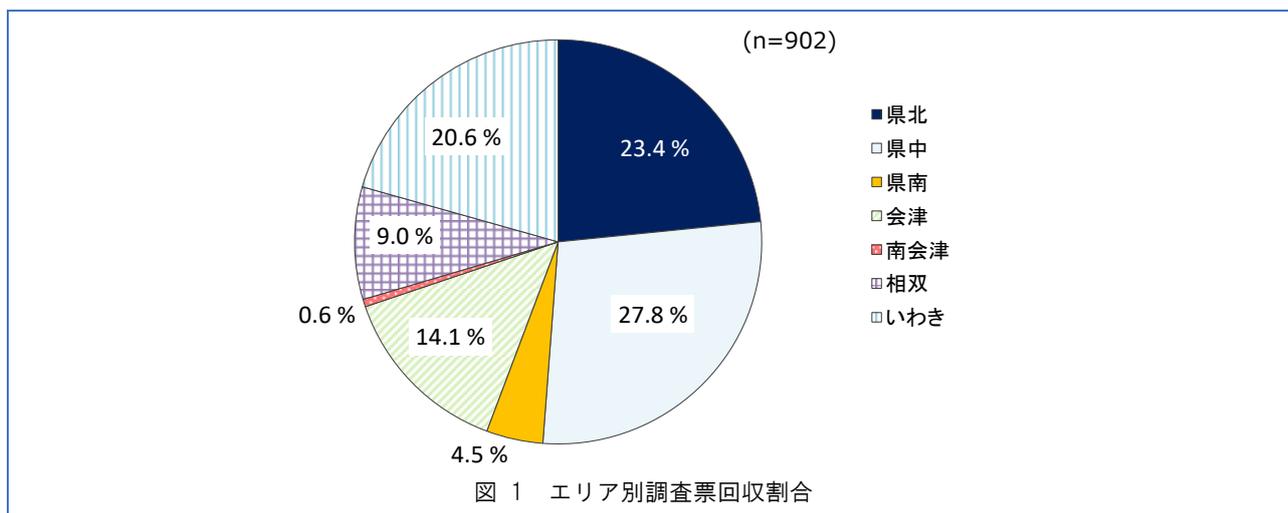
- ・特に必要だった情報では、「生活環境」（55.7%）が最も高く、次いで「住居」（48.9%）、「就職・転職」（35.2%）の順となっている。（P71）
- ・必要な情報の入手方法では、「友人・知人からの口コミ」（46.8%）が最も高く、次いで「親・親戚からの口コミ」（41.9%）、「市町村ホームページ」（38.6%）の順となっている。（P78）
- ・移動パターン別にみると、県内移動者及びIターン者では、「友人・知人からの口コミ」が5割以上で最も高く、県内移動者では「市町村ホームページ」も5割と高くなっている。一方、Uターン者では、「親・親戚からの口コミ」が5割以上で最も高くなっている。（P80）
- ・最も必要なサポートでは、「仕事・暮らしの情報が一覧できる総合情報サイト」（38.1%）が最も高く、次いで「仕事・暮らしのことが相談できる総合相談窓口」となっている。（P84）

## Ⅲ 調査結果

### 1 回答者の属性

#### (1) 回収エリア

- ◇「県中」が27.8%と最も高い。
- ◇「県中」と「県北」の2地域で全体の半数を占めている。



回収エリアをみると、「県中」が27.8%と最も高く、次いで「県北」(23.4%)、「いわき」(20.6%)となっている。

#### (2) 性別

- ◇「男性」が約6割を占め、「女性」を上回っている。

Q1 性別を教えてください。



性別をみると、「男性」が61.5%と約6割を占め、「女性」(38.4%)を上回っている。

【エリア別／性別】

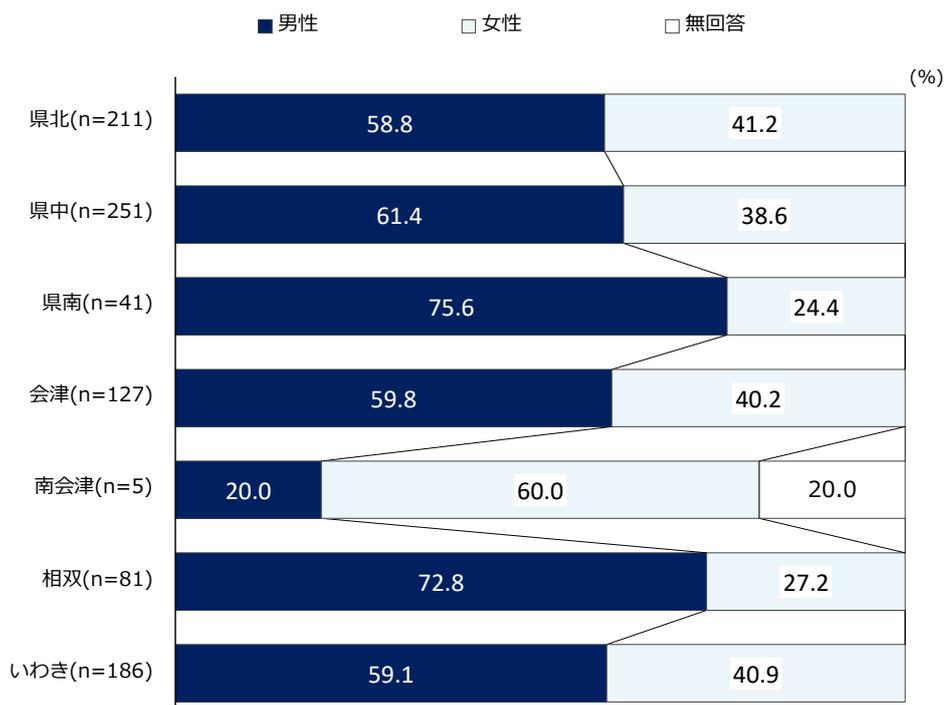


図 3 エリア別男女別割合

性別についてエリア別にみると、県南・相双では「男性」の割合が他のエリアに比べ高くなっている。

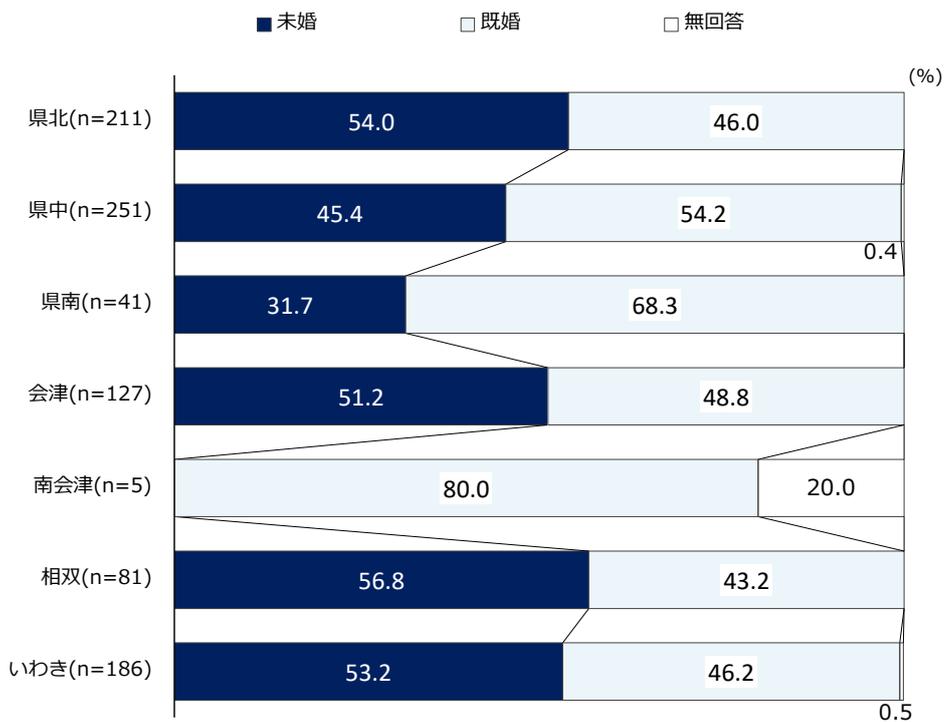
**(3) 結婚の状況**

◇「未婚」と「既婚」はほぼ半数ずつとなっている。



結婚の状況を見ると、「未婚」50.0%、「既婚」49.7%と、ほぼ半数ずつになっている。

**【エリア別／結婚の状況】**



結婚の状況についてエリア別にみると、県南・南会津では「既婚」の割合が他のエリアに比べ高くなっている。

(4) 年齢

◇「20歳代」と「30歳代」が多く、その合計で全体の約6割を占めている。  
 ◇相双では、「40歳代」以上が他のエリアより高い。

Q3 年齢を教えてください。

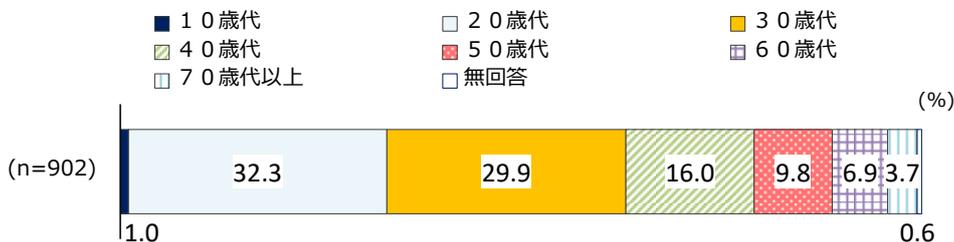


図6 年齢別割合

年齢については、「20歳代」が32.3%と最も高く、次いで「30歳代」(29.9%)、「40歳代」(16.0%)の順となっている。

【エリア別／年齢】

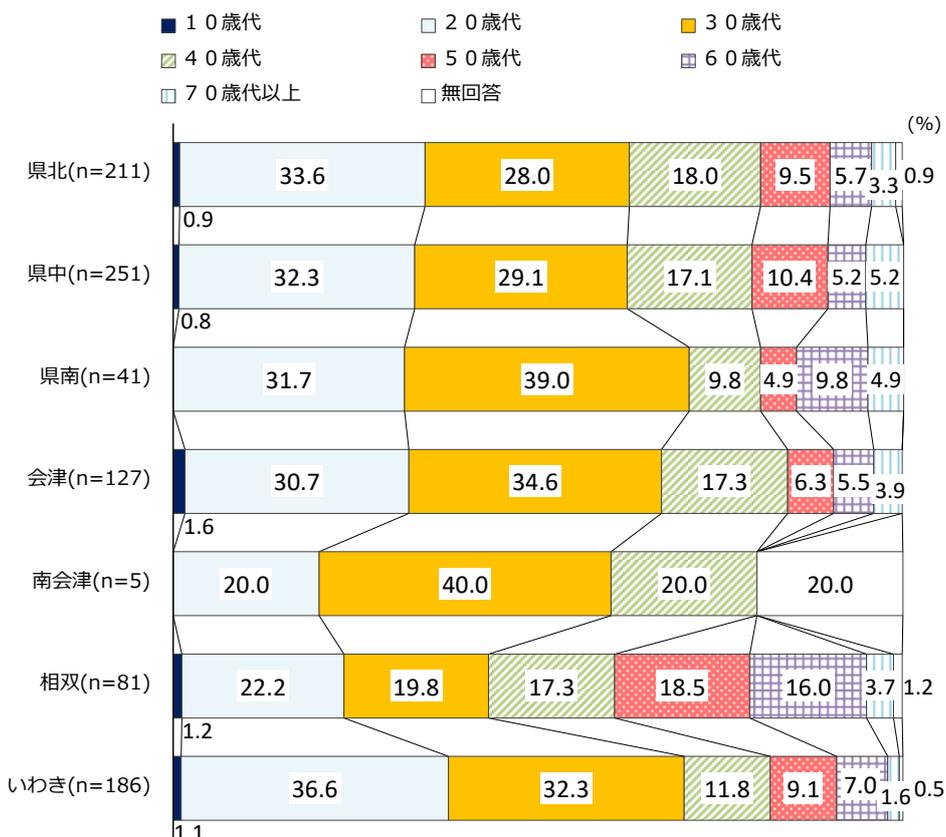


図7 エリア別年齢別割合

年齢についてエリア別にみると、相双では「40歳代」以上の割合が他のエリアに比べ高くなっている。

【移住者のエリア別／年齢】

**〈移住者の定義〉**  
 本調査では、Q13（P45）で「概ね5年以上住む考えがある」と回答した人を移住者とみなす。（P48も参照のこと。）

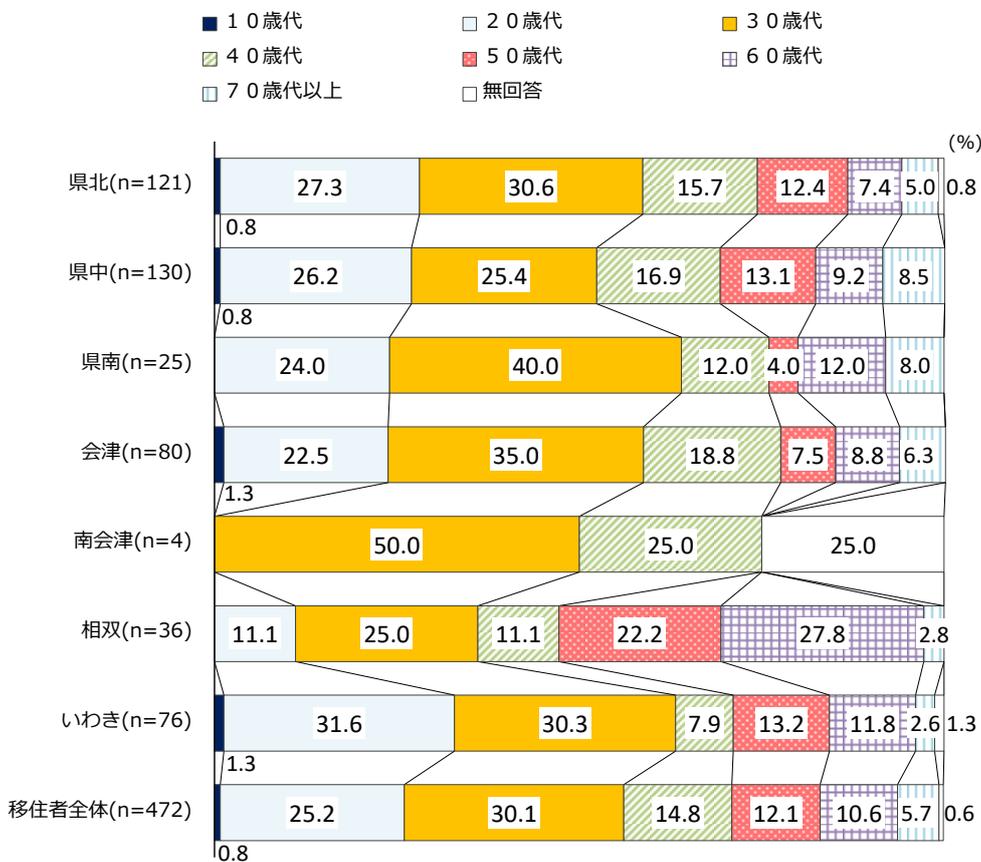


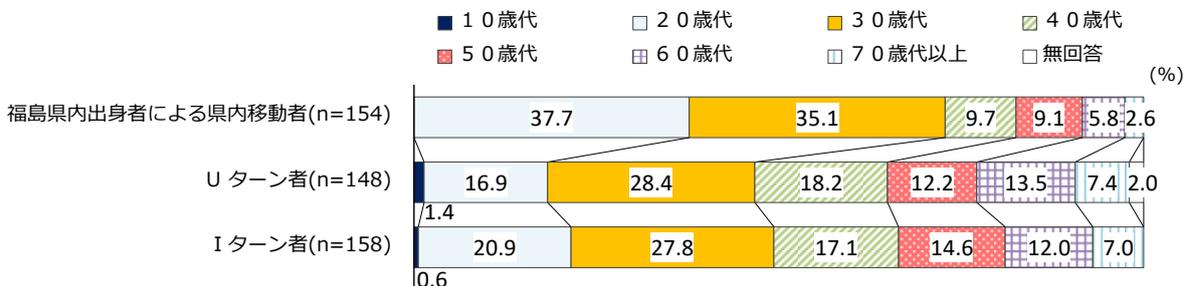
図 8 移住者のエリア別年齢別割合

移住者の年齢についてエリア別にみると、相双では「50歳代」「60歳代」の割合が他のエリアに比べて高くなっている。

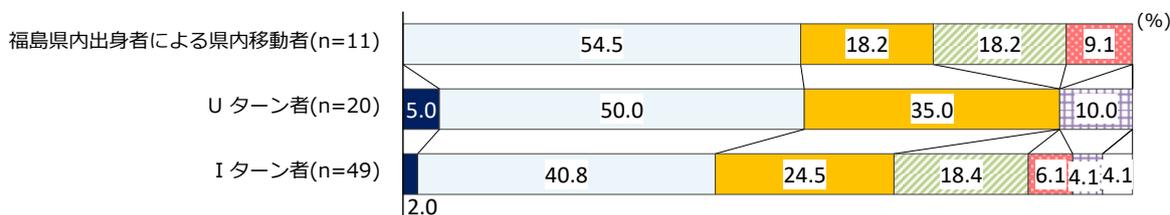
【居住継続意向・移動パターン別／年齢】

移動パターンの定義については、P28 を参照のこと。

<居住継続意向有り>



<居住継続意向無し>



<わからない>

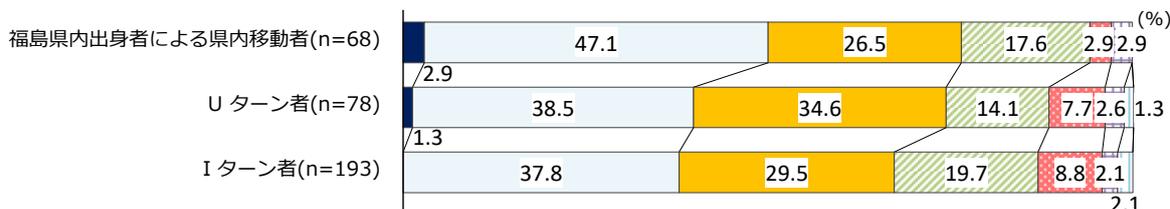


図 9 居住継続意向・移動パターン別年齢別割合

年齢について居住継続意向・移動パターン別にみると、「居住継続意向有り」のUターン者・Iターン者のうち「20歳代」「30歳代」の割合が、「居住継続意向有り」の福島県内出身者による県内移動者の同割合より低くなっている。

【居住経験別／年齢】



図 10 居住経験別年齢別割合

年齢について、福島県内の居住経験別での特徴的な差はみられない。

(5) 福島県内居住経験

◇福島県内に居住経験のある人が全体の6割以上を占めている。  
 ◇県北、県南、会津では福島県内に居住経験のある人が約7~8割を占めている。

Q 4 福島県に住んでいたことはありますか。「はい」と答えた方は、そのうち最近まで住んでいた市町村もご記入ください。



図 11 居住経験別割合

福島県内居住経験をみると、「はい」が66.5%と、「いいえ」(33.3%)を上回っており、福島県内に居住経験がある人が全体の6割以上を占めている。

【エリア別／福島県内居住経験】

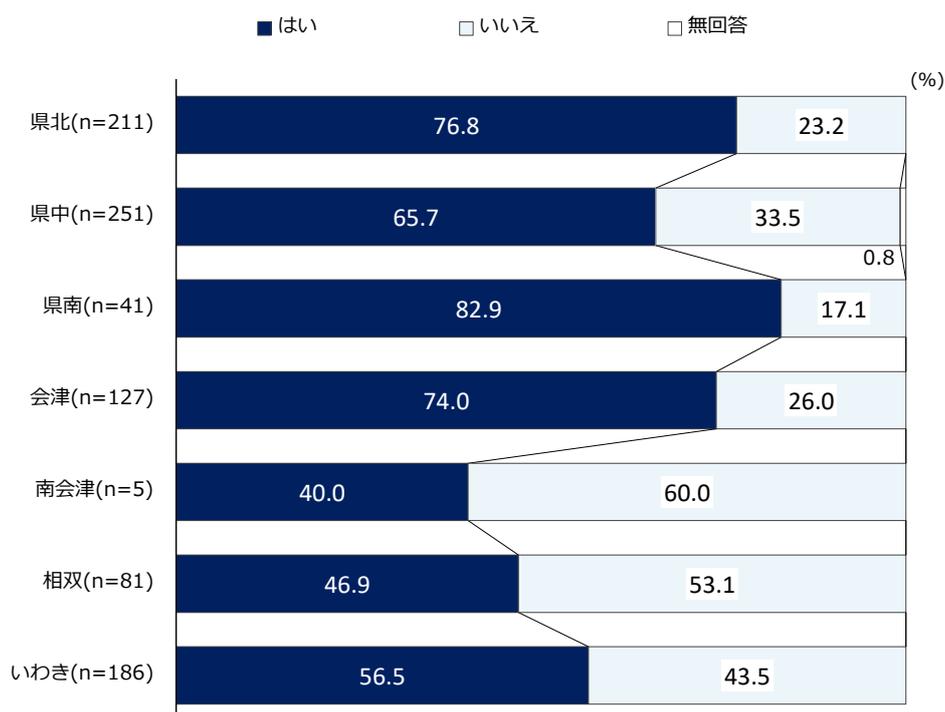


図 12 エリア別居住経験別割合

福島県内居住経験についてエリア別にみると、南会津と相双以外は福島県内居住経験のある人の割合が高くなっており、特に県北、県南、会津では約7~8割を占めている。

(6) 職業

◇職業は「会社員・団体職員」が過半数を占めている。  
 ◇20～50歳代では「会社員・団体職員」が約5～7割を占めている。

Q5 現在のご職業（予定も含む）について教えてください。

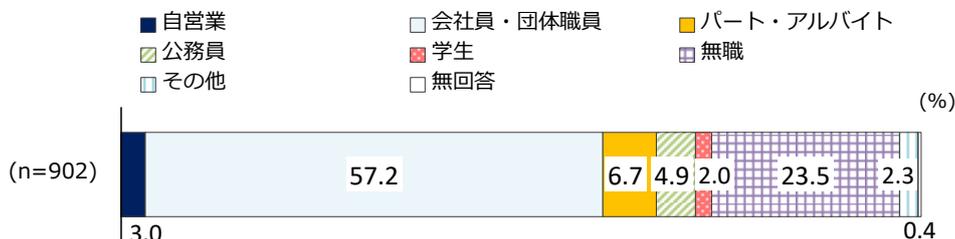


図 13 職業別割合

職業については、「会社員・団体職員」が57.2%と過半数を占め、次いで「無職」(23.5%)、「パート・アルバイト」(6.7%)の順となっている。

【年齢別／職業】

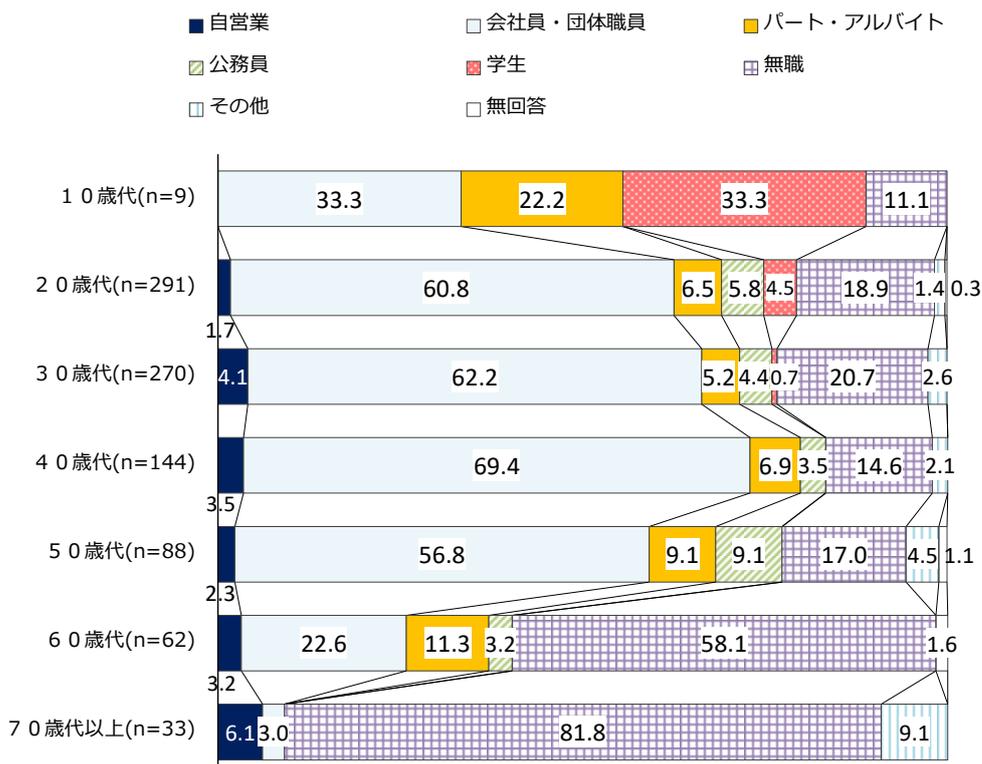


図 14 年齢別職業別割合

職業について年齢別にみると、20歳代～50歳代では「会社員・団体職員」の割合が約5～7割を占め最も高く、10歳代では「会社員・団体職員」「学生」、60歳代・70歳代では「無職」が最も高くなっている。

【移住者の年齢別／職業】

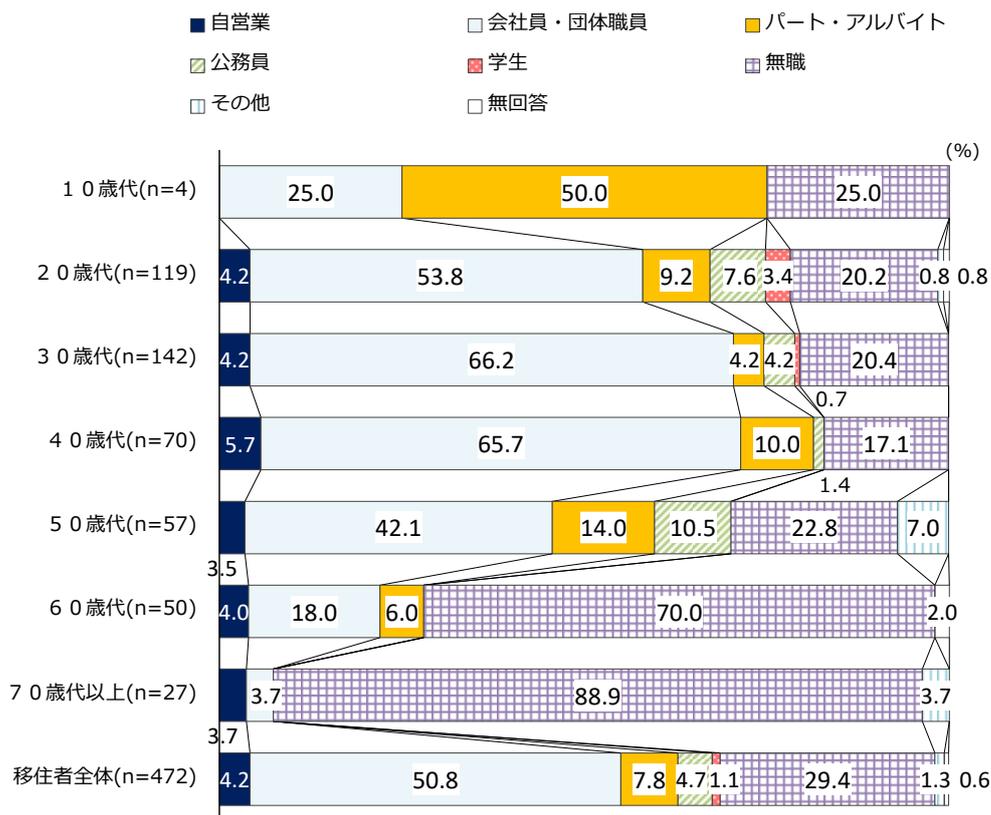


図 15 移住者の年齢別職業別割合

移住者の職業について年代別にみると、20歳代～40歳代では「会社員・団体職員」の割合が約5～6割を占め最も高く、10歳代では「パート・アルバイト」、60歳代・70歳代では「無職」が最も高くなっている。

【エリア別／職業】

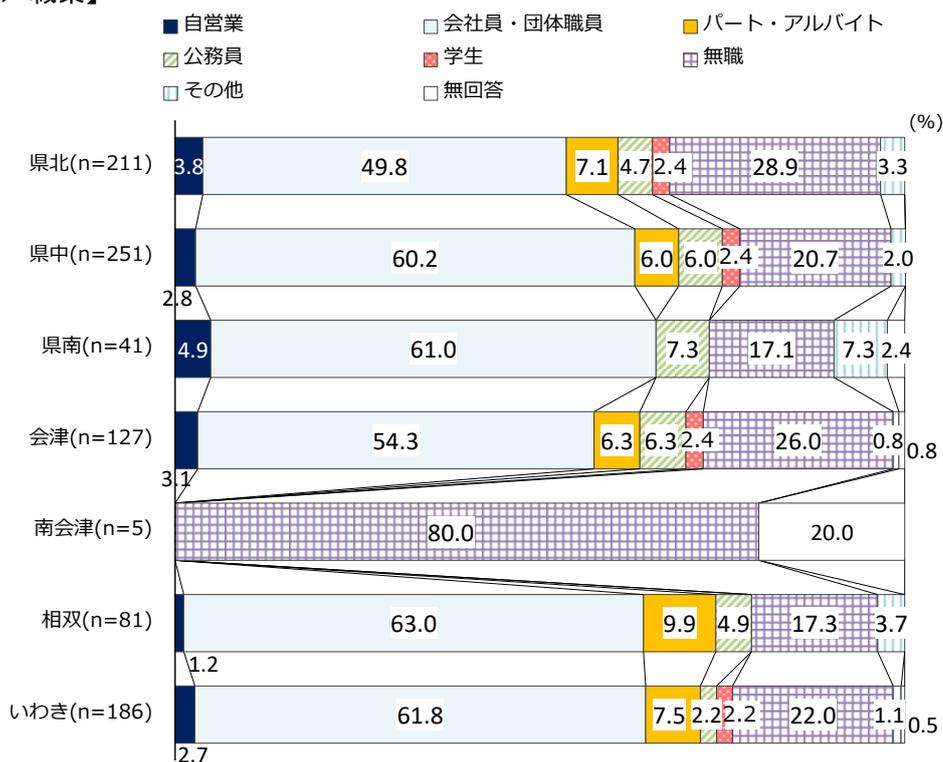


図 16 エリア別職業別割合

職業についてエリア別にみると、南会津以外では、いずれも「会社員・団体職員」の割合が高くなっている。

【性別／職業】

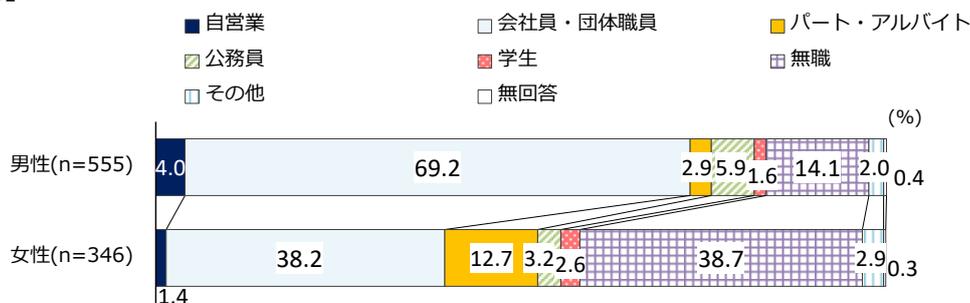


図 17 男女別職業別割合

職業について男女別にみると、男性では「会社員・団体職員」の割合が女性に比べ高く、女性では「パート・アルバイト」「無職」の割合が男性に比べ高くなっている。

(7) 業種

◇業種は「サービス業」が29.4%と最も高い。

Q 5で「1.自営業」「2.会社員・団体職員」「3.パート・アルバイト」と答えた方のみ

Q 5-1 現在の業種について教えてください。

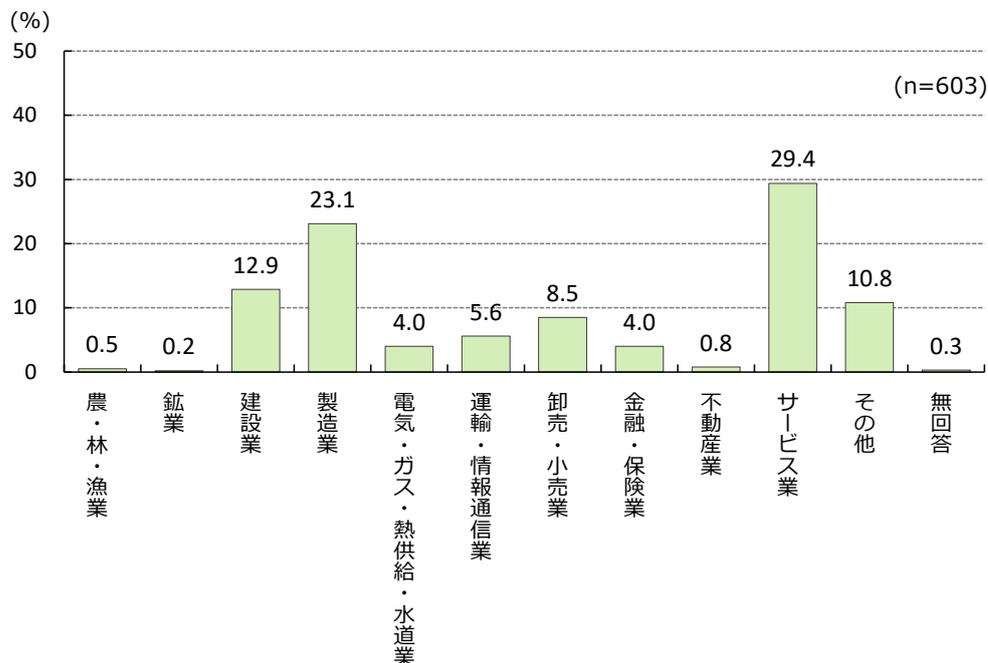


図 18 業種別割合

業種については、「サービス業」の割合が29.4%と最も高く、次いで「製造業」(23.1%)、「建設業」(12.9%)の順となっている。

【性別／業種】

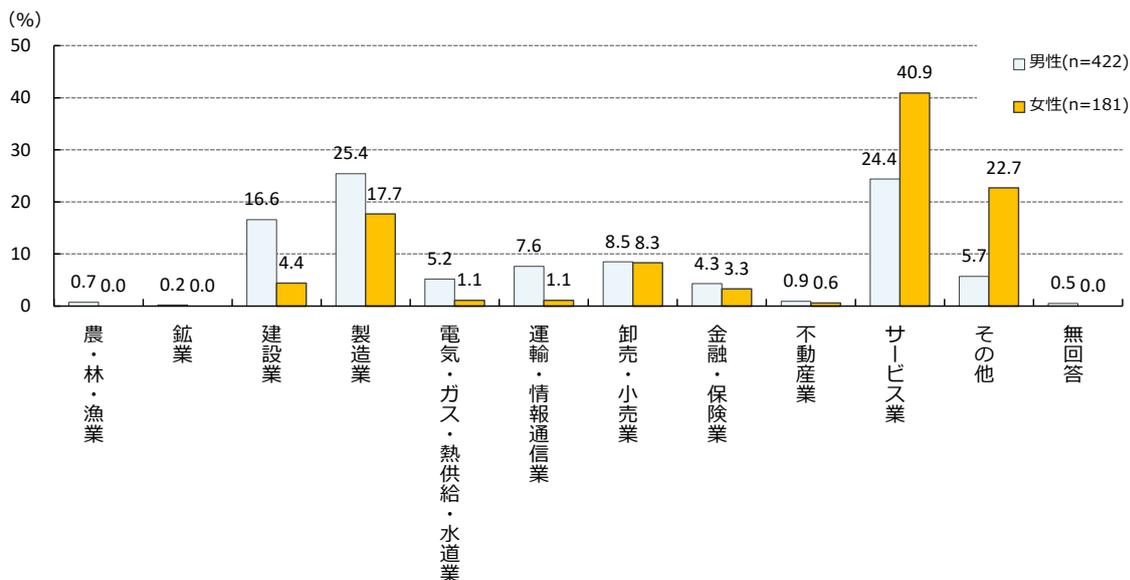


図 19 男女別業種別割合

業種について男女別にみると、男性では「建設業」の割合が女性に比べ特に高いのが目立ち、女性では「サービス業」の割合が男性に比べ高くなっている。

(8) 転入後の求職方法

- ◇「転職前と同じ職業である」(転職していない人)が過半数を占めている。
- ◇転入後の求職方法は「インターネット等で独自に求人情報を探した」が最も高い。

現在、仕事に就いている方(Q5で「1.自営業」「2.会社員・団体職員」「3.パート・アルバイト」「4.公務員」「7.その他」と答えた方)のみ

Q5-2 転入後のご職業をどのように見つけましたか。(複数回答)

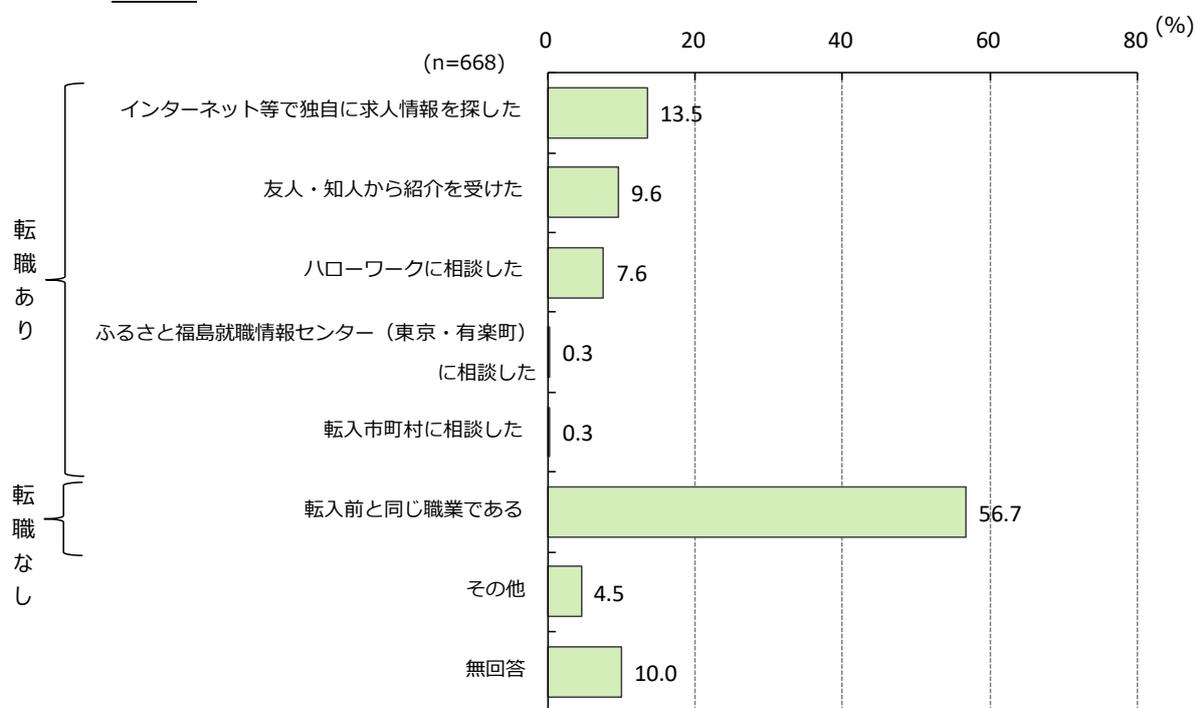


図 20 転入後の求職方法別割合

転入後の職業については、「転職前と同じ職業である」が56.7%となり、転職していない人が過半数を占めている。

転入後の求職方法については、「インターネット等で独自に求人情報を探した」の割合が13.5%と最も高く、次いで「友人・知人から紹介を受けた」(9.6%)、「ハローワークに相談した」(7.6%)の順となっている。

【エリア別／転入後の求職方法】

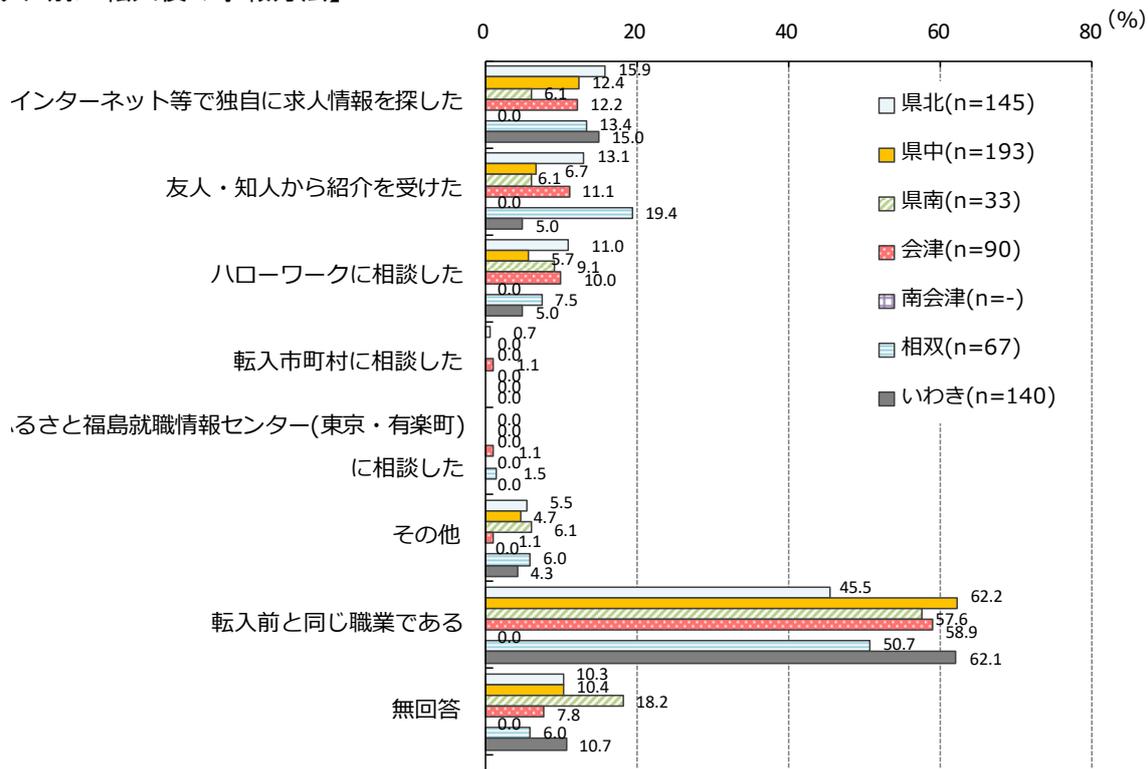


図 21 エリア別転入後の求職方法別割合

転入後の求職方法についてエリア別にみると、相双では「友人・知人から紹介を受けた」の割合が他のエリアに比べ高くなっている。

(9) 転職に当たり気がかりだったこと

◇「収入が下がってしまうこと」が40.1%と最も高い。  
 ◇次いで「希望にかなう内容の仕事が見つからないこと」「求人が少ないこと」等が約2割となっている。

Q5-2で「1.転入市町村に相談した」「2.ハローワークに相談した」「3.友人・知人から紹介を受けた」「4.インターネット等で独自に求人情報を探した」「5.ふるさと福島就職情報センター（東京・有楽町）に相談した」「6.その他」と答えた方のみ

Q5-3 転職に当たり、気がかりだった点がありましたか。（複数回答）

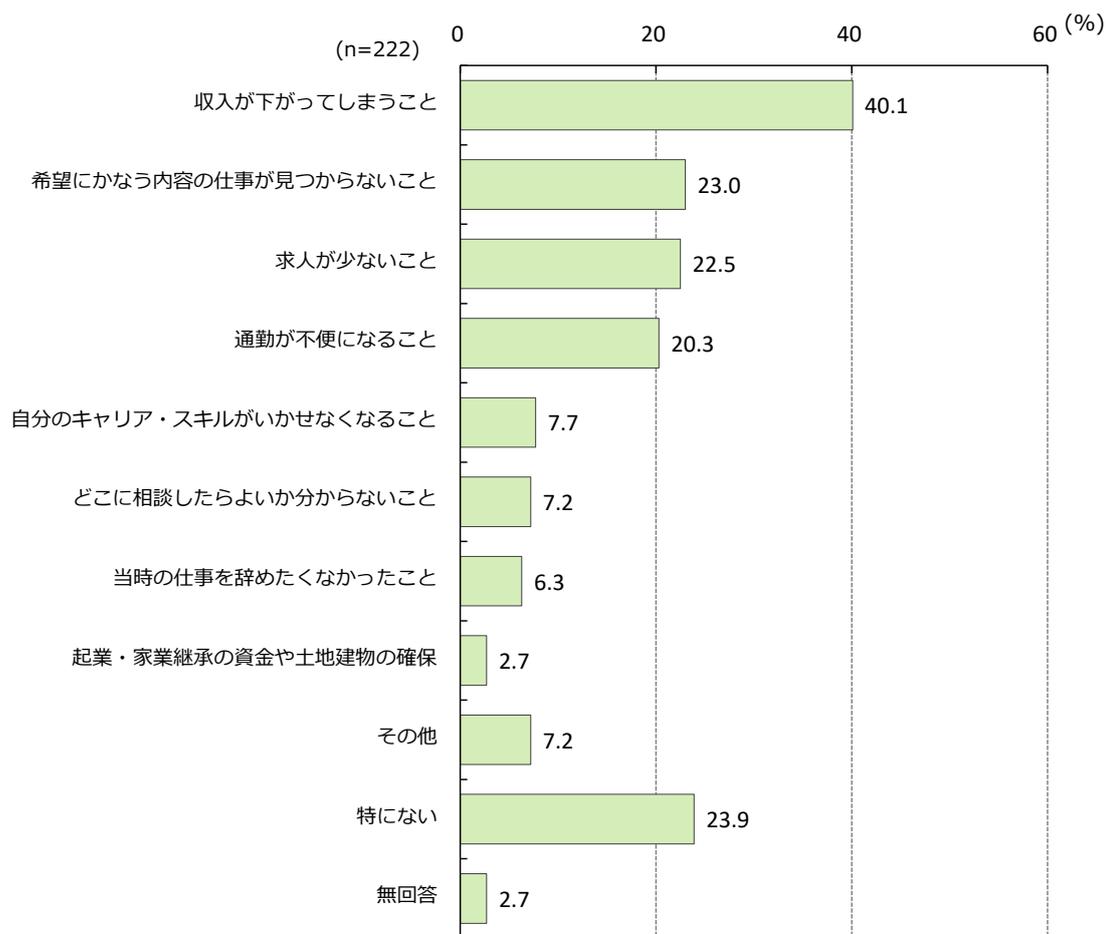


図 22 転職に当たり気がかりだったこと別割合

転職に当たり気がかりだったことについては、「収入が下がってしまうこと」の割合が40.1%と最も高く、次いで「希望にかなう内容の仕事が見つからないこと」(23.0%)、「求人が少ないこと」(22.5%)の順となっている。

【性別／転職に当たり気がかりだったこと】

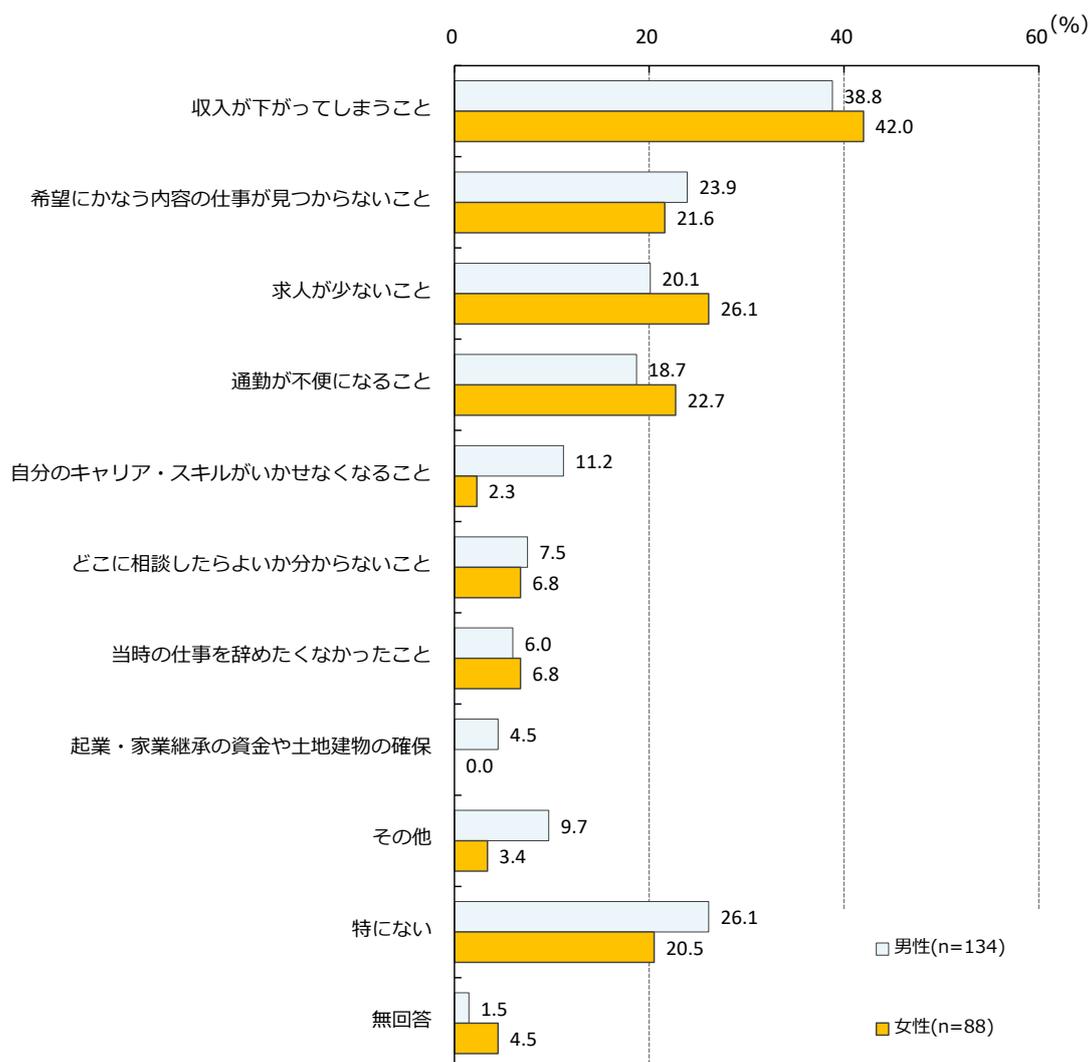


図 23 男女別転職に当たり気がかりだったこと別割合

転職に当たり気がかりだったことについて男女別にみると、男性では「自分のキャリア・スキルがいかせなくなること」の割合が女性に比べ特に高くなっている。

(10) 世帯人数（転入前・転入後）

- ◇転入前・転入後ともに単身世帯が約4割と最も高い。
- ◇転入後は、転入前と比べて2人世帯の割合が増加している。

Q 6 ご自身を含めて、転入前と転入後それぞれ世帯の人数を教えてください。

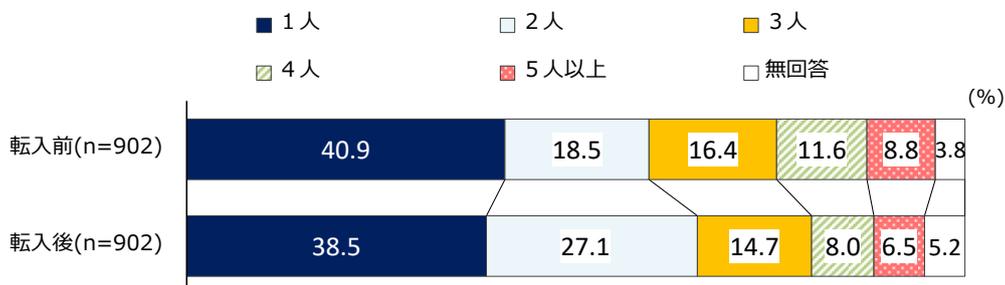
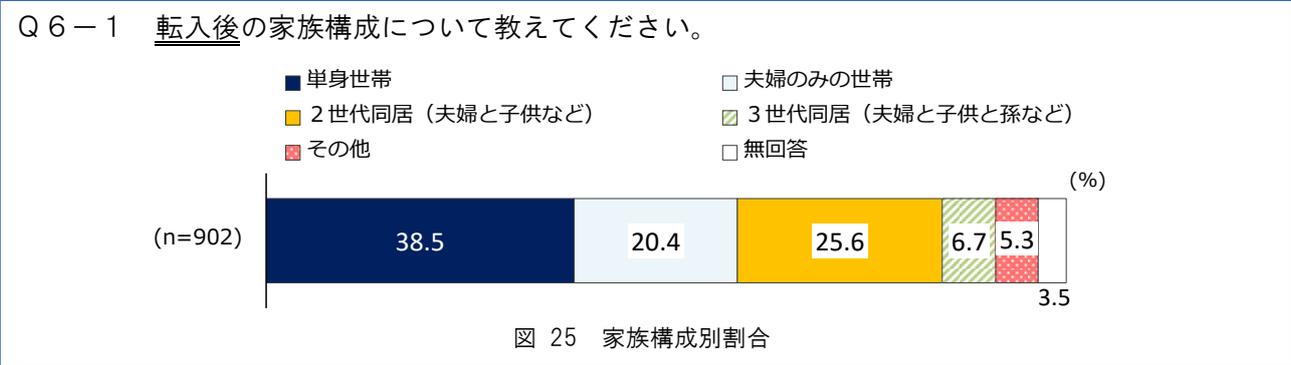


図 24 転入前後の世帯人数別割合

世帯人数については、転入前・転入後ともに「1人」の割合が約4割と最も高い。一方、「2人」についてみると、転入前には約2割であったが、転入後には約3割に増加している。

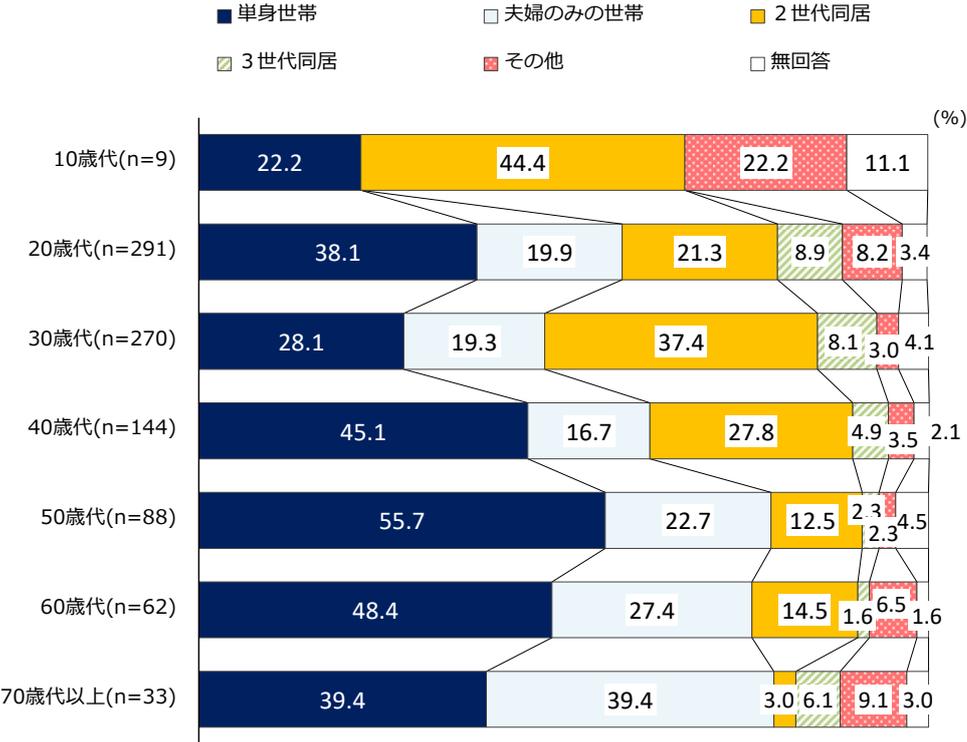
(11) 転入後の家族構成

◇「単身世帯」が38.5%と最も高い。  
 ◇50歳代では「単身世帯」が過半数を占めている。



転入後の家族構成については、「単身世帯」の割合が38.5%と最も高く、次いで「2世代同居（夫婦と子供など）」(25.6%)、「夫婦のみの世帯」(20.4%)の順となっている。

【年齢別／転入後の家族構成】



転入後の家族構成について年齢別にみると、50歳代では「単身世帯」、30歳代では「2世代同居」、70歳代以上では「夫婦のみの世帯」の割合が他の年齢に比べ高くなっている。

【移住者の年齢別／家族構成】

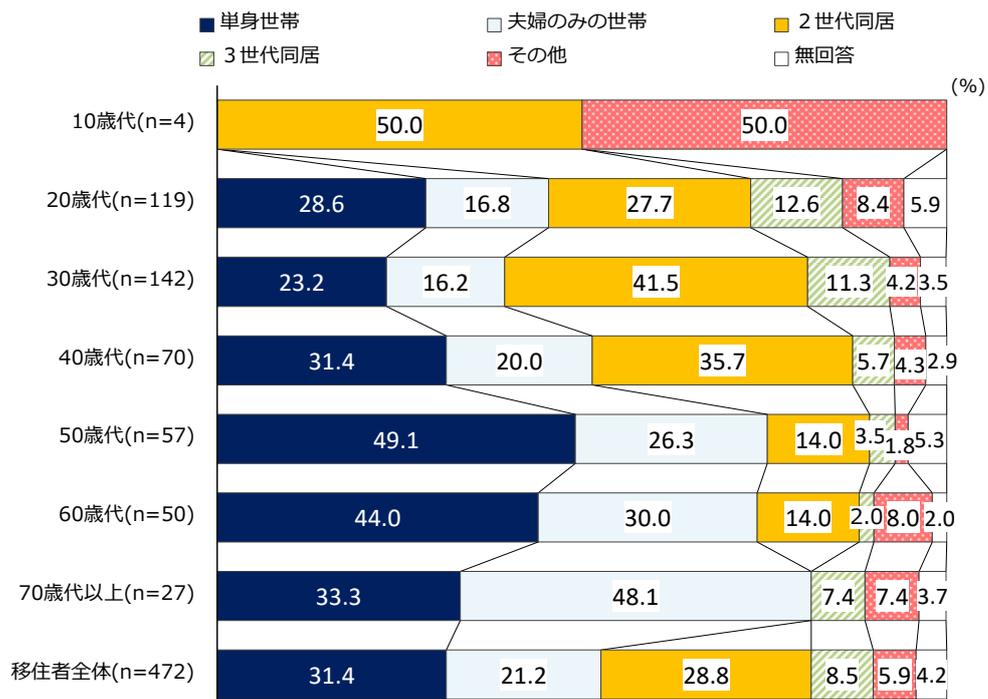


図 27 移住者の年齢別家族構成別割合

移住者の転入後の家族構成について年齢別にみると、50歳代・60歳代では「単身世帯」の割合が他の年齢に比べ高くなっている。

【エリア別／家族構成】

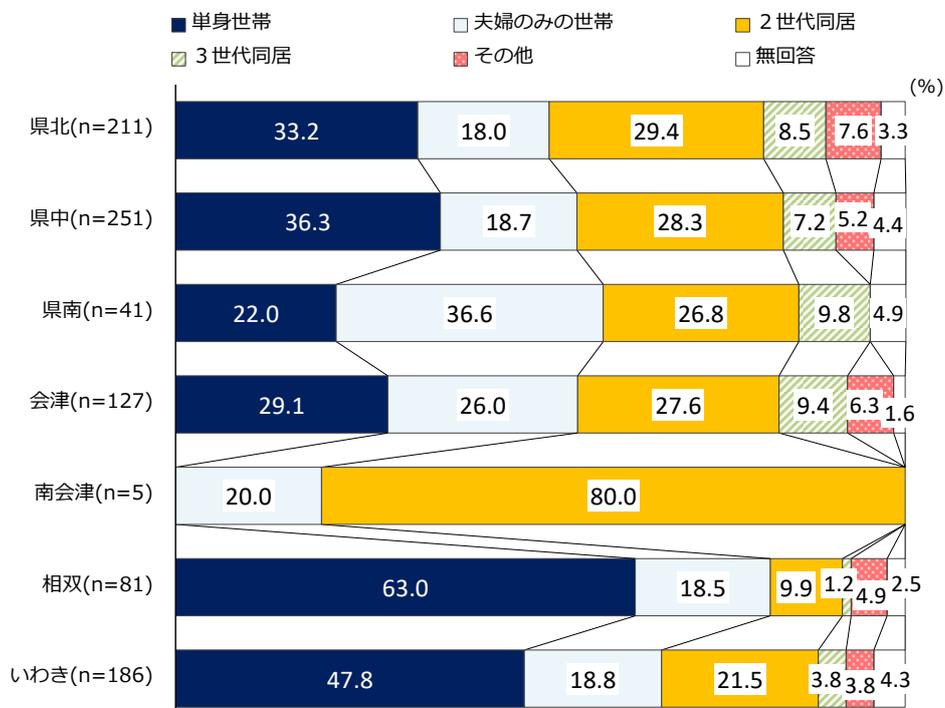


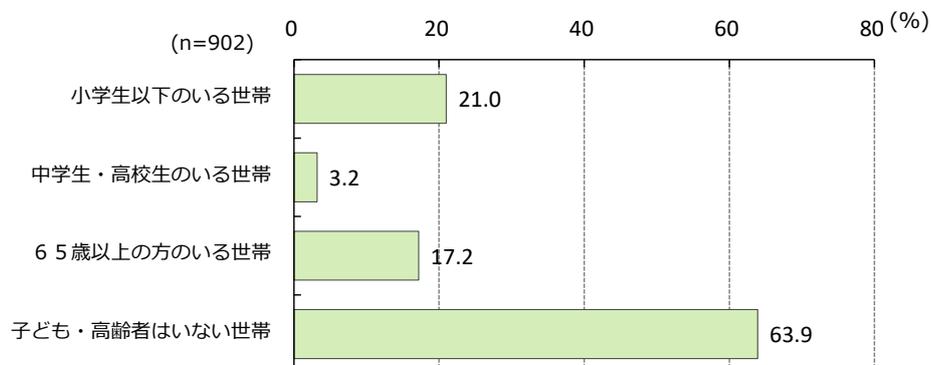
図 28 エリア別家族構成別割合

転入後の家族構成についてエリア別にみると、相双では「単身世帯」、県南では「夫婦のみの世帯」の割合がそれぞれ他のエリアに比べ高くなっている。

(12) 転入後の世帯における子ども・高齢者の有無

- ◇「子ども・高齢者はいない世帯」が約6割を占めている。
- ◇「65歳以上の方のいる世帯」と「小学生以下のいる世帯」は約2割となっている。

Q6-2 そのうち、子ども及び高齢者の人数を教えてください。



※ Q6-2で子ども及び高齢者の人数を記載した世帯数を集計

図 29 転入後の子ども・高齢者のいる世帯別割合

転入後の世帯における子ども・高齢者の有無については、「子ども・高齢者はいない世帯」の割合が約6割を占め最も高く、次いで「小学生以下のいる世帯」(21.0%)、「65歳以上の方のいる世帯」(17.2%)の順となっている。

## 2 今回の転入について

### (1) 転入前住所・出身地住所

- ◇「県外」からの転入が約7割を占めている。
- ◇転入者の約半数は県内出身者となっている。

Q 7 転入前の住所及び出身地の住所について教えてください。

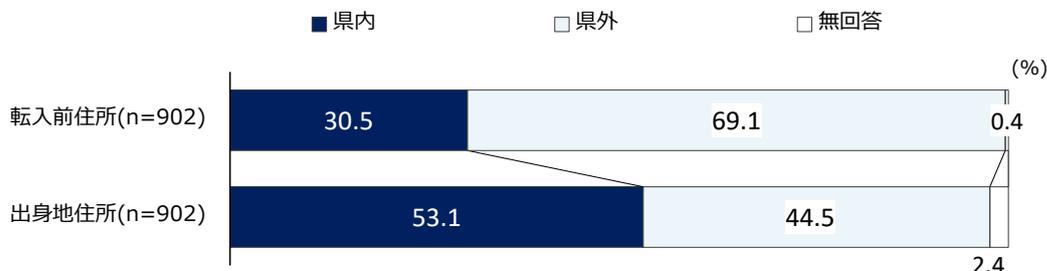


図 30 転入前住所・出身地住所別割合

転入前住所をみると、「県外」が69.1%と、「県内」(30.5%)を上回っている。

出身地住所については、「県内」が53.1%、「県外」が44.5%となっており、転入者の半数以上は県内出身者となっている。

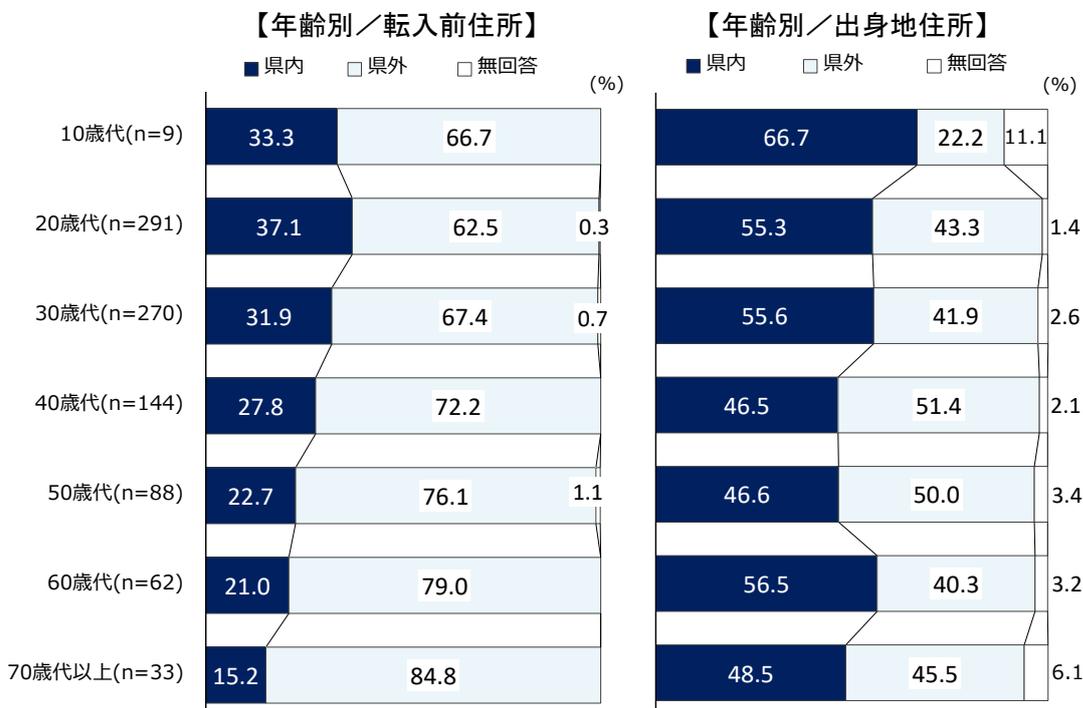


図 31 年齢別転入前住所・出身地住所別割合

転入前住所について年齢別にみると、20歳代から70歳代以上にかけて、年齢が高くなるにつれ「県内」の割合が低下している。

出身地住所について年齢別にみると、40歳代及び50歳代以外は「県内」の割合が高くなっている。

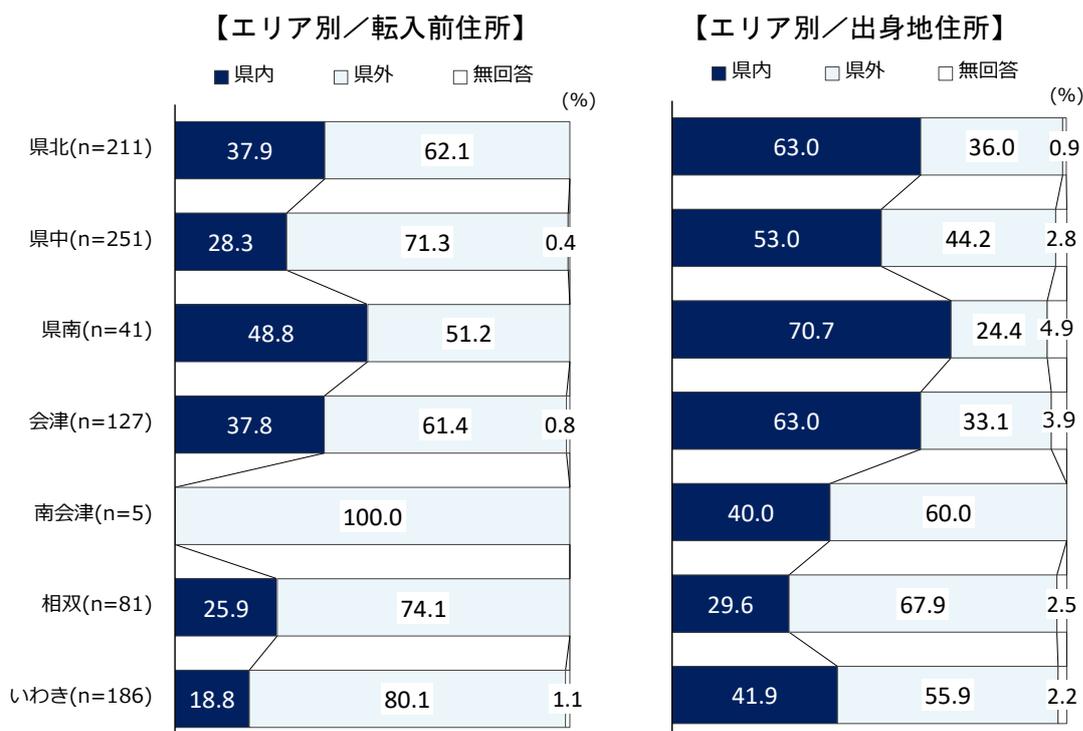


図 32 エリア別転入前住所・出身地住所別割合

転入前住所についてエリア別にみると、「県内」の割合では、県南が他のエリアに比べ最も高く、「県外」では南会津・いわきが他のエリアに比べ高くなっている。

出身地住所についてエリア別にみると、「県内」の割合では、県南が他のエリアに比べ最も高く、「県外」では相双が他のエリアに比べ最も高くなっている。

(2) 移動パターン

- ◇「Iターン者」が約4割を占めている。
- ◇「福島県内出身者による県内移動者」「Uターン者」はともに全体の4分の1程度となっている。
- ◇移住者のみでみた場合では、「福島県内出身者による県内移動者」「Uターン者」「Iターン者」ともに約3割ずつとなっている。

<移動パターンの定義>

※Q7の転入前住所及び出身地住所に対する回答から、以下のとおり移動パターンの分類を行った。

- ①福島県内出身者による県内移動者：出身地・転入前の居住地がともに県内の人
- ②Uターン者：出身地が県内で転入前の居住地は県外の人（県外には「その他」含む）
- ③Iターン者：転入前の居住地に関わらず出身地が県外の人（県外には「その他」含む）

表1 移動パターン別回答者数

		転入前の居住地			計
		県内	県外	無回答	
出身地	県内	①233(25.8%)	②246(27.3%)	0(0.0%)	479(53.1%)
	県外	③40(4.5%)	③361(40.0%)	0(0.0%)	401(44.5%)
	無回答	2(0.2%)	16(1.8%)	4(0.4%)	22(2.4%)
	計	275(30.5%)	623(69.1%)	4(0.4%)	902(100.0%)

【転入者全体の移動パターン】

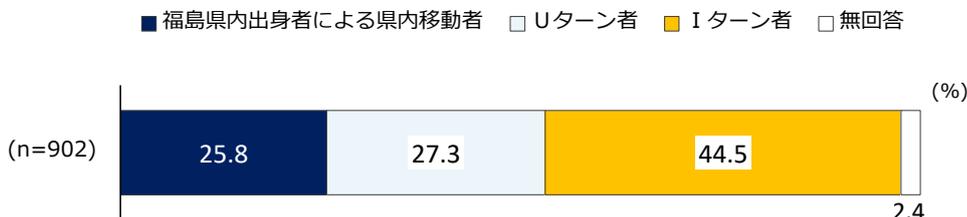


図 33 転入者全体の移動パターン別割合

【移住者（5年以上の居住継続意向がある者）の移動パターン】

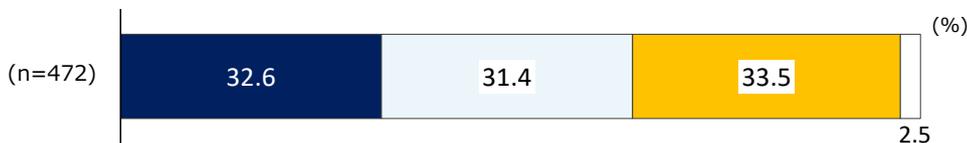


図 34 移住者の移動パターン別割合

移動パターンについては、転入者全体では「Iターン者」の割合が401人（44.5%）と最も多く、次いで「Uターン者」が246人（27.3%）、「福島県内出身者による県内移動者」が233人（25.8%）となっている。

移住者の移動パターンについてみると、全体の移動パターンに比べ「Iターン者」の割合が低くなり、「福島県内出身者による県内移動者」「Uターン者」「Iターン者」ともに約3割ずつとなっている。

【年齢別／移動パターン】

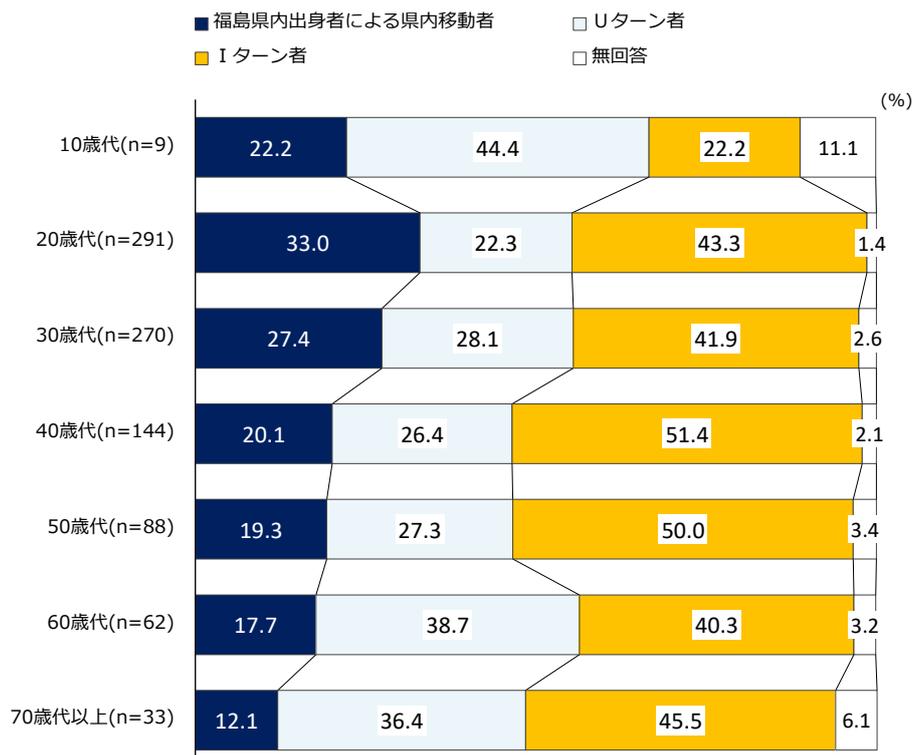


図 35 年齢別移動パターン別割合

移動パターンについて年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ「福島県内出身者による県内移動者」の割合が低下している。

【移住者の年齢別／移動パターン】

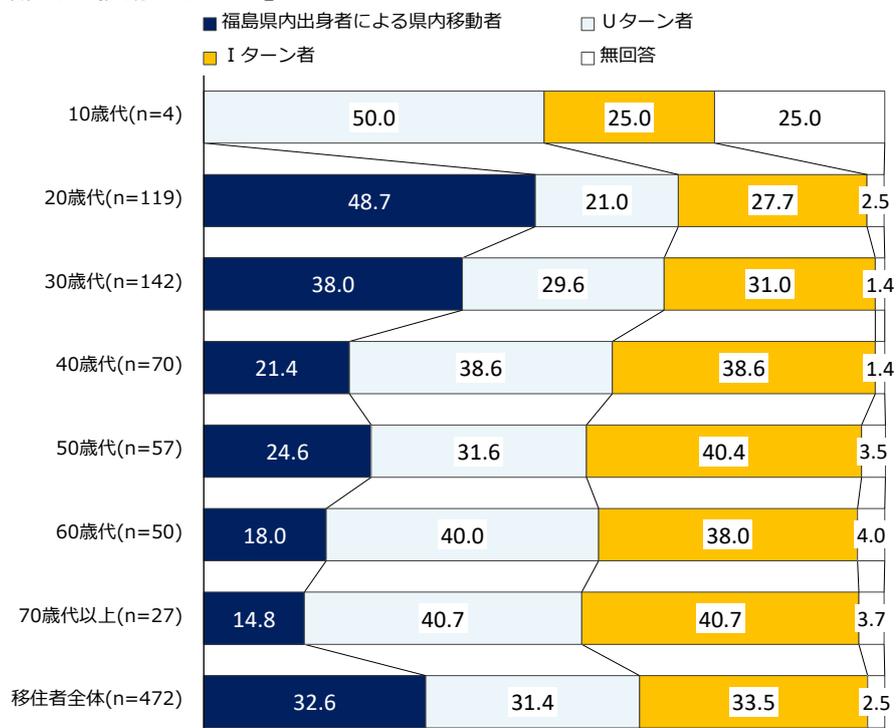


図 36 移住者の年齢別移動パターン別割合

移住者の移動パターンについて年齢別にみると、20歳代では「福島県内出身者による県内移動者」の割合が5割近くを占めている。

【エリア別／移動パターン】

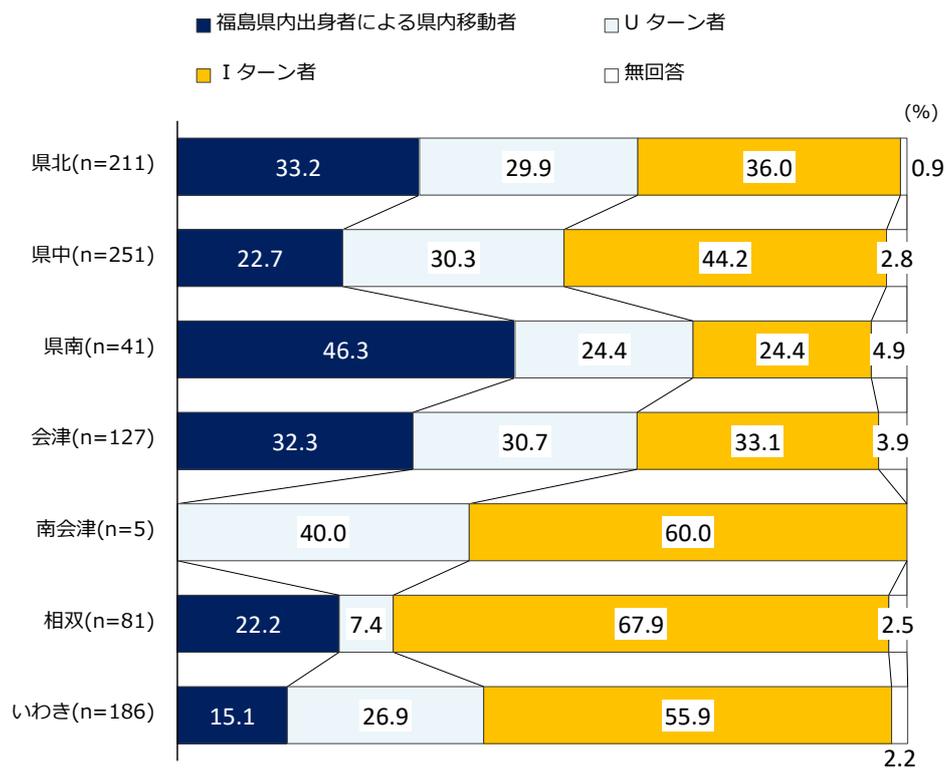


図 37 エリア別移動パターン別割合

移動パターンについてエリア別にみると、県南では「福島県内出身者による県内移動者」の割合が他のエリアに比べ最も高く、相双では「Iターン者」が他のエリアに比べ最も高くなっている。

(3) 転入した理由

◇転入した理由は「転勤による転入」が32.2%と最も高く、20～50歳代では3～4割を占めている。  
 ◇20～50歳代の1ターン者では「転勤による転入」が約4～6割を占めている。  
 ◇移住者のうち1ターン者では、「親族との同居に伴う転入」が高く、1ターン者では、「転勤による転入」のほか「結婚に伴う転入」「社会人の就職・転職・起業による転入」が高くなっている。

Q 8 転入理由について教えてください。(複数回答)

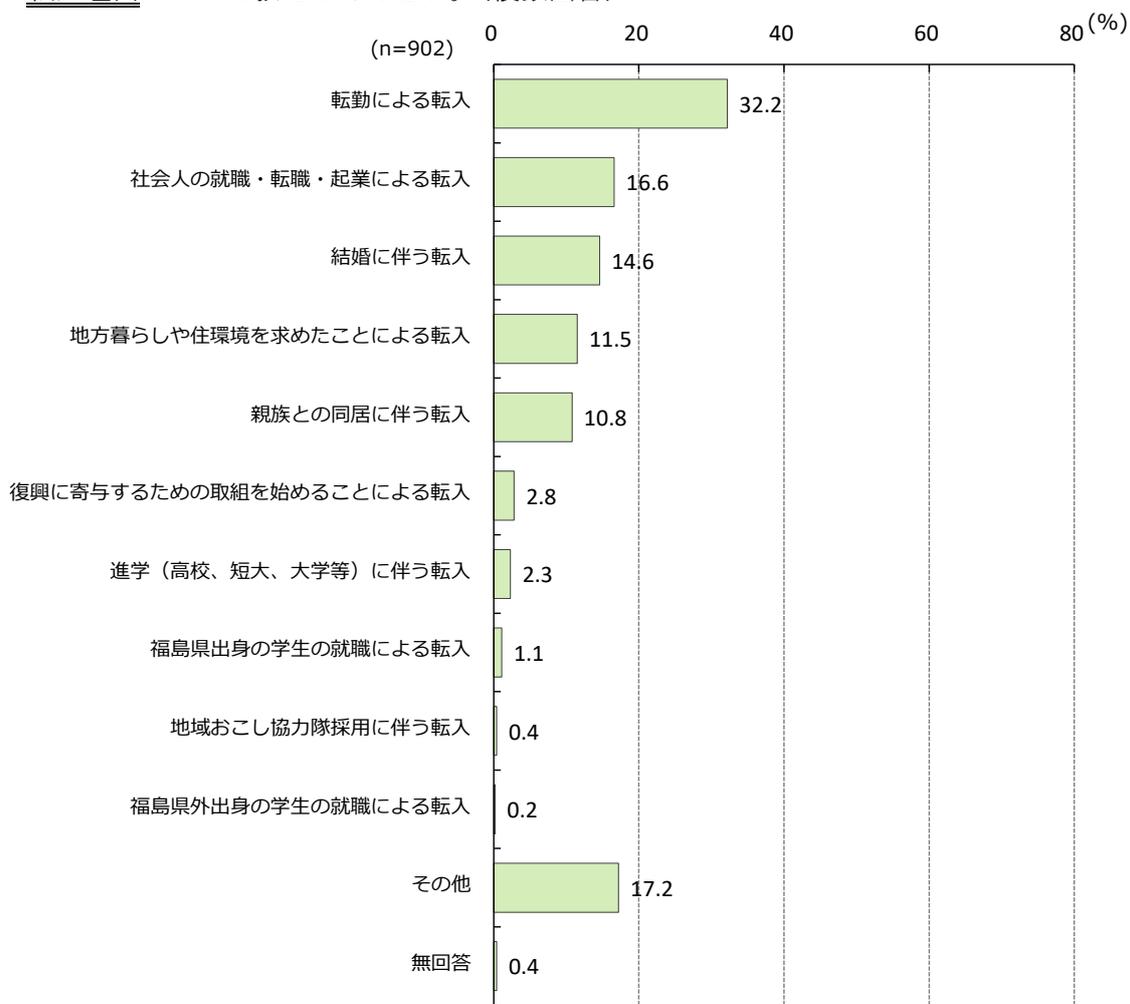


図 38 転入した理由別割合

転入した理由については、「転勤による転入」の割合が32.2%と最も高く、次いで「社会人の就職・転職・起業による転入」(16.6%)、「結婚に伴う転入」(14.6%)の順となっている。

【年齢別／転入した理由】

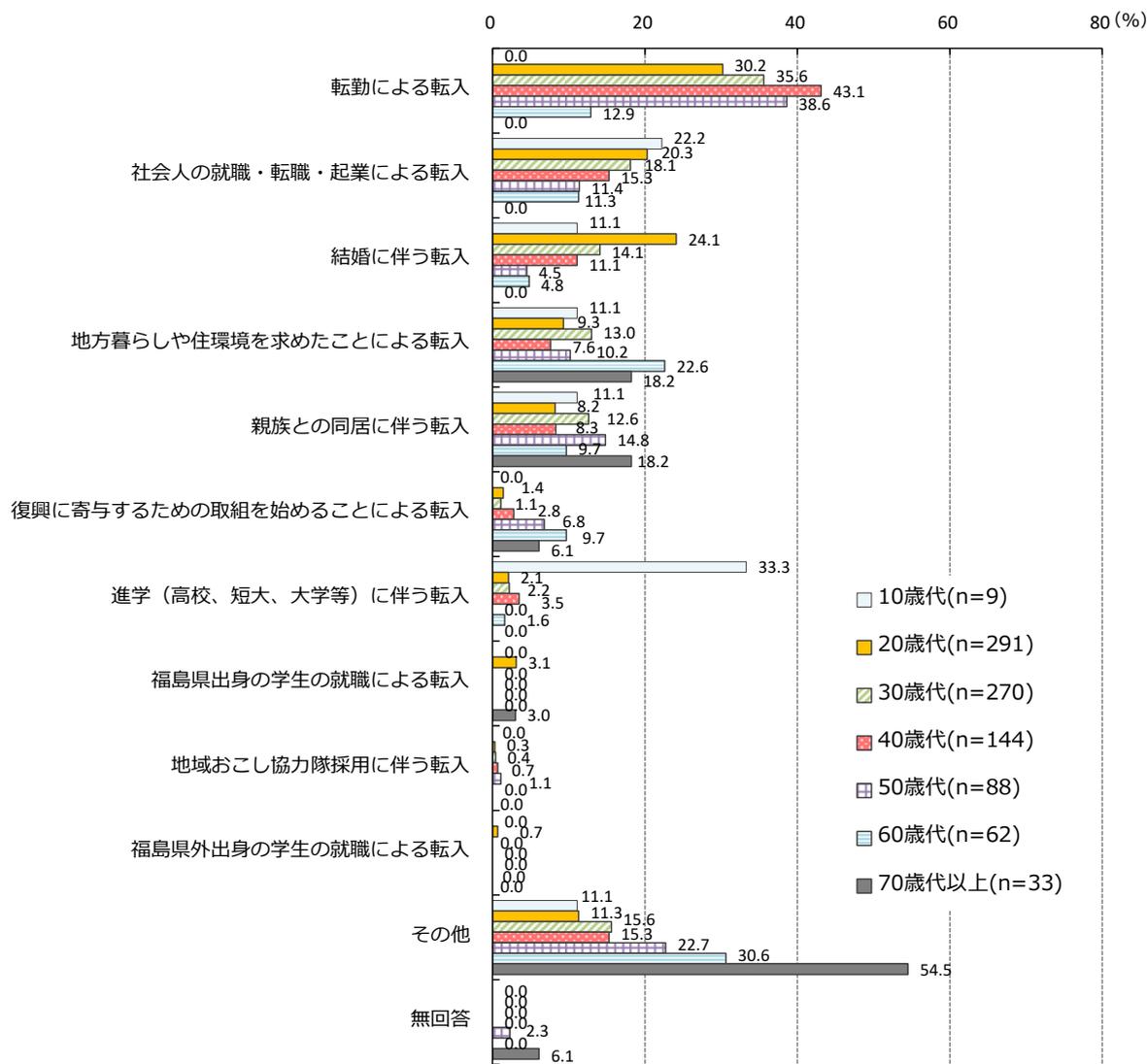


図 39 年齢別転入した理由別割合

転入した理由の割合を年齢別にみると、「転勤による転入」は40歳代が最も高く、20歳代、30歳代、50歳代も3割を超えている。また、年齢が高くなるにつれ「社会人の就職・転職・起業による転入」が低下している。

20歳代では「結婚に伴う転入」が他の年齢に比べ最も高くなっている。一方、60歳代、70歳代以上では「地方暮らしや住環境を求めたことによる転入」が他の年齢に比べ高くなっている。

【移動パターン・年齢別／転入した理由】

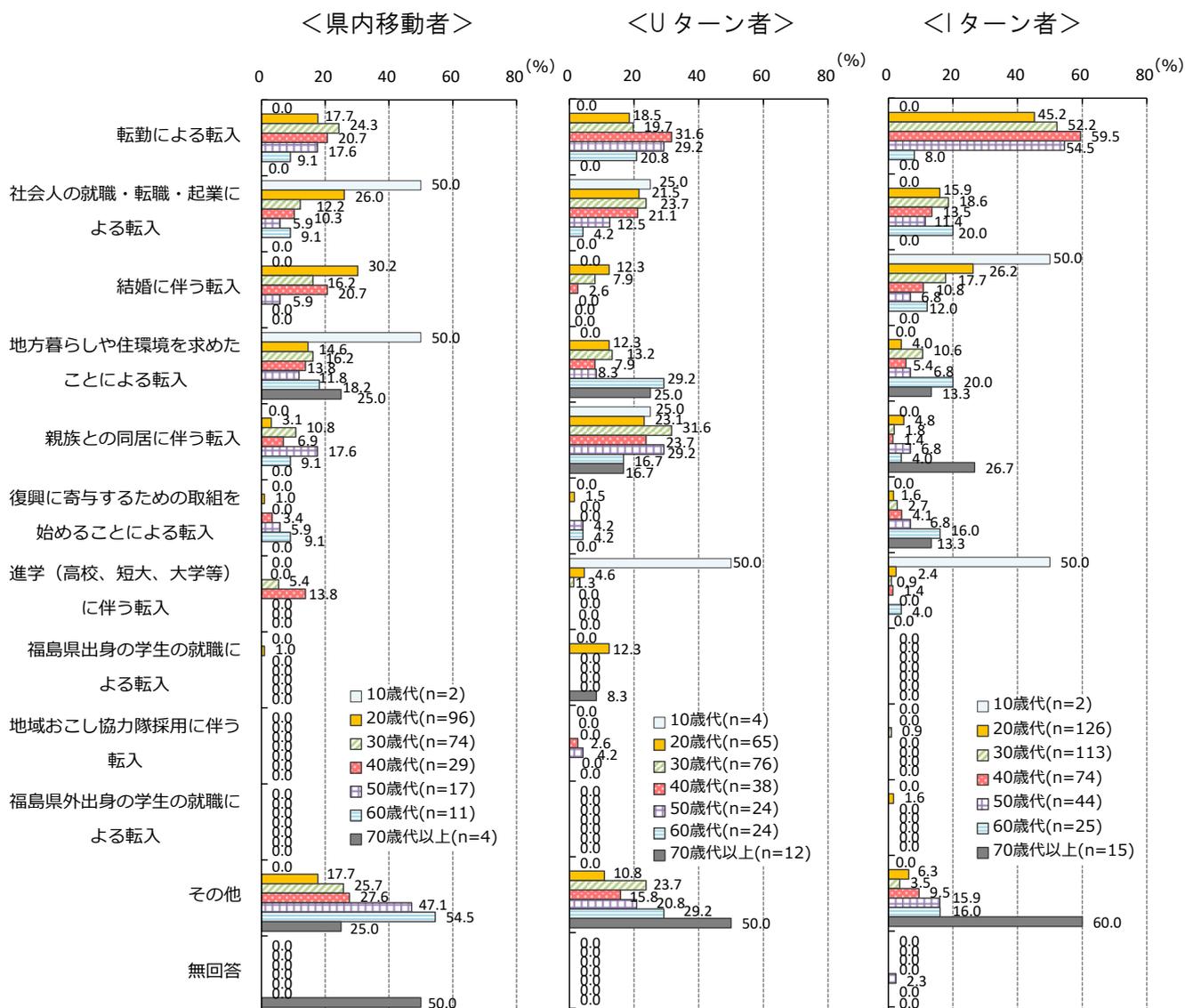


図 40 移動パターン・年齢別転入した理由別割合

転入した理由について移動パターン・年齢別にみると、20～50 歳代の I ターン者では「転勤による転入」の割合が他の移動パターンに比べ高くなっている。

一方、10～30 歳代の U ターン者では「親族との同居に伴う転入」が他の年齢及び移動パターンに比べ高くなっている。

【エリア別／転入した理由】

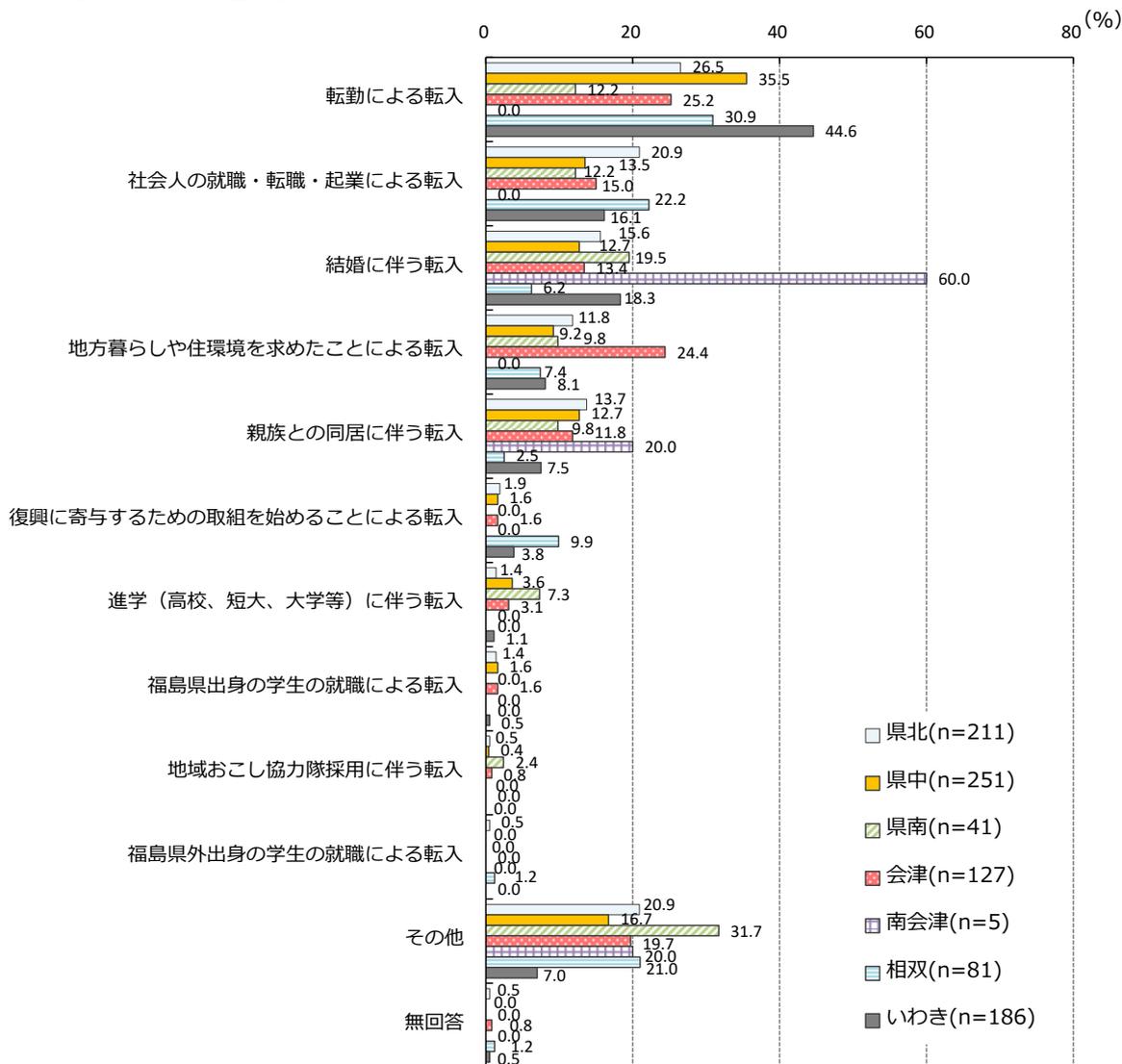


図 41 エリア別転入した理由別割合

転入した理由をエリア別にみると、いわきでは「転勤による転入」の割合が他のエリアに比べ最も高く、会津では「地方暮らしや住環境を求めたことによる転入」が他のエリアに比べ最も高くなっている。

【移住者の移動パターン別／転入した理由】

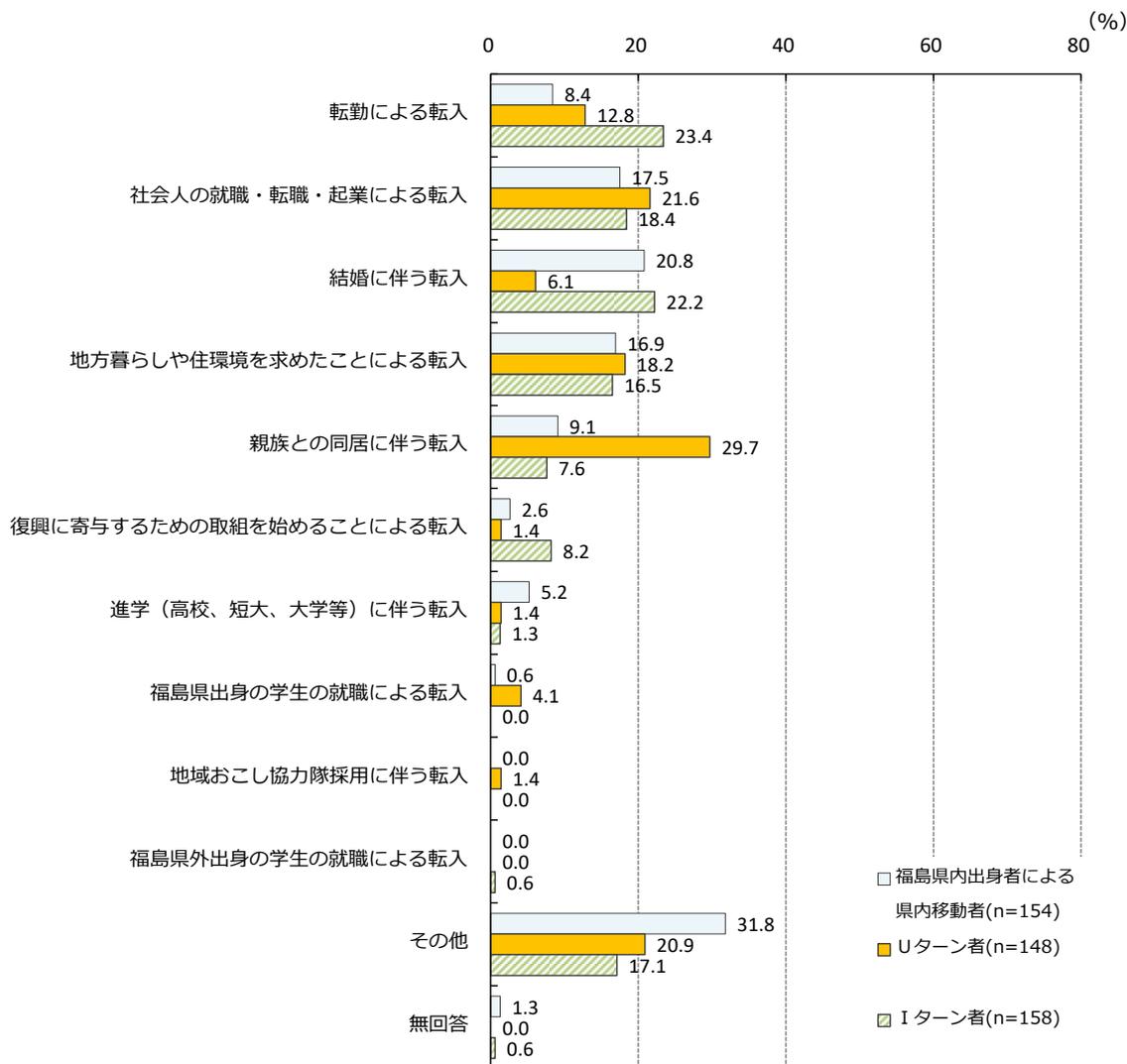


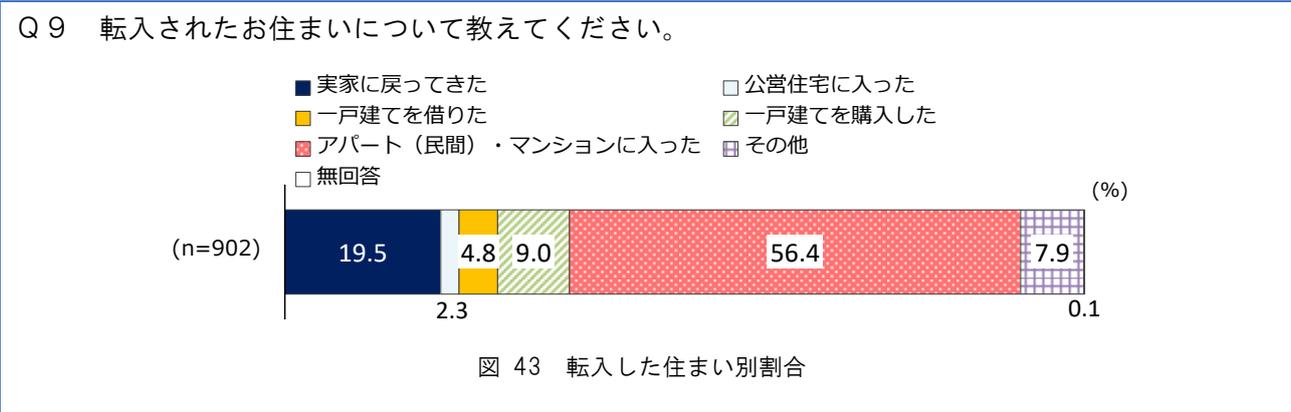
図 42 移住者の移動パターン別転入した理由別割合

移住者の転入した理由を移動パターン別にみると、Uターン者では「親族との同居に伴う転入」の割合が他の移動パターンに比べ特に高くなっている。

また、Iターン者では「転勤による転入」に次いで「結婚に伴う転入」、「社会人の就職・転職・起業による転入」の順に高く、特に「転勤による転入」「復興に寄与するための取組を始めることによる転入」の割合が他の移動パターンに比べ高くなっている。

(4) 転入した住まい

◇「アパート（民間）・マンションに入った」が過半数を占めている。



転入した住まいをみると、「アパート（民間）・マンションに入った」が56.4%と過半数を占め、次いで「実家に戻ってきた」（19.5%）、「一戸建てを購入した」（9.0%）の順となっている。

【年齢別／転入した住まい】

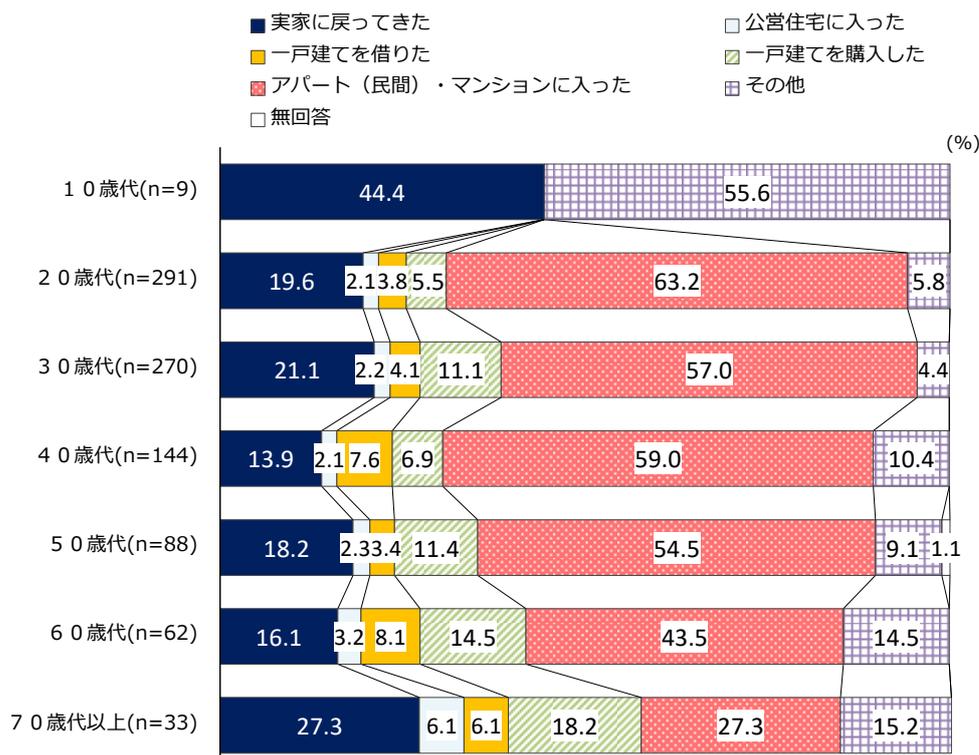


図 44 年齢別転入した住まい別割合

移住者の転入後の住まいについて年齢別にみると、20歳代から70歳代以上にかけて、おおむね年齢が高くなるにつれ「アパート（民間）・マンションに入った」の割合が低下している。

【エリア別／転入した住まい】

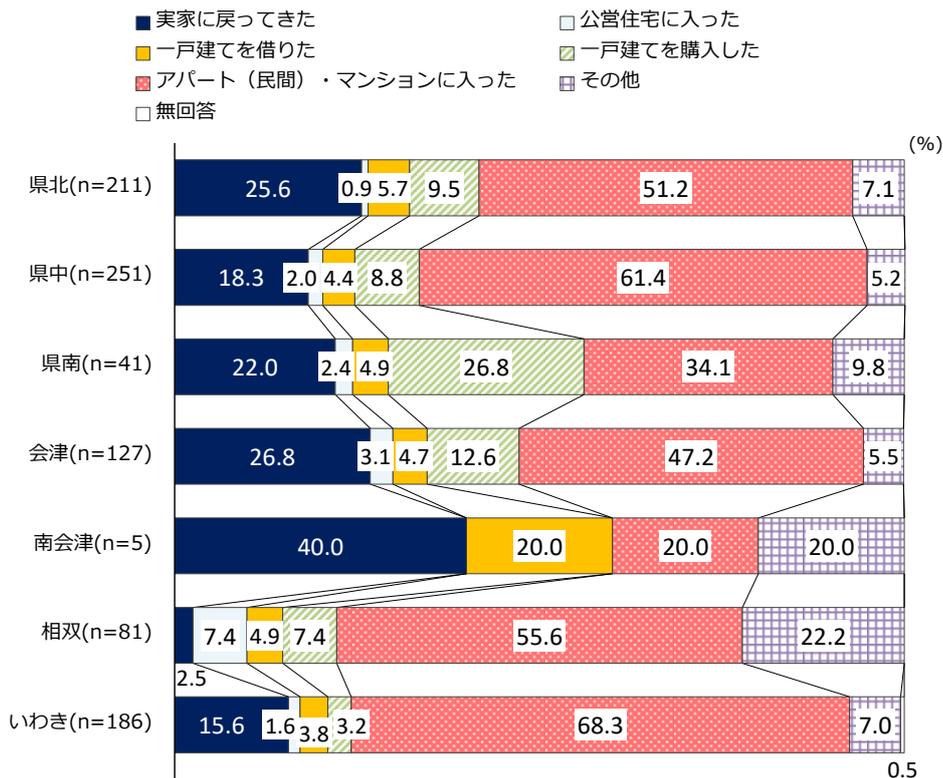


図 45 エリア別転入した住まい別割合

転入した住まいについてエリア別にみると、県南では「一戸建てを購入した」の割合が他のエリアに比べ最も高く、いわきでは「アパート（民間）・マンションに入った」が他のエリアに比べ最も高くなっている。

【居住継続意向別／転入した住まい】

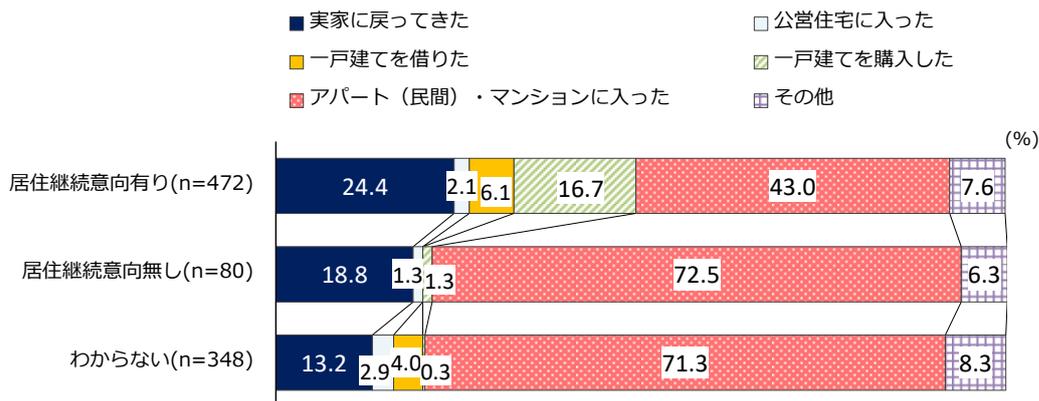


図 46 居住継続意向別転入した住まい別割合

転入した住まいについて居住継続意向別にみると、居住継続意向有りでは、居住継続意向無しに比べ「一戸建てを購入した」の割合が高く、「アパート（民間）・マンションに入った」の割合は低くなっている。

【職業別／転入した住まい】

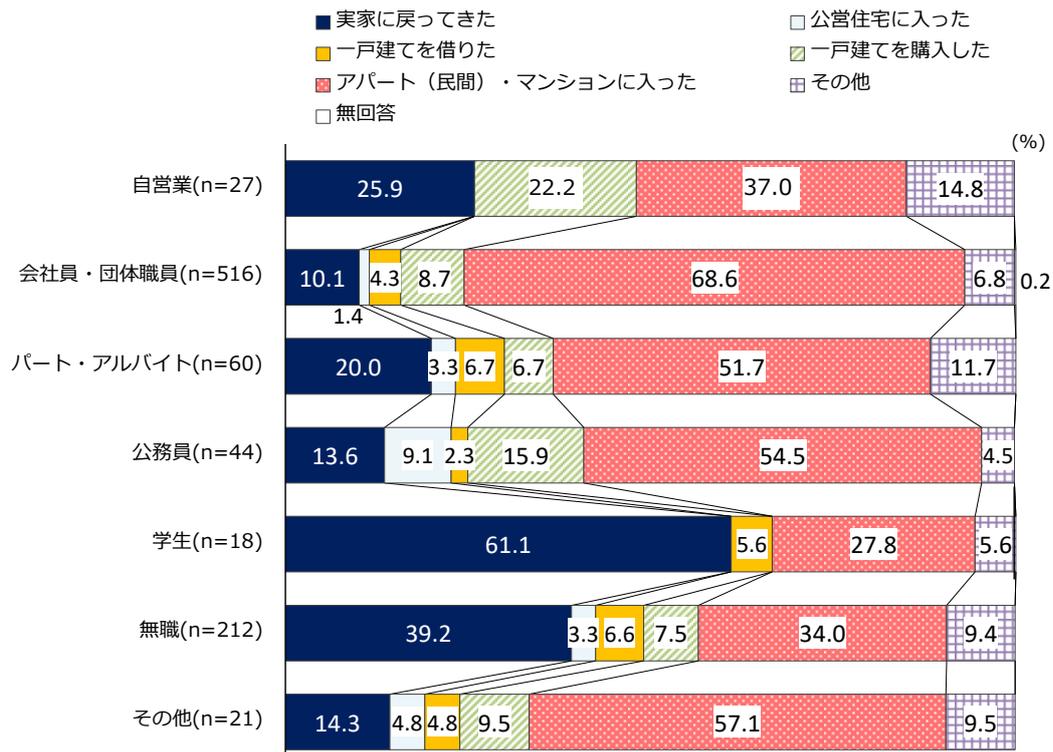


図 47 職業別転入した住まい別割合

転入した住まいを職業別にみると、会社員・団体職員では「アパート（民間）・マンションに入った」の割合が他の職業に比べ最も高く、学生・無職では「実家に戻ってきた」が他の職業に比べ高くなっている。

(5) 空き家の購入（賃借）

◇空き家を購入（賃借）していない人が約7割を占めている。

Q10 転入される際、空き家の購入（賃借）について教えてください。

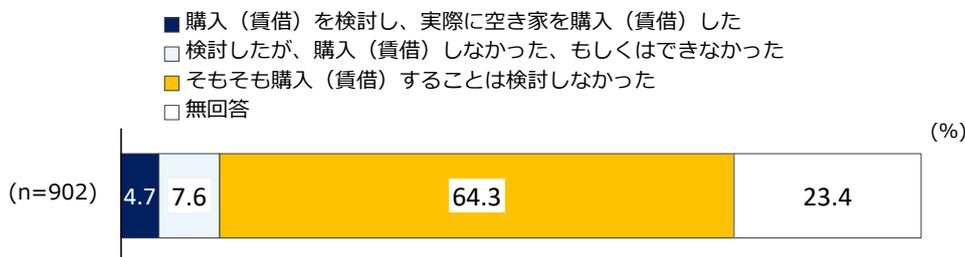


図 48 空き家の購入（賃借）状況別割合

空き家の購入については、「そもそも空き家を購入（賃借）することは検討しなかった」（64.3%）と「空き家の購入（賃借）を検討したが、購入（賃借）しなかった、もしくはできなかった」（7.6%）と合わせ、空き家の購入（賃借）をしていない人が約7割を占めている。

一方、「空き家の購入（賃借）を検討し、実際に空き家を購入（賃借）した」は4.7%となり、1割未満となっている。

【家族構成別／空き家の購入（賃借）】

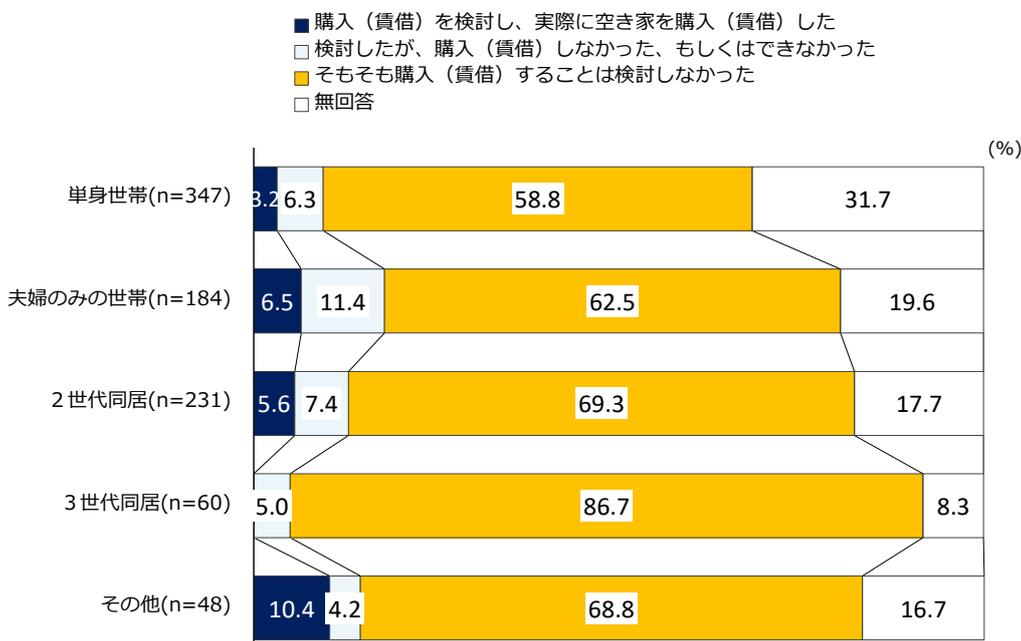


図 49 家族構成別空き家の購入（賃借）状況別割合

空き家の購入（賃借）について家族構成別にみると、いずれも「そもそも空き家を購入（賃借）することは検討しなかった」の割合が高くなっている。

【居住継続意向別／空き家の購入（賃借）】

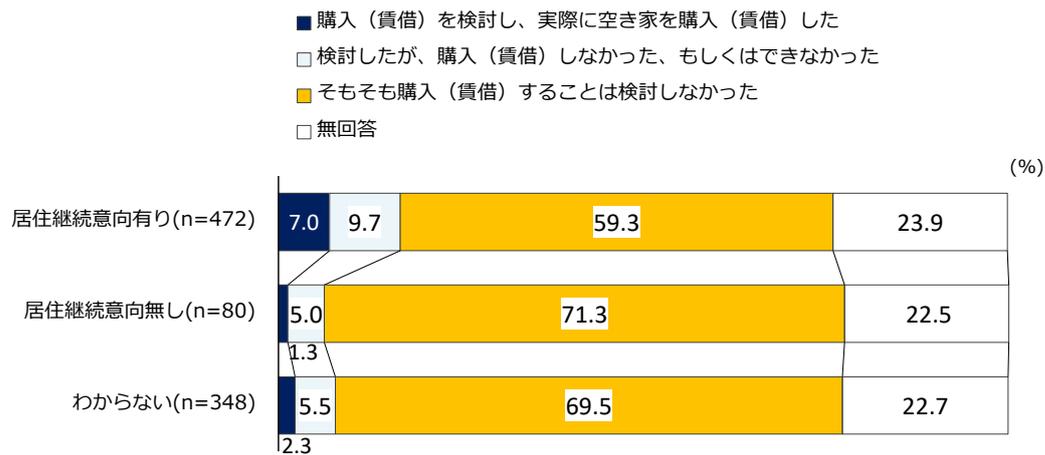


図 50 居住継続意向別空き家の購入（賃借）状況別割合

空き家の購入（賃借）について居住継続意向別にみると、居住継続意向無し又はわからないと回答した人では、「そもそも空き家を購入（賃借）することは検討しなかった」の割合が居住継続意向有りに比べ高くなっている。

(6) 空き家を購入（賃借）しなかった（できなかった）理由

◇「自分の希望する間取りや広さの物件がなかったから」「住みたいエリア・立地環境に、希望する物件がなかったから」が37.7%と最も高い。

Q10で「2 空き家の購入（賃借）を検討したが、購入（賃借）しなかった、もしくはできなかった」と答えた方のみ

Q10-1 空き家を購入（賃借）しなかった、できなかった理由を教えてください。（複数回答）

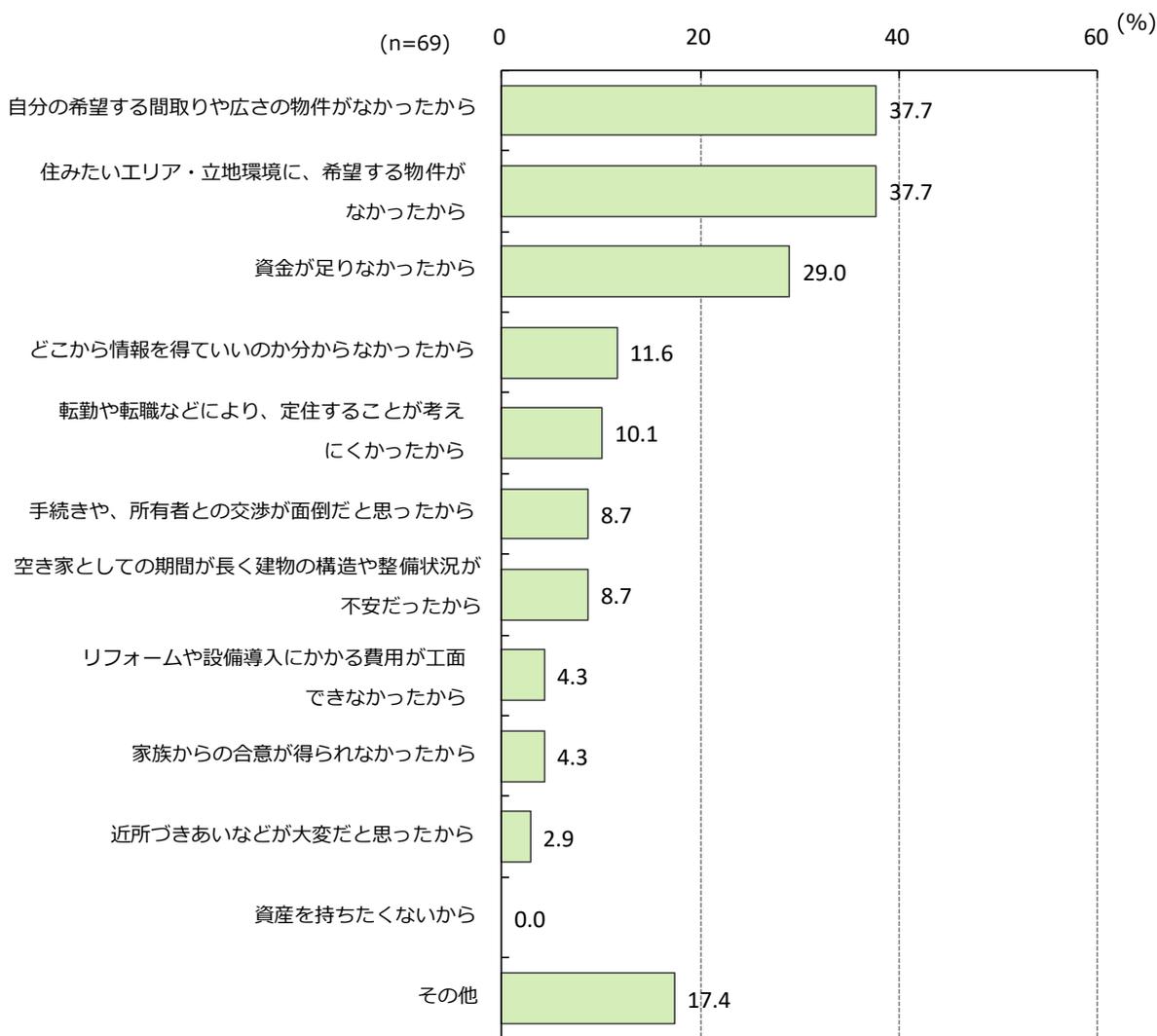


図 51 空き家を購入（賃借）しなかった（できなかった）理由別割合

空き家を購入（賃借）しなかった（できなかった）理由をみると、「自分の希望する間取りや広さの物件がなかったから」「住みたいエリア・立地環境に、希望する物件がなかったから」がともに 37.7%と最も割合が高く、次いで「資金が足りなかったから」(29.0%)となっている。

(7) 転入時に自治体の移住支援を受けたか

◇自治体の移住支援を受けなかった人が9割以上を占めている。

Q11 転入する際、自治体の移住支援を受けましたか。「はい」と答えた方は、具体的にどのような移住支援を受けたか教えてください。

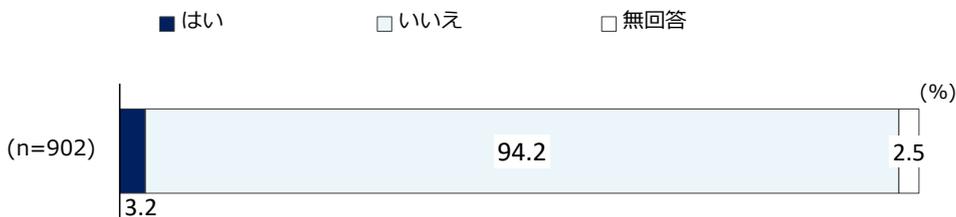


図 52 自治体の移住支援別割合

転入時に自治体の移住支援を受けたかについては、「いいえ」が94.2%と、自治体の移住支援を受けなかった人が9割以上を占めている。

【エリア別／転入時に自治体の移住支援を受けたか】



図 53 エリア別自治体の支援別割合

転入時に自治体の移住支援を受けたかについてエリア別にみると、南会津・相双では転入時に自治体の移住支援を受けた割合が他のエリアに比べて高くなっている。

【移動パターン別／転入時に自治体の移住支援を受けたか】

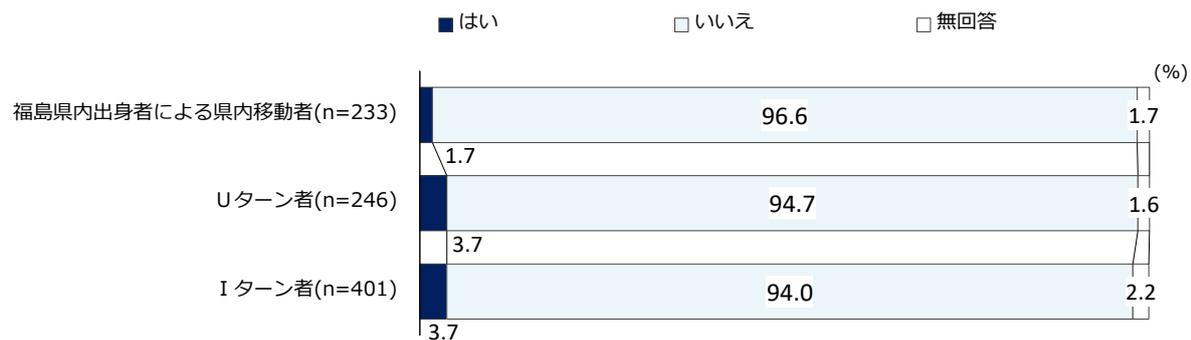


図 54 移動パターン別自治体の支援別割合

転入時に自治体の移住支援を受けたかについて、移動パターン別での特徴的な差はみられない。

(8) 転入時の自治体対応の評価

◇良い評価の件数が悪い評価の件数を大きく上回る。

Q12 転入する際、(転入前の相談等も含め、) 自治体の対応はいかがでしたか。 (自由記述)

表2 転入時の自治体対応評価表

対応の評価		良い評価の内容	
良い	285 件	丁寧・親切・親身	170 件
悪い	49 件	良かった・満足	50 件
普通	45 件	スムーズ・迅速	36 件
その他	8 件	分かりやすい	29 件
対応を受けていない	63 件	感じが良い・歓迎されている	12 件
		その他	17 件
		悪い評価の内容	
		時間がかかった	16 件
		感じが悪い・素気ない	8 件
		担当者が不慣れ	6 件
		わかりにくい・答えが曖昧	5 件
		制度に不満	5 件
		手間がかかった	2 件
		その他	9 件

※自由記述の内容を複数回答として分類。

良い評価と悪い評価が両方記述されていた場合は、それぞれ1件ずつカウントしている。

転入時の自治体対応の評価については、「良い」が285件、「悪い」が49件と、「良い」が「悪い」の件数を大きく上回っている。

良い評価の内容をみると、「丁寧・親切・親身」が170件と最も多く、次いで「良かった・満足」(50件)、「スムーズ・迅速」(36件)の順となっている。

一方、悪い評価の内容をみると、「時間がかかった」が16件と最も多く、次いで「感じが悪い・素気ない」(8件)、「担当者が不慣れ」(6件)の順となっている。

**(9) 今後の居住継続意向**

◇5年以上住む考えを持っている人が過半数。  
 ◇「わからない」も4割近くを占めている。

Q13 今回の転入市町村に概ね5年以上住むお考え（予定を含む）はありますか。



図 55 居住継続意向別割合

今後の居住継続意向については、「はい」が52.3%（472人）となり、5年以上住む考えを持っている人が過半数を占め、次いで「わからない」が38.6%（348人）、「いいえ」が8.9%（80人）の順となっている。

**【年齢別／今後の居住継続意向】**

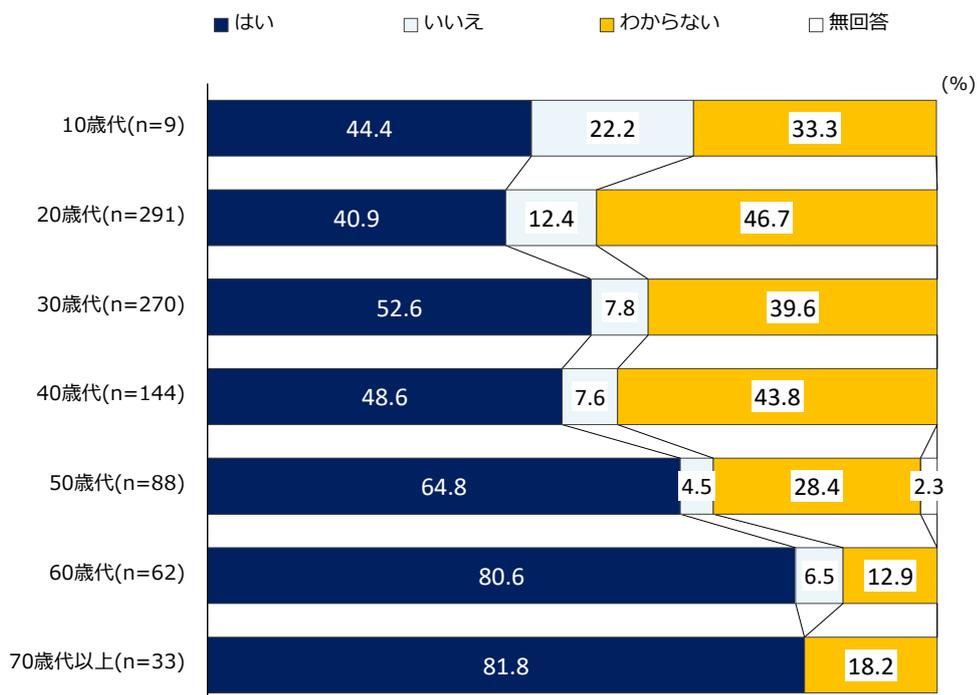


図 56 年齢別居住継続意向別割合

今後の居住継続意向について年齢別にみると、おおむね年齢が高くなるにつれ「はい」の割合が高くなっている。

【エリア別／今後の居住継続意向】

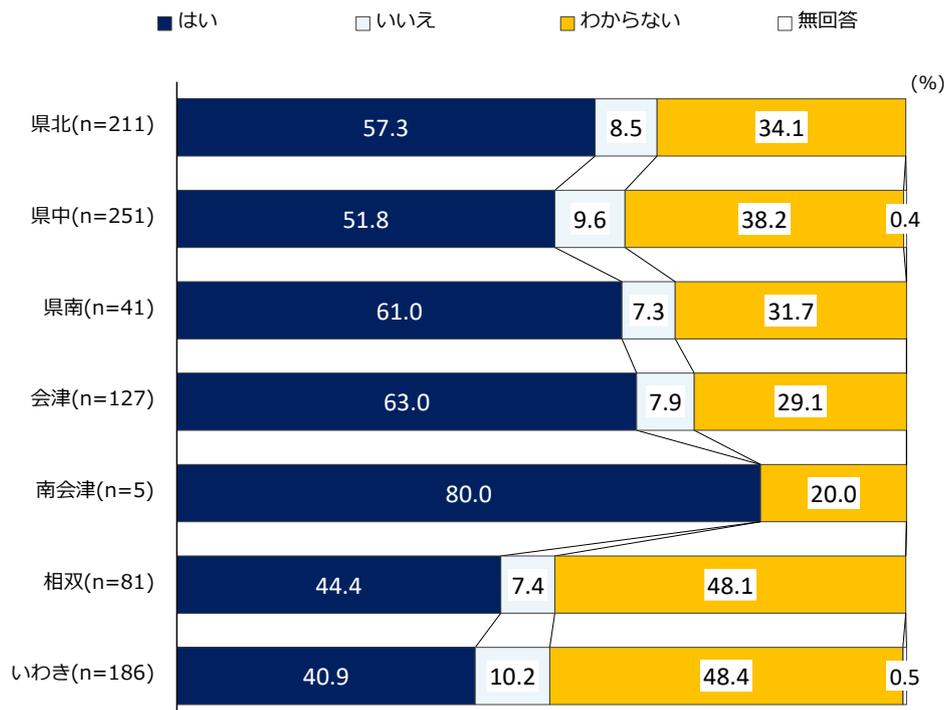


図 57 エリア別居住継続意向別割合

今後の居住継続意向の割合をエリア別にみると、相双・いわきでは「はい」が他のエリアに比べ低く、5割を下回っている。

【移動パターン別／今後の居住継続意向】

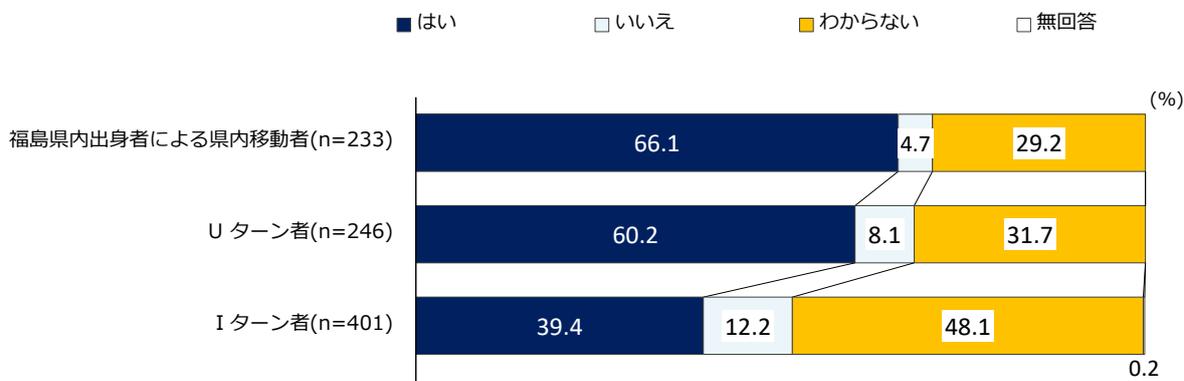


図 58 移動パターン別居住継続意向別割合

今後の居住継続意向の割合を移動パターン別にみると、県内移動者・Uターン者では「はい」がIターン者に比べ高く、6割を超えている。

【家族構成別／今後の居住継続意向】

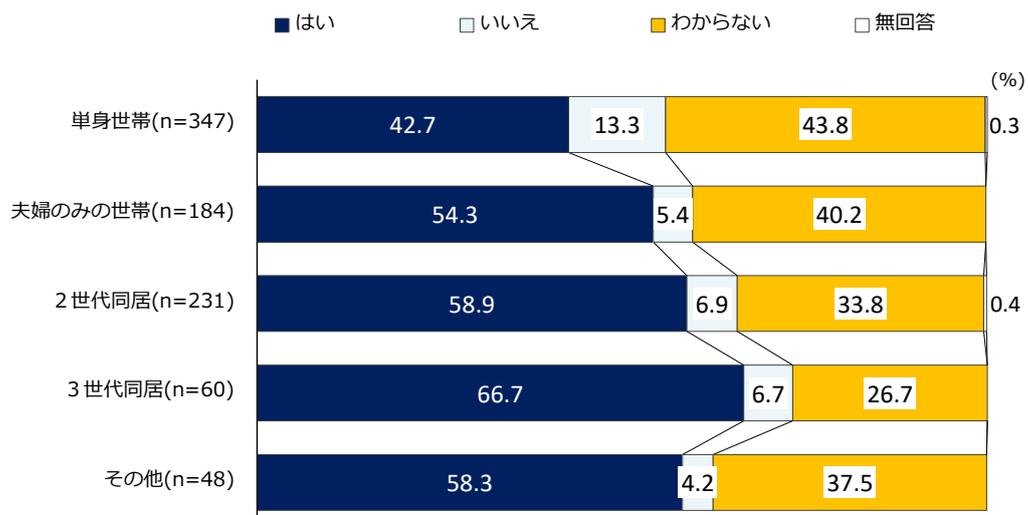


図 59 家族構成別居住継続意向別割合

今後の居住継続意向の割合を家族構成別にみると、3世代同居の「はい」の割合が他の家族構成に比べ高くなっている。

(10) 移住者の抽出

◇5年以上の居住継続意向のある移住者が、転入者全体の過半数を占めている。

〈移住者の定義〉

本調査では、Q13で「概ね5年以上住む考え（予定を含む）がある」と回答した人（表3中の(I):472名）を移住者とみなす。

表3 福島県内における移住者の転入理由

居住継続意向のある人の転入理由	回答者数	割合 (/A)
5年以上の居住継続意向のある人 計(A) ※1	(I)472	100.0%(52.3%※2)
①転勤による転入	70	14.8%
②福島県出身の学生の就職による転入	7	1.5%
③福島県外出身の学生の就職による転入	1	0.2%
④社会人の就職・転職・起業による転入	91	19.3%
⑤進学（高校、短大、大学等）に伴う転入	12	2.5%
⑥結婚に伴う転入	76	16.1%
⑦親族との同居に伴う転入	70	14.8%
⑧地域おこし協力隊採用に伴う転入	3	0.6%
⑨地方暮らしや住環境を求めたことによる転入	82	17.4%
⑩復興に寄与するための取組を始めることによる転入	20	4.2%
⑪その他	112	23.7%
⑫無回答	3	0.6%
参考値ア 移住者(*) (Iのうち①⑤⑫を除いた数)	387	82.0%(42.9%※2)
参考値イ 県外からの移住者(*)数 (参考値アの内数)	236	50.0%(26.2%※2)

※1:複数回答のため、①~⑫の回答者数合計と(A)は一致しない。

※2:回答者全体(902名)に対する割合。

〈移住者〉



図 60 移住者の割合

〈移住者(\*) (転勤及び進学による転入者、無回答を除く)〉

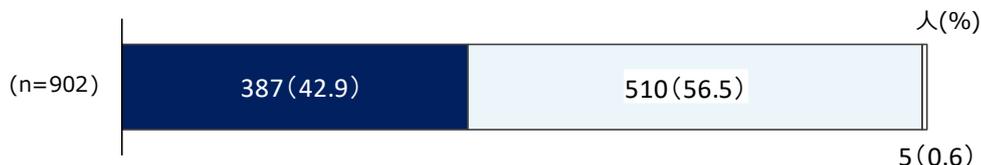


図 61 移住者（転勤及び進学による転入者、無回答を除く）(\*)の割合

5年以上の居住継続意向有りの回答者全てを移住者として抽出したところ、「移住者」が472人(52.3%)、「移住者以外」が428人(47.5%)となった。

なお、参考まで、このうち、「転勤及び進学による転入者、無回答を除く移住者(\*)」は387人(42.9%)であり、うち県外からの移住者(\*)は236人であった。

### 3 移住者の意識について

この章（P49-91）については、Q13の回答に基づき抽出した「移住者」（5年以上の居住継続意向がある人）の回答を集計する。

#### （1）転入した市町村を選んだ理由

- ◇「家族・親戚がいる」が45.1%と最も高く、「出身地だから」が続く。
- ◇Uターン者では「家族・親戚がいる」「出身地だから」が突出している。

Q14 転入市町村を選ばれた理由について、上位3つまで記入してください。

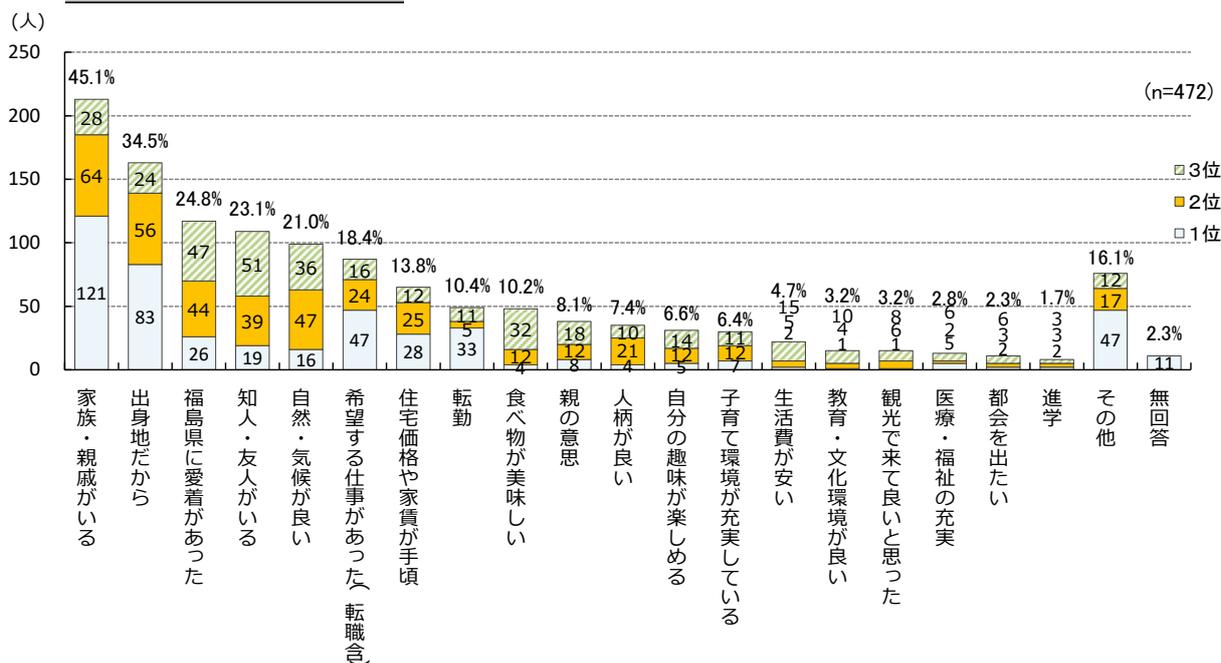


図 62 転入した市町村を選んだ理由別順位別回答数

表 4 「転入した市町村を選んだ理由」点数化集計表

転入した市町村を選んだ理由	1位	2位	3位	合計点
家族・親戚がいる	363点	128点	28点	519点
出身地だから	249点	112点	24点	385点
福島県に愛着があった	78点	88点	47点	213点
希望する仕事があった(転職含)	141点	48点	16点	205点
知人・友人がいる	57点	78点	51点	186点
自然・気候が良い	48点	94点	36点	178点
住宅価格や家賃が手頃	84点	50点	12点	146点
転勤	99点	10点	11点	120点
食べ物が美味しい	12点	24点	32点	68点
親の意思	24点	24点	18点	66点
人柄が良い	12点	42点	10点	64点
子育て環境が充実している	21点	24点	11点	56点
自分の趣味が楽しめる	15点	24点	14点	53点
生活費が安い	6点	10点	15点	31点
医療・福祉の充実	15点	4点	6点	25点
観光で来て良いと思った	3点	12点	8点	23点
教育・文化環境が良い	3点	8点	10点	21点
都会を出たい	6点	6点	6点	18点
進学	6点	6点	3点	15点

※1位として選択した件数に3点、2位に2点、3位に1点を付与し、合計点を算出。

### Ⅲ 調査結果

転入した市町村を選んだ理由（複数回答：1位から3位の合計）の割合をみると、「家族・親戚がいる」が45.1%（213人）と最も高く、次いで「出身地だから」（34.5%；163人）、「福島県に愛着があった」（24.8%；117人）の順となっている。

また、転入した市町村を選んだ理由の優先度を考慮して1位に3点、2位に2点、3位に1点を付与し、点数化して集計を行ったところ、合計点の高いものから「家族・親戚がいる（519点）」、「出身地だから（385点）」、「福島県に愛着があった（213点）」の順となっている。

【年齢別／転入した市町村を選んだ理由】

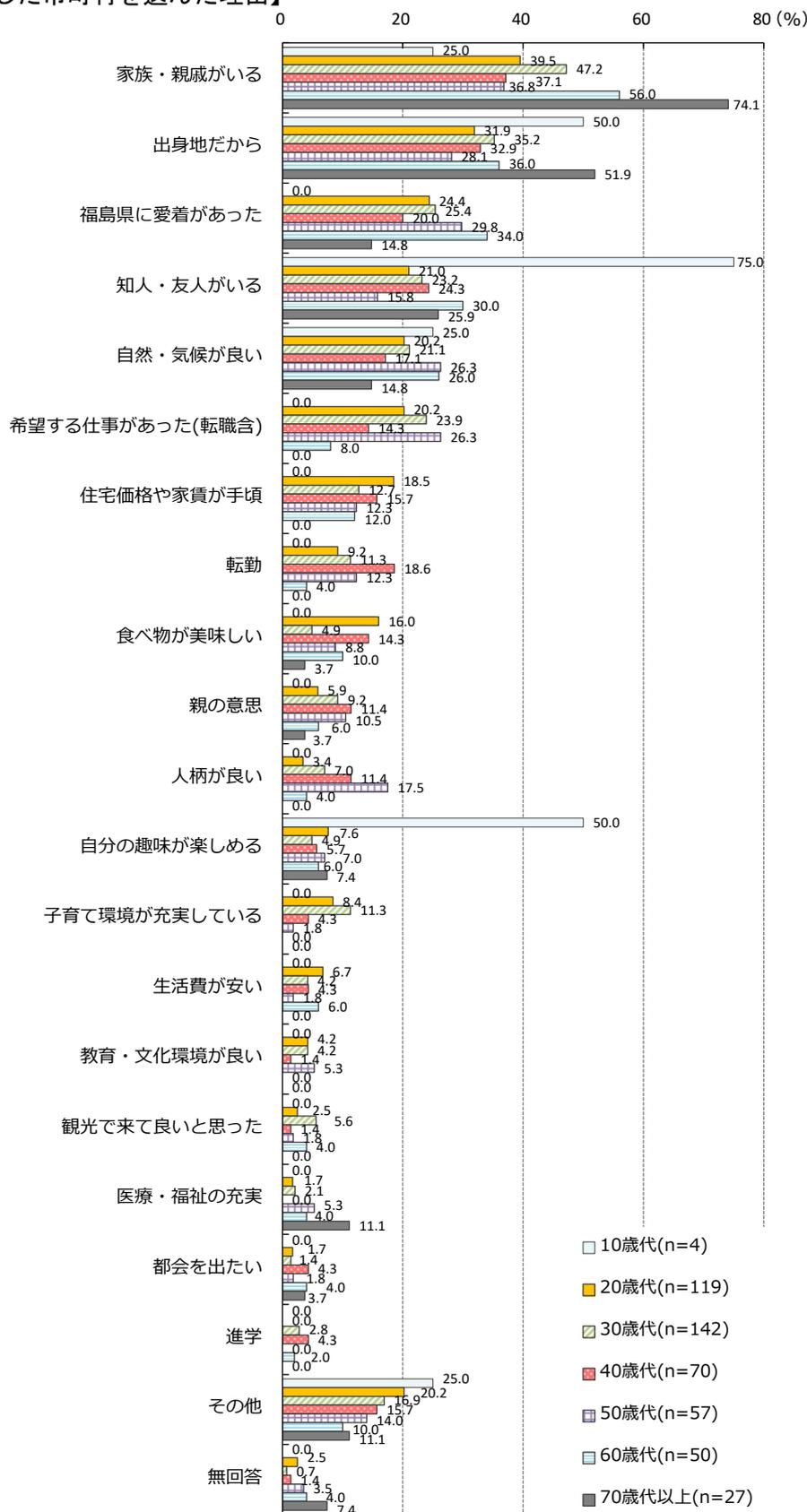


図 63 年齢別転入した市町村を選んだ理由別割合

転入した市町村を選んだ理由（複数回答：1位から3位の合計）の割合を年齢別にみると、70歳代以上では「家族・親戚がいる」（74.1%）及び「出身地だから」（51.9%）が他の年齢に比べて高くなっている。

【エリア別／転入した市町村を選んだ理由】

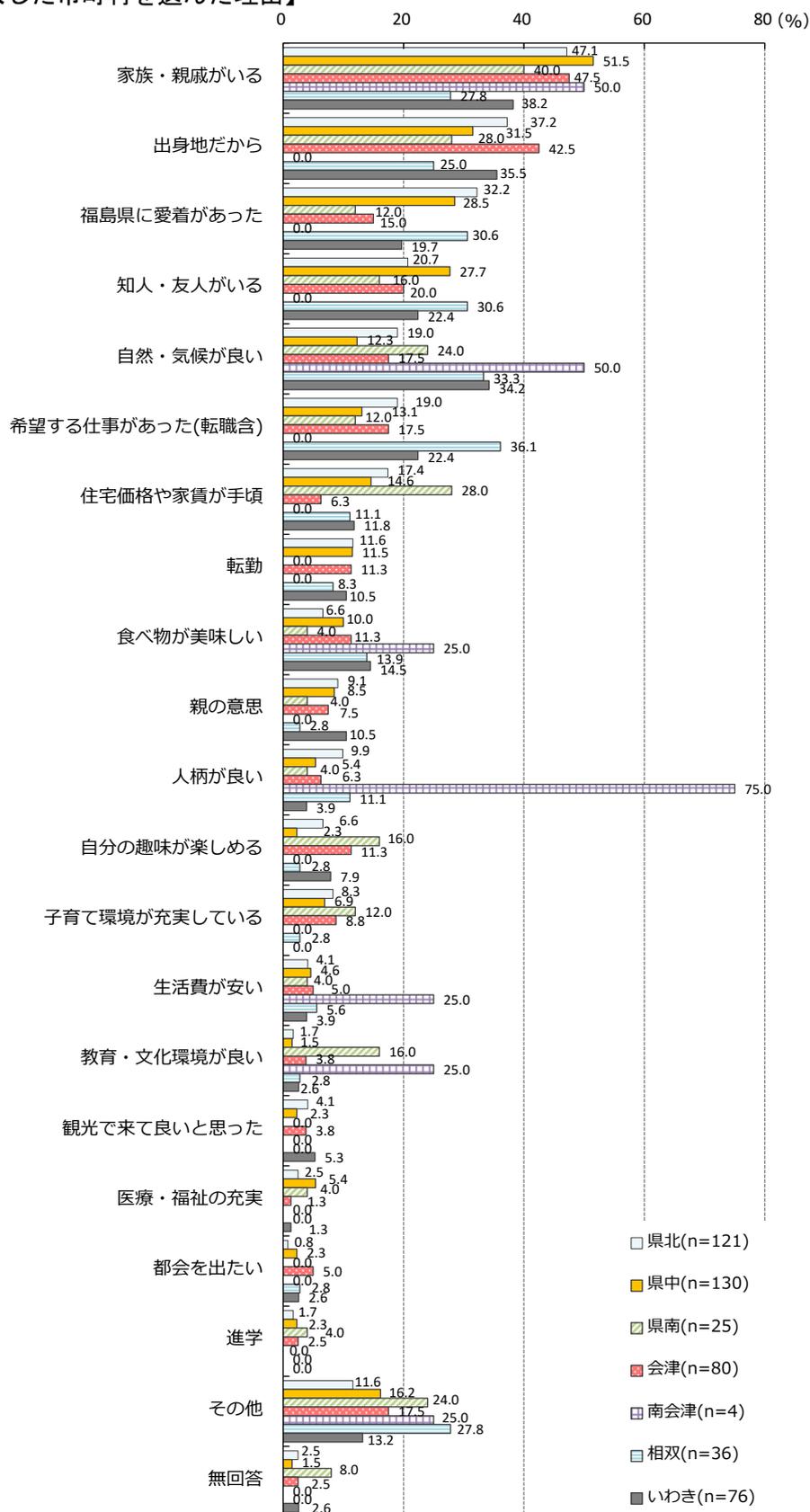


図 64 エリア別転入した市町村を選んだ理由別割合

転入した市町村を選んだ理由（複数回答：1位から3位の合計）の割合をエリア別にみると、会津では「出身地だから」（42.5%）、相双では「希望する仕事があった(転職含)」（36.1%）、県南では「住宅価格や家賃が手頃」（28.0%）が、他のエリアに比べ高くなっている。

【移動パターン別／転入した市町村を選んだ理由】

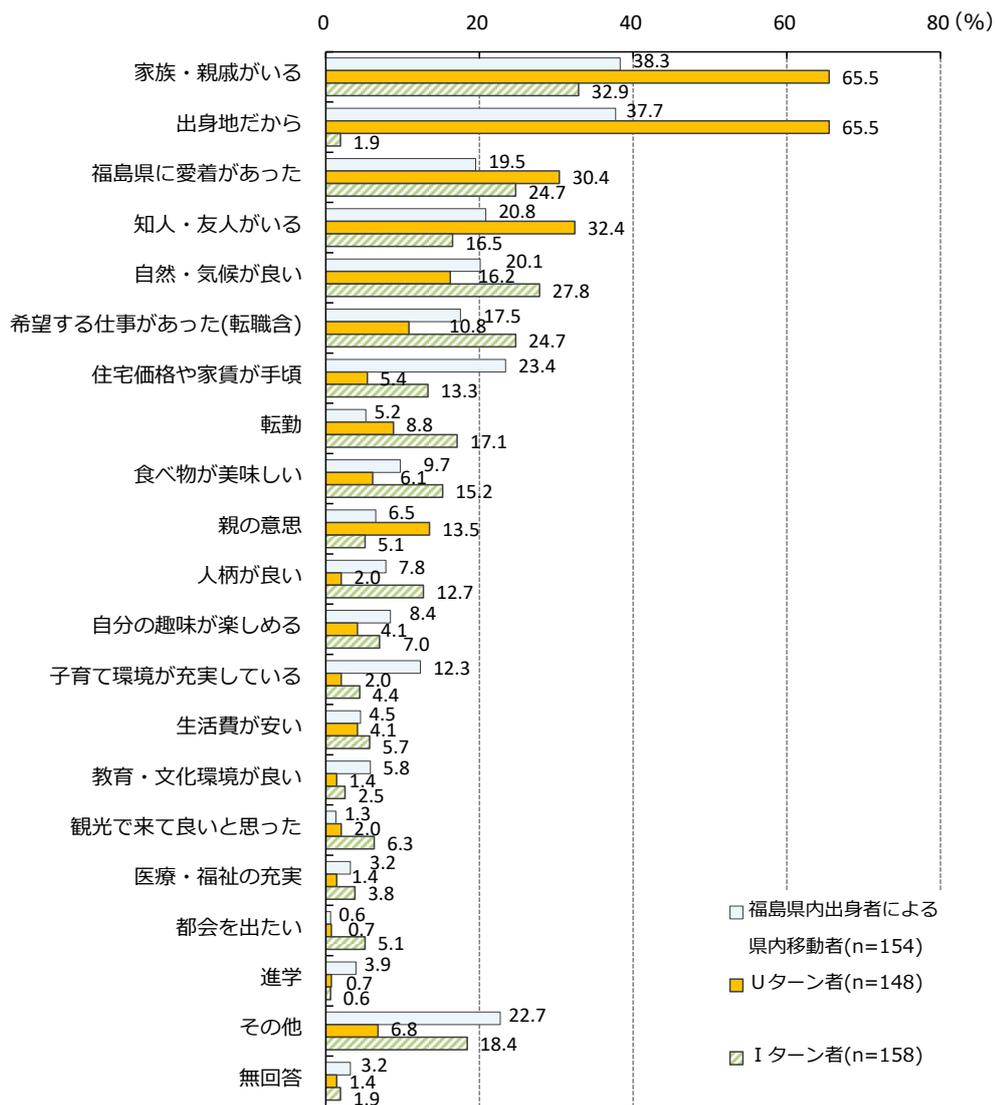


図 65 移動パターン別転入した市町村を選んだ理由別割合

転入した市町村を選んだ理由（複数回答：1位から3位の合計）の割合を移動パターン別にみると、県内移動者では「住宅価格や家賃が手頃」（23.4%）などが他の移動パターンに比べ高くなっている。

Uターン者では「家族・親戚がいる」（65.5%）、「出身地だから」（65.5%）が他の移動パターンに比べ特に高くなっている。

Iターン者では「転勤」（17.1%）などが他の移動パターンに比べ高くなっているが、割合の高い順でみると、「家族・親戚がいる」「自然・気候がよい」「福島県に愛着があった」「希望する仕事があった（転職含）」となっている。

【転入元県内外別／転入した市町村を選んだ理由】

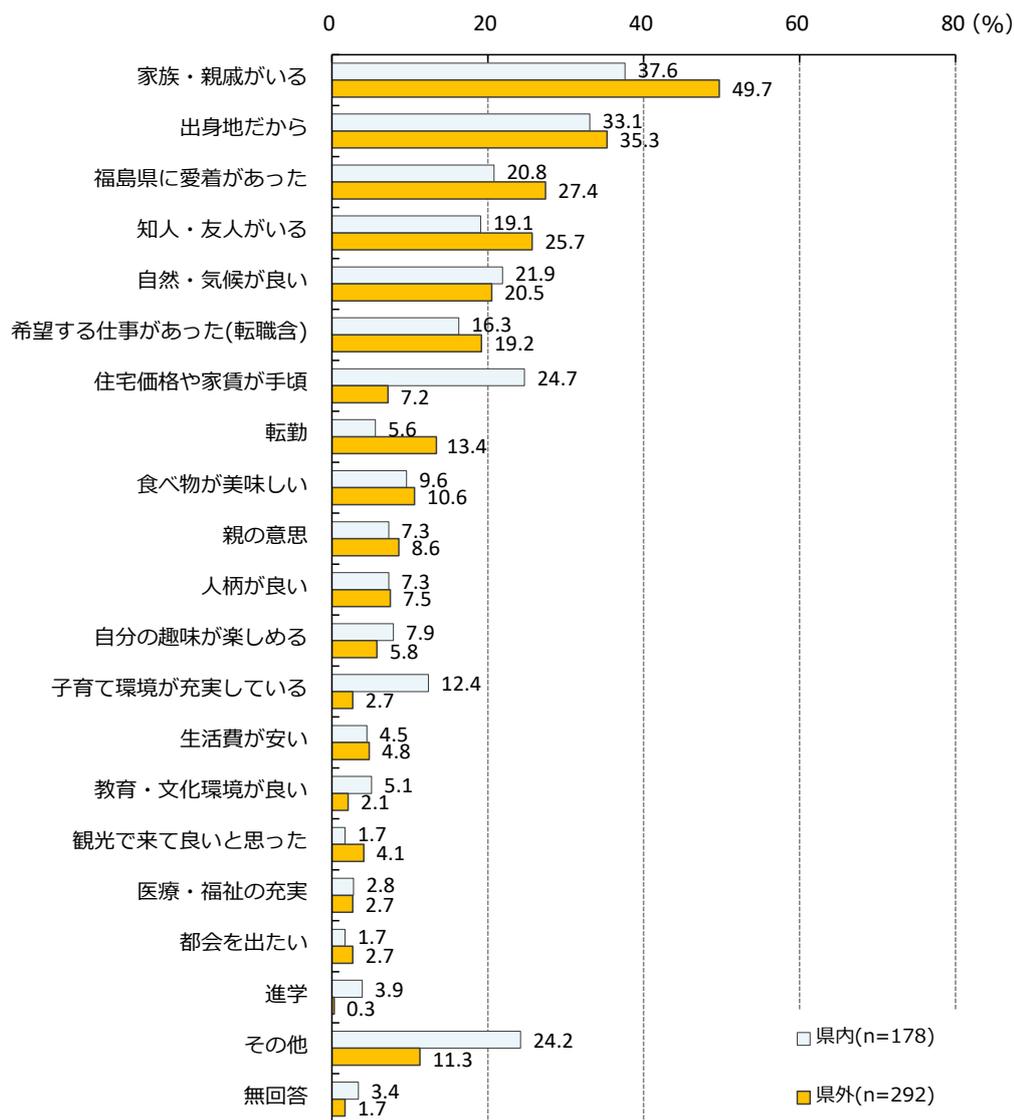


図 66 転入元県内外別転入した市町村を選んだ理由別割合

転入した市町村を選んだ理由（複数回答：1位から3位の合計）の割合を転入元県内外別にみると、県内では「住宅価格や家賃が手頃」（24.7%）、「子育て環境が充実している」（12.4%）が、県外に比べ高くなっている。

一方、県外では「家族・親戚がいる」（49.7%）、「転勤」（13.4%）が、県内に比べ特に高くなっている。

【居住経験別／転入した市町村を選んだ理由】

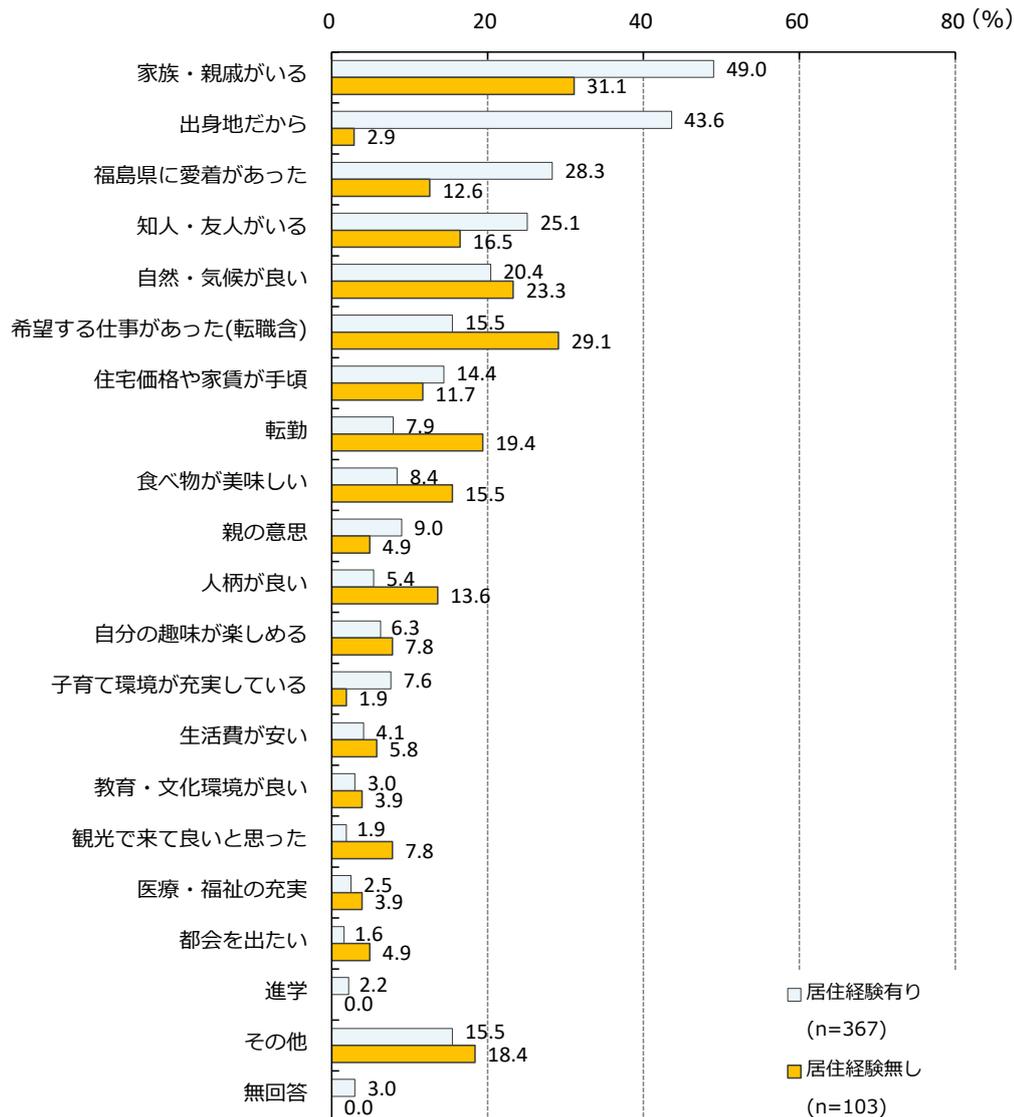


図 67 居住経験別転入した市町村を選んだ理由別割合

転入した市町村を選んだ理由（複数回答：1位から3位の合計）の割合を居住経験別にみると、居住経験有りでは「家族・親戚がいる」（49.0%）、「出身地だから」（43.6%）、「福島県に愛着があった」（28.3%）が、居住経験無しに比べ特に高くなっている。

一方、居住経験無しでは「希望する仕事があった(転職含)」（29.1%）、「転勤」（19.4%）が、居住経験有りに比べ特に高くなっている。

(2) 転入した市町村の訪問有無・回数

- ◇「はい」が7割近くを占め、「いいえ」を上回る。
- ◇訪問回数については「1～2回」が22.3%と最も高い。

Q15 移住するに当たり、転入市町村を訪問したことはありましたか。

【転入した市町村の訪問有無】

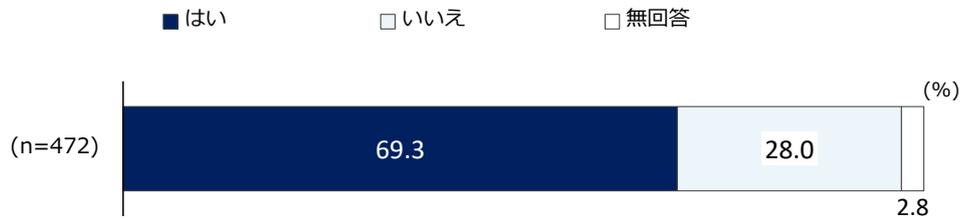


図 68 市町村訪問状況別割合

【訪問回数】



図 69 市町村訪問回数別割合

転入した市町村の訪問有無については、「はい」が69.3%と7割近くを占め、「いいえ」(28.0%)を上回っている。

訪問回数については、「1～2回」が22.3%と最も高く、「7回以上」も20.5%と高くなっている。

(3) 他の移住先候補自治体

◇県内の候補地があった人は26.5%で、「郡山市」が最も高い。  
 ◇県外の候補地があった人は11.4%で、「宮城県」が最も高い。

Q16 移住するに当たり、検討された他の候補地について、記入してください。

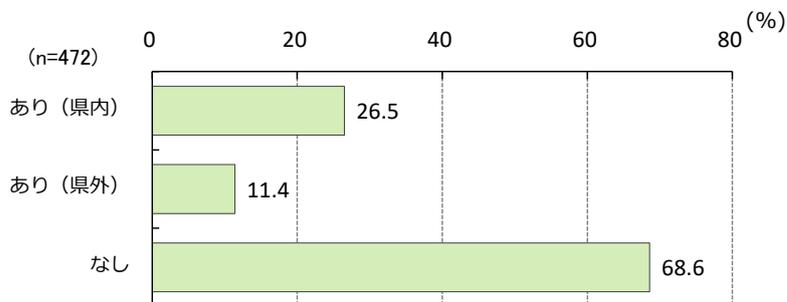


図 70 他の移住先検討状況別割合

表 5 県内・県外の候補地一覧

上段：実数 下段：%

調査数	福島市	会津若松市	郡山市	いわき市	白河市	須賀川市	喜多方市	相馬市	二本松市	田村市	南相馬市	伊達市	本宮市	桑折町	国見町	大玉村	鏡石町	天栄村	南会津町	北塩原村	猪苗代町	会津坂下町	湯川村	柳津町
125	19	9	37	17	9	12	4	3	13	1	8	1	11	1	1	8	8	2	1	2	1	1	1	2
100.0	15.2	7.2	29.6	13.6	7.2	9.6	3.2	2.4	10.4	0.8	6.4	0.8	8.8	0.8	0.8	6.4	6.4	1.6	0.8	1.6	0.8	0.8	0.8	1.6

調査数	三島町	金山町	会津美里町	西郷村	泉崎村	矢吹町	棚倉町	玉川村	三春町	広野町	楢葉町
1	1	2	1	1	1	1	1	1	3	1	3
0.8	0.8	1.6	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	2.4	0.8	2.4

上段：実数 下段：%

調査数	北海道	青森県	岩手県	宮城県	山形県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	静岡県	和歌山県	香川県	沖縄県
54	3	2	3	21	5	7	9	1	5	2	4	1	1	3	2	2	1	1	3
100.0	5.6	3.7	5.6	38.9	9.3	13.0	16.7	1.9	9.3	3.7	7.4	1.9	1.9	5.6	3.7	3.7	1.9	1.9	5.6

他の移住先候補自治体については、「なし」が68.6%と最も高く、次いで「あり(県内)」(26.5%)、「あり(県外)」(11.4%)の順となっている。

県内の候補地の内訳についてみると、「郡山市」が29.6%と最も高く、次いで「福島市」(15.2%)、「いわき市」(13.6%)の順となっている。

県外の候補地の内訳についてみると、「宮城県」が38.9%と最も高く、次いで「栃木県」(16.7%)、「茨城県」(13.0%)の順となっている。

【移動パターン別／他の移住先候補自治体】

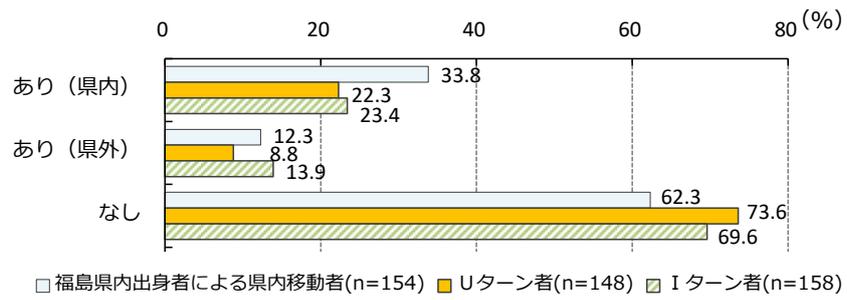


図 71 移動パターン別他の移住先検討状況別割合

他の移住先候補自治体について移動パターン別にみると、県内移動者では、他の移住先候補自治体「あり(県内)」の割合が他の移動パターンに比べ高くなっている。

(4) 不安な要素

◇「収入の確保」が最も高く、次いで「仕事の確保」「冬の寒さ・積雪」「人間関係（しきたり、近所づきあいなど）」となっており、それぞれ約3割を占めている。  
 ◇Uターン者では、割合が高い順から「収入の確保」「仕事の確保」「公共交通機関の不便さ」となっており、Iターン者では「冬の積雪・寒さ」「仕事の確保」「人間関係（しきたり・近所づきあいなど）」となっている。

Q17 移住するに当たり、不安な点について、上位3つまで記入してください。

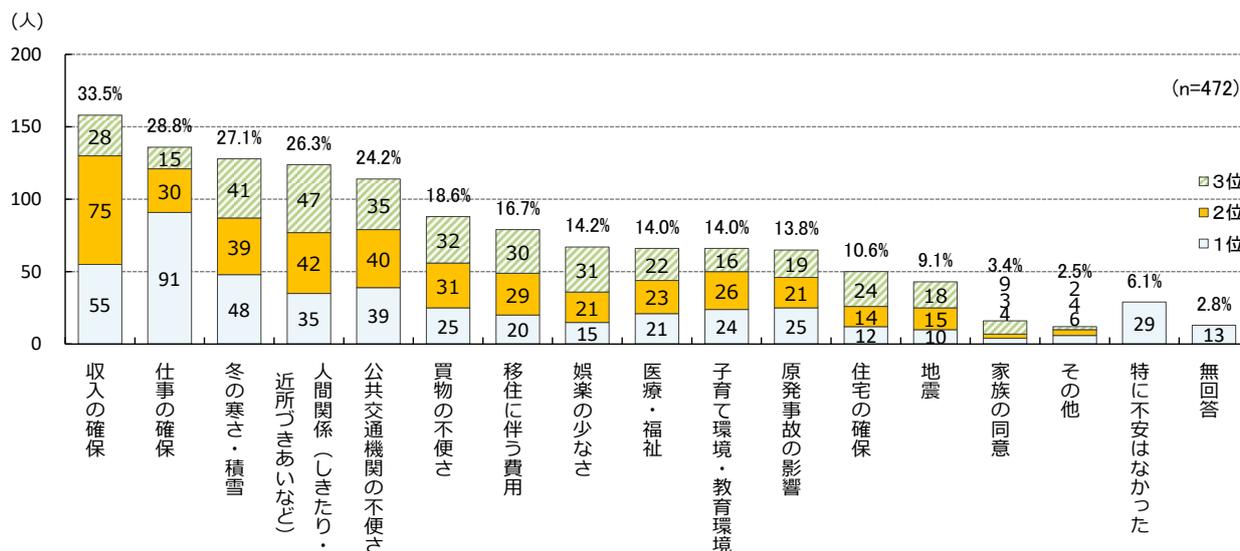


図 72 不安な要素別順位別回答数

表 6 「不安な要素」点数化集計表

不安な要素	1位	2位	3位	合計点
仕事の確保	273点	60点	15点	348点
収入の確保	165点	150点	28点	343点
冬の寒さ・積雪	144点	78点	41点	263点
人間関係（しきたり・近所づきあいなど）	105点	84点	47点	236点
公共交通機関の不便さ	117点	80点	35点	232点
買物の不便さ	75点	62点	32点	169点
移住に伴う費用	60点	58点	30点	148点
子育て環境・教育環境	72点	52点	16点	140点
原発事故の影響	75点	42点	19点	136点
医療・福祉	63点	46点	22点	131点
娯楽の少なさ	45点	42点	31点	118点
住宅の確保	36点	28点	24点	88点
地震	30点	30点	18点	78点
家族の同意	12点	6点	9点	27点

※1位として選択した件数に3点、2位に2点、3位に1点を付与し、合計点を算出。

不安な要素（複数回答：1位から3位の合計）の割合をみると、「収入の確保」が33.5%（158人）と最も高く、次いで「仕事の確保」（28.8%；136人）、「冬の寒さ・積雪」（27.1%；128人）の順となっており、それぞれ約3割を占めている。

また、不安な要素の優先度を考慮して1位に3点、2位に2点、3位に1点を付与し、点数化して集計を行ったところ、合計点の高いものから「仕事の確保（348点）」、「収入の確保（343点）」、「冬の寒さ・積雪（263点）」の順となっている。

【年齢別／不安な要素】

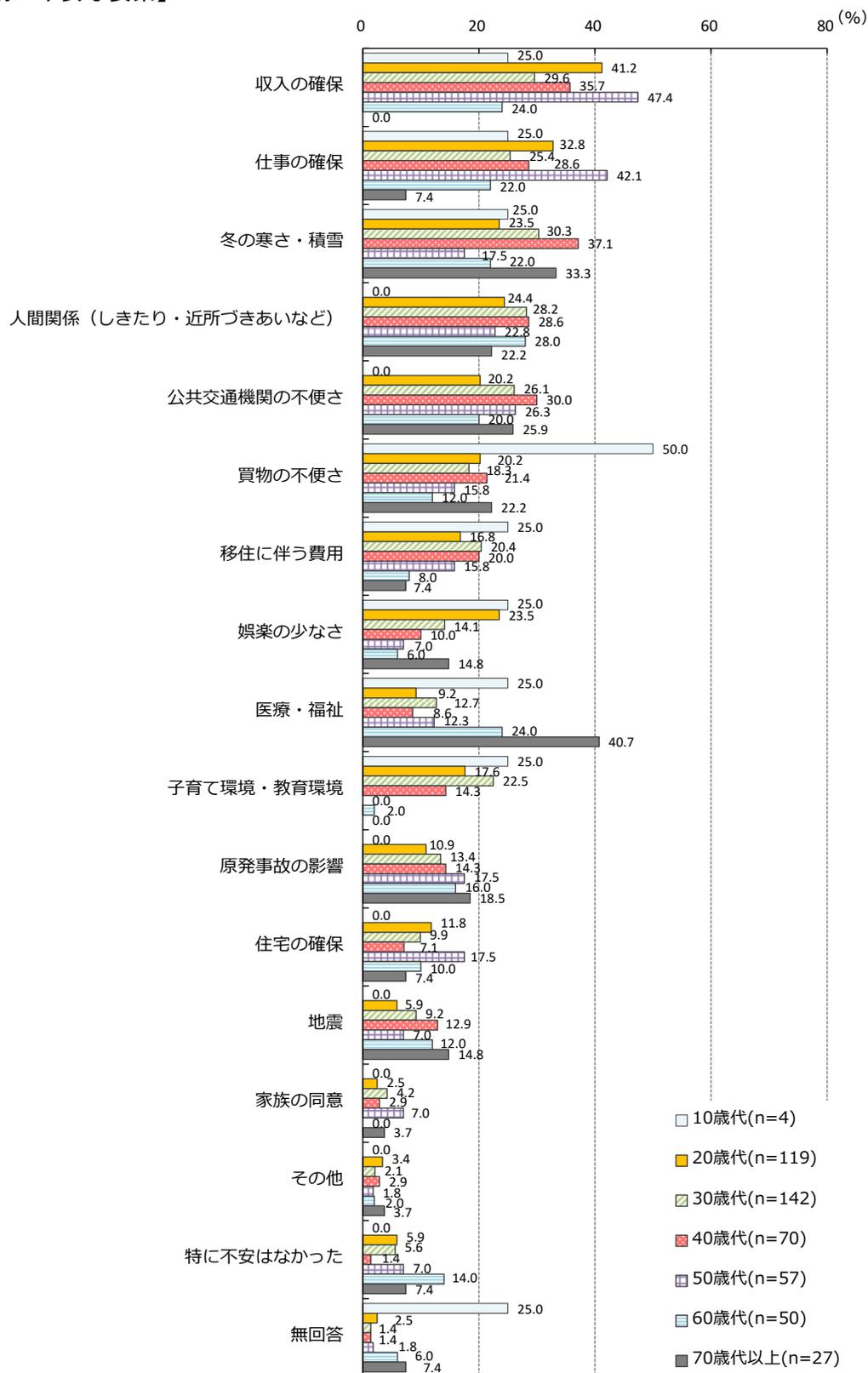


図 73 年齢別不安な要素別割合

不安な要素（複数回答：1位から3位の合計）の割合を年齢別にみると、20歳代、50歳代では「収入の確保」が4割以上と、他の年齢に比べ高くなっている。

また、50歳代では「仕事の確保」（42.1%）、70歳代以上では「医療・福祉」（40.7%）の割合が他の年齢に比べ高くなっている。

【エリア別／不安な要素】

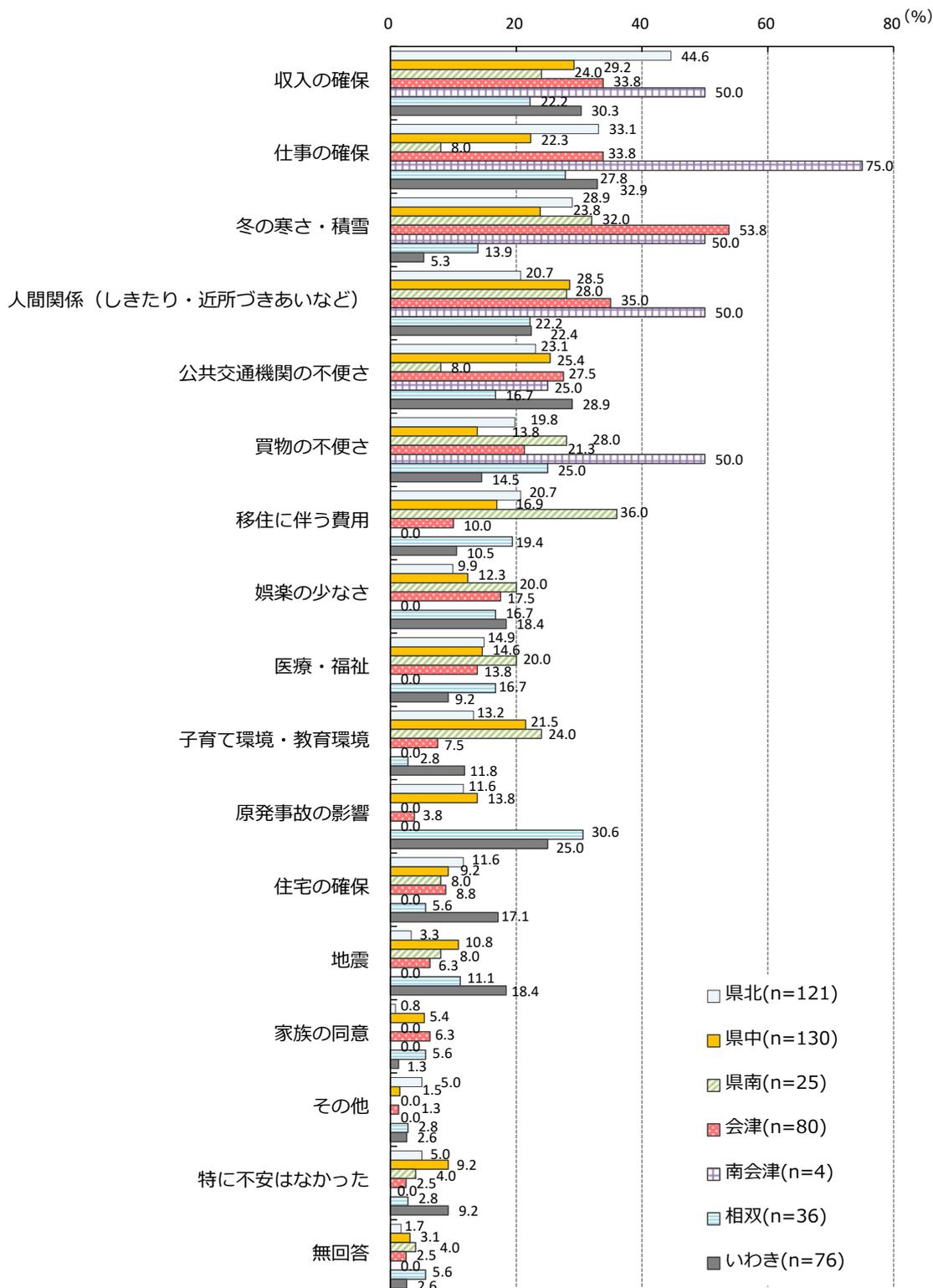


図 74 エリア別不安な要素別割合

不安な要素（複数回答：1位から3位の合計）の割合をエリア別にみると、会津では「冬の寒さ・積雪」（53.8%）、南会津では「仕事の確保」（75.0%）、県南では「移住に伴う費用」（36.0%）が、他のエリアに比べ高くなっている。

また、相双・いわきでは「原発事故の影響」が約3割と、他のエリアに比べ高くなっている。

【移動パターン別／不安な要素】

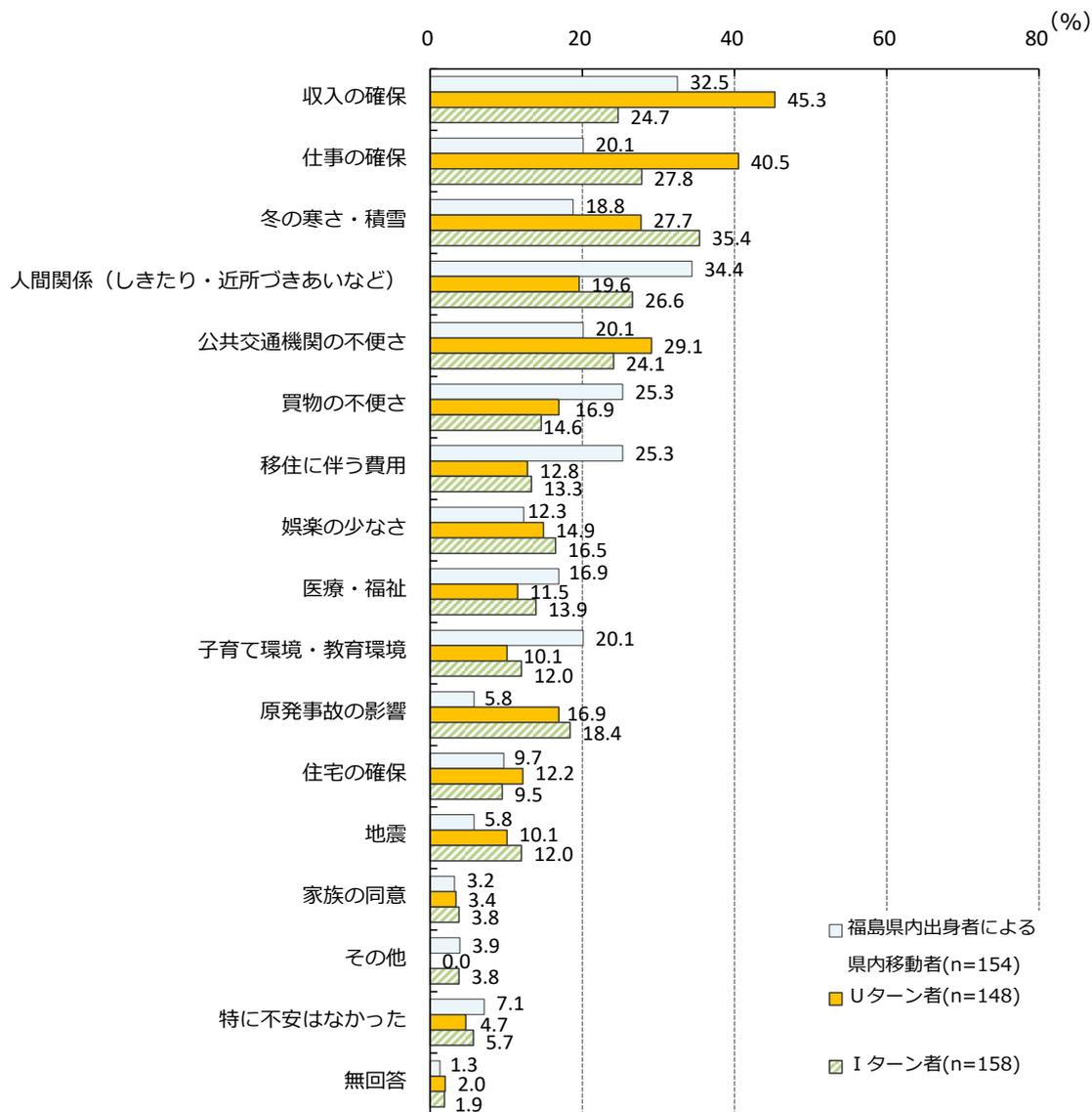


図 75 移動パターン別不安な要素別割合

不安な点（複数回答：1位から3位の合計）の割合を移動パターン別にみると、県内移動者では「買物の不便さ」（25.3%）、「移住に伴う費用」（25.3%）、「子育て環境・教育環境」（20.1%）等が、他の移動パターンに比べ高くなっている。

Uターン者では「収入の確保」（45.3%）、「仕事の確保」（40.5%）の割合等が、他の移動パターンに比べ高くなっている。

Iターン者では「冬の寒さ・積雪」（35.4%）等が、他の移動パターンに比べ高くなっている。

【転入元県内外別／不安な要素】

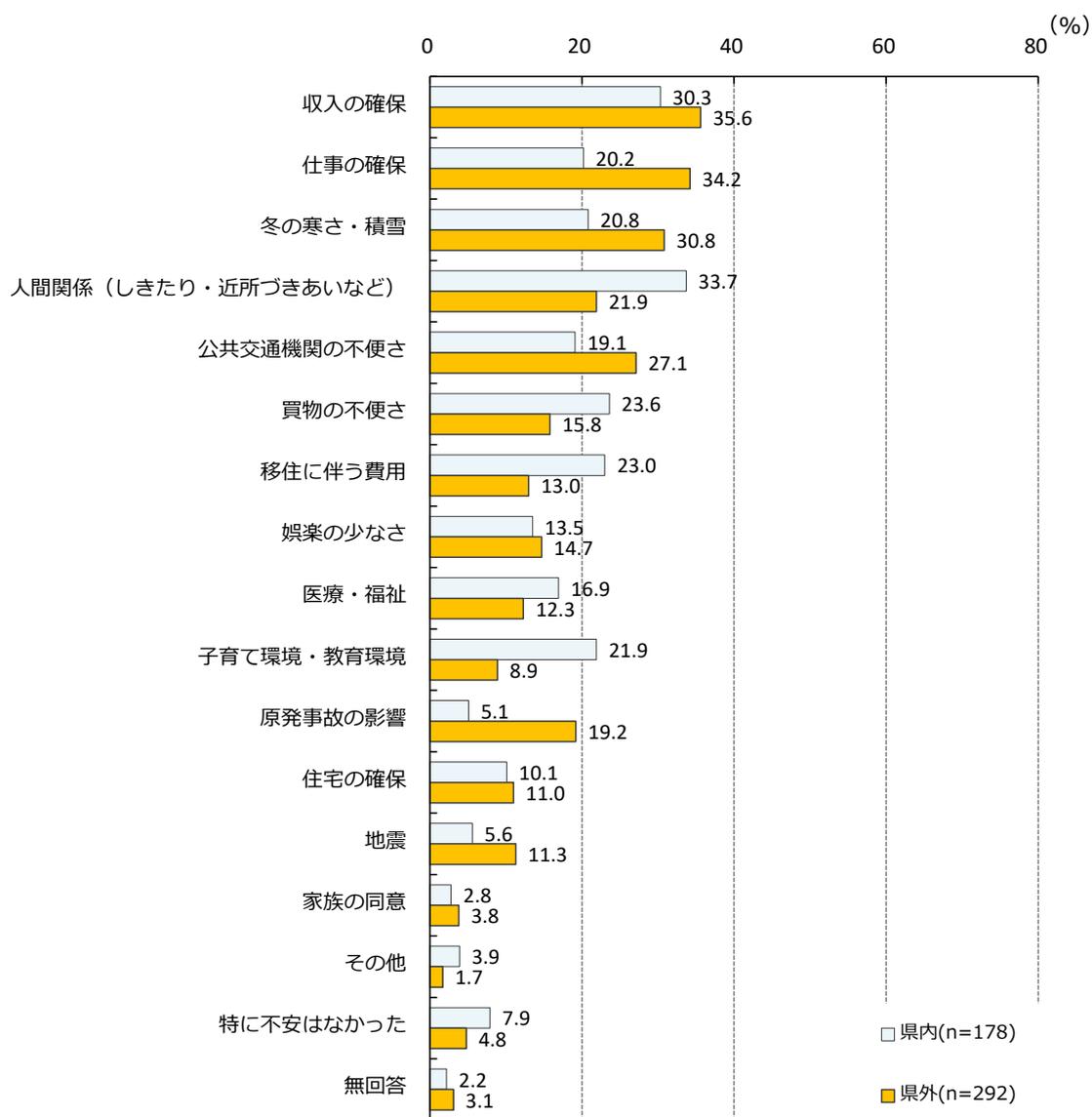


図 76 転入元県内外別不安な要素別割合

不安な点（複数回答：1位から3位の合計）の割合を転入元県内外別にみると、県内では「人間関係（しきたり・近所づきあいなど）」（33.7%）、「移住に伴う費用」（23.0%）、「子育て環境・教育環境」（21.9%）が、県外に比べ10ポイント以上高くなっている。

一方、県外では「仕事の確保」（34.2%）、「冬の寒さ・積雪」（30.8%）、「原発事故の影響」（19.2%）等が、県内に比べ高くなっている。

【家族構成別／不安な要素】

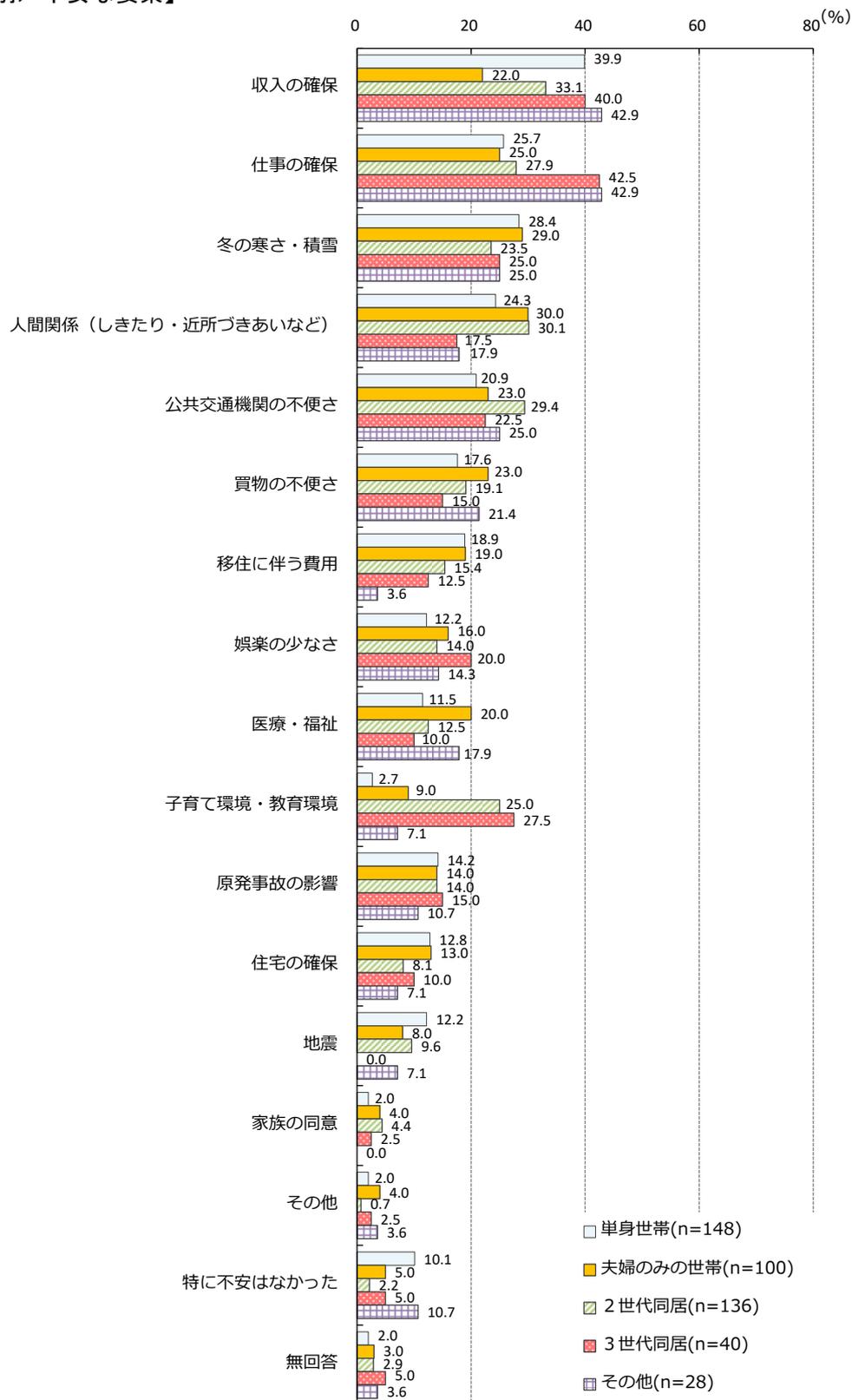


図 77 家族構成別不安な要素別割合

不安な点（複数回答：1位から3位の合計）の割合を家族構成別にみると、3世代同居では「仕事の確保」（42.5％）等が、他の家族構成（その他を除く）に比べ高くなっている。

また、2世代同居、3世代同居では「子育て環境・教育環境」が約3割と、他の家族構成に比べ特に高くなっている。

【居住経験別／不安な要素】

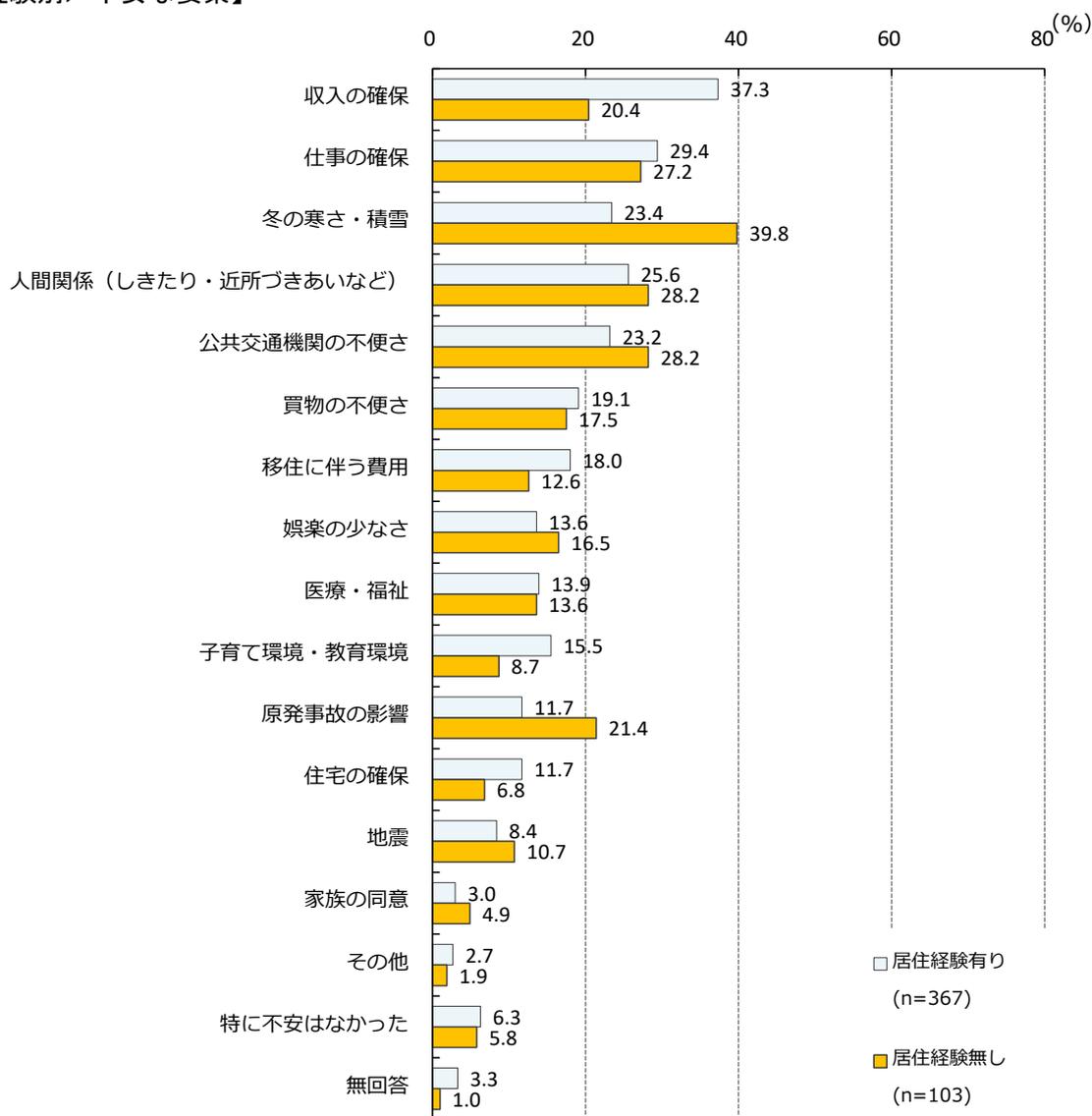


図 78 居住経験別不安な要素別割合

不安な点（複数回答：1位から3位の合計）の割合を居住経験別にみると、居住経験有りでは「収入の確保」（37.3%）が、居住経験無しに比べ特に高くなっている。

一方、居住経験無しでは「冬の寒さ・積雪」（39.8%）、「原発事故の影響」（21.4%）が、居住経験有りに比べ特に高くなっている。

【性別／不安な要素】

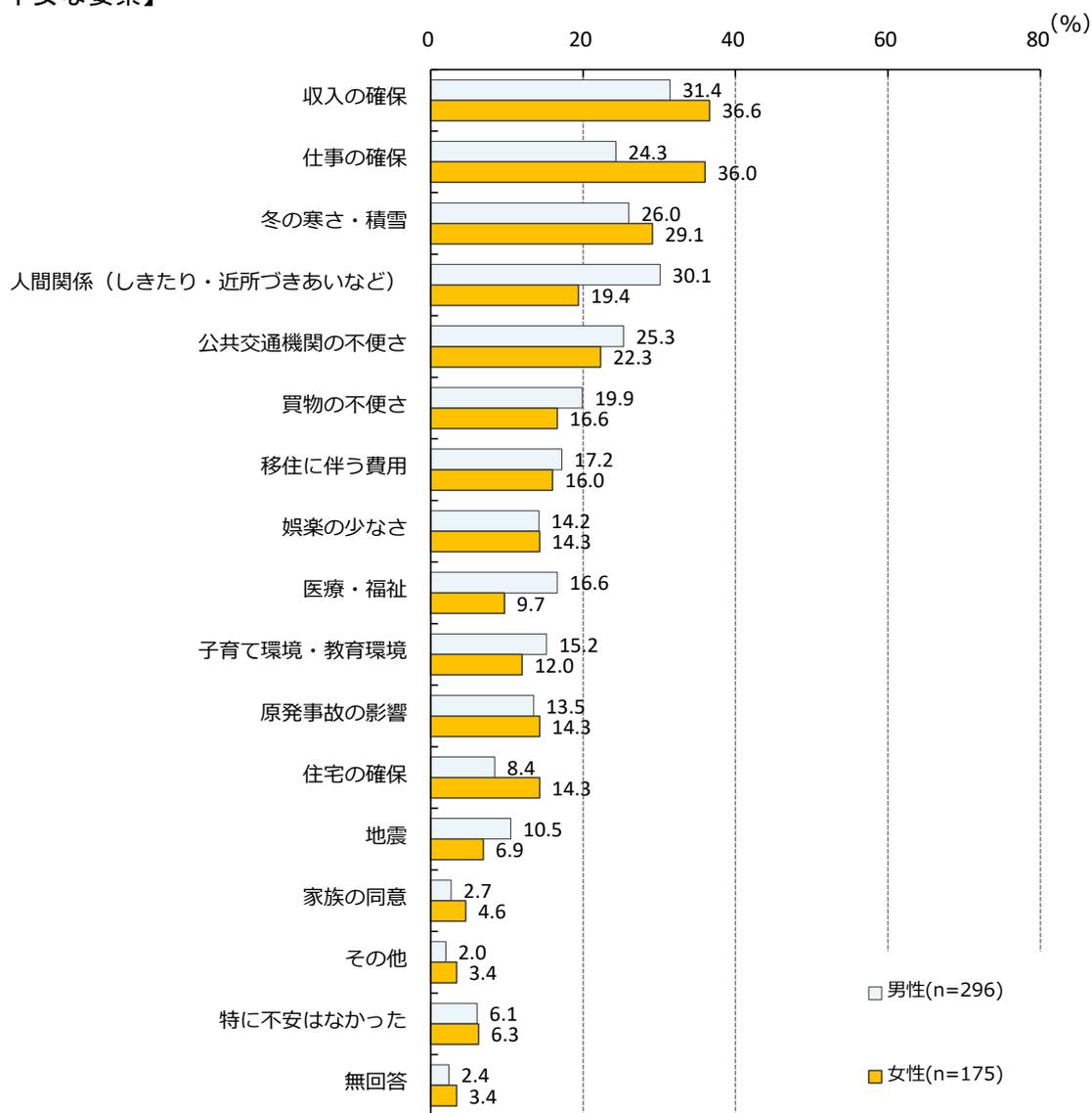


図 79 男女別不安な要素別割合

不安な点（複数回答：1位から3位の合計）の割合を性別にみると、男性では「人間関係（しきたり・近所づきあいなど）」（30.1%）が、女性に比べ特に高くなっている。

一方、女性では「仕事の確保」（36.0%）が、男性に比べ特に高くなっている。

【転職の有無別／不安な要素】

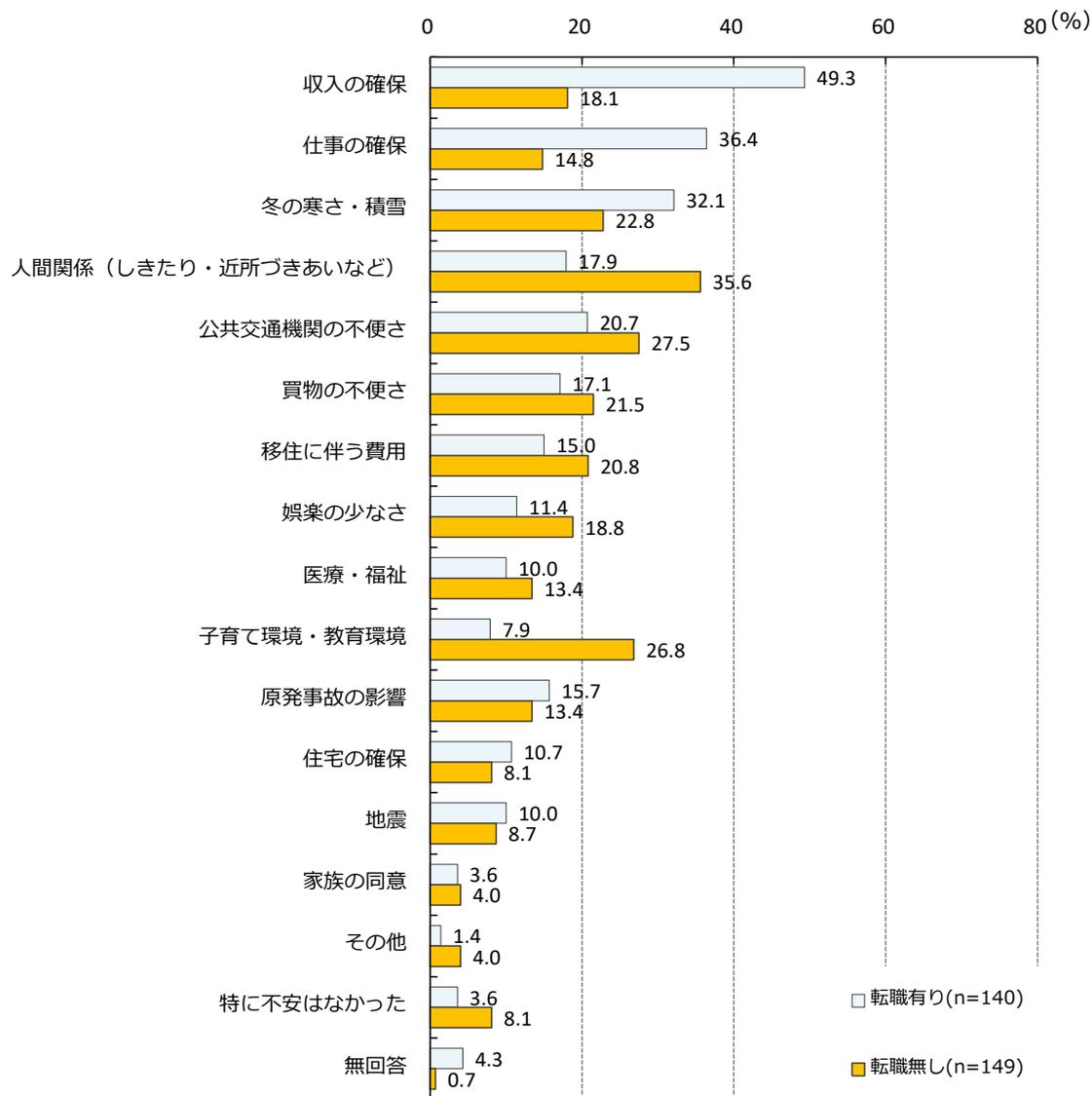


図 80 転職の有無別不安な要素別割合

不安な点（複数回答：1位から3位の合計）の割合を転職の有無別にみると、転職有りでは「収入の確保」（49.3%）、「仕事の確保」（36.4%）が、転職無しに比べ20ポイント以上高くなっている。

一方、転職無しでは「人間関係（しきたり・近所づきあい）」（35.6%）、「子育て環境・教育環境」（26.8%）が、転職有りに比べ特に高くなっている。

(5) 最も苦労した点

- ◇「移住に伴う費用」が23.5%と最も高い。
- ◇転入元が県内の人には「移住に伴う費用」、県外の人には「仕事の確保」が高い。

Q18 移住するに当たり、最も苦労した点について教えてください。

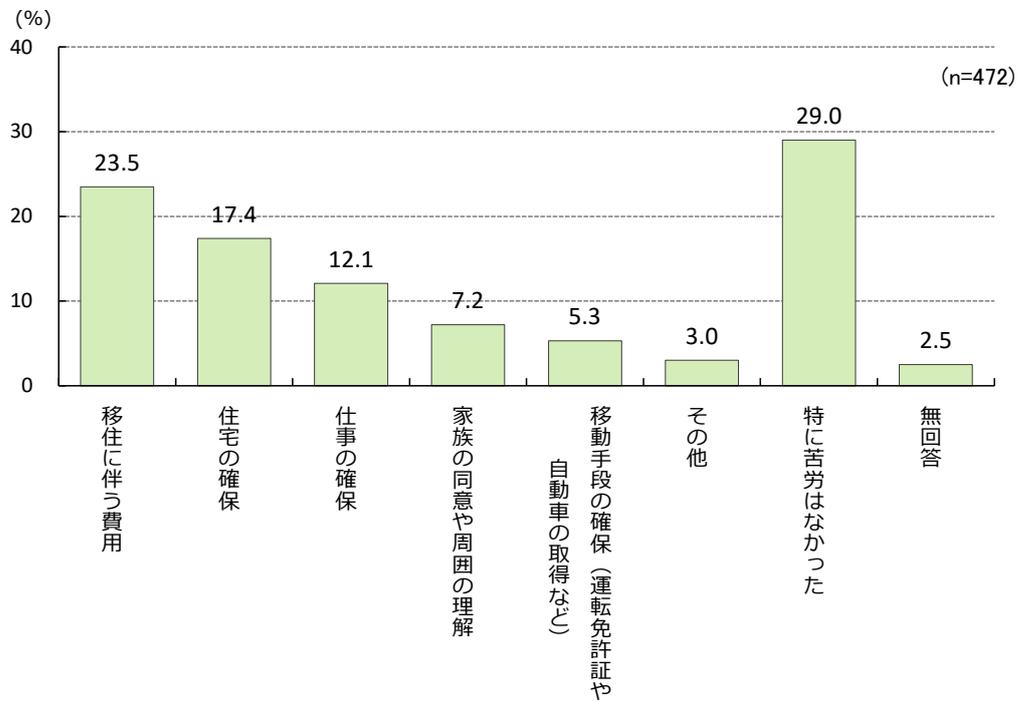


図 81 最も苦労した点別割合

最も苦労した点については、「移住に伴う費用」の割合が23.5%と最も高く、次いで「住宅の確保」(17.4%)、「仕事の確保」(12.1%)の順となっている。

なお、「特に苦労はなかった」は29.0%となっている。

【転入元県内外別／最も苦勞した点】

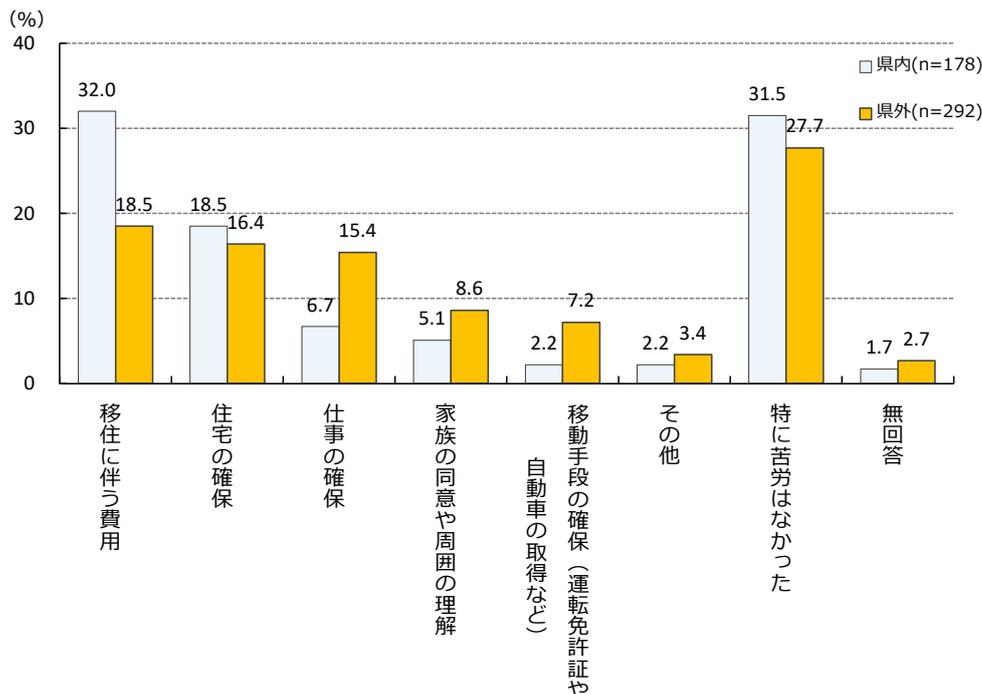


図 82 転入元県内外別最も苦勞した点別割合

最も苦勞した点の割合を転入元県内外別にみると、県内では「移住に伴う費用」(32.0%)が、県外に比べ高くなっている。

一方、県外では「仕事の確保」(15.4%)が、県内に比べ特に高くなっている。

【居住経験別／最も苦勞した点】

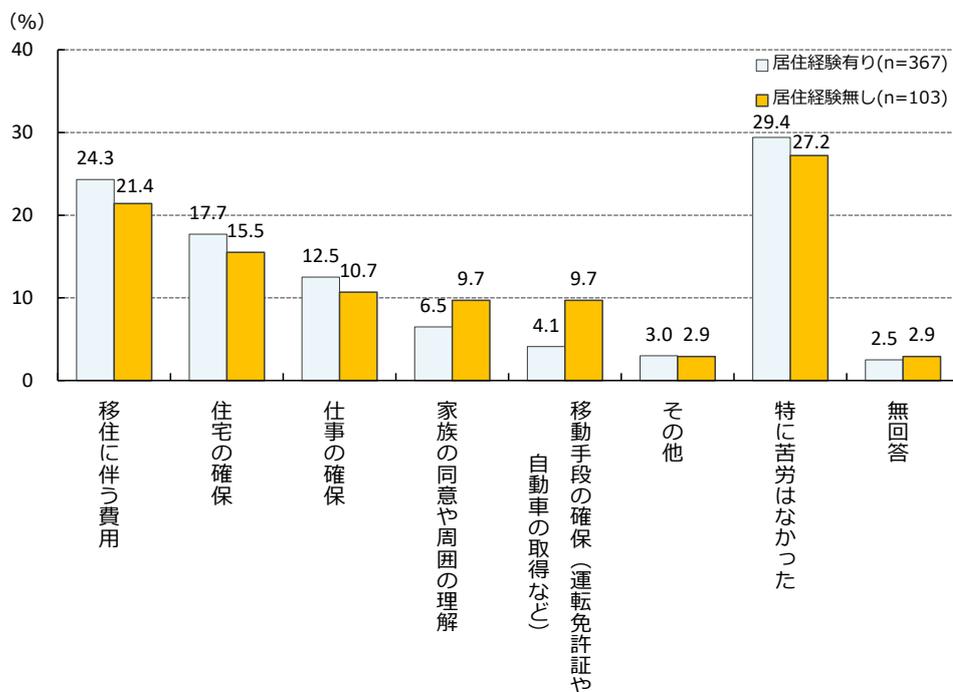


図 83 居住経験別最も苦勞した点別割合

最も苦勞した点について居住経験別にみると、居住経験無しでは「移動手段の確保(運転免許証や自動車の取得)」(9.7%)の割合等が、居住経験有りに比べ高くなっている。

【性別／最も苦勞した点】

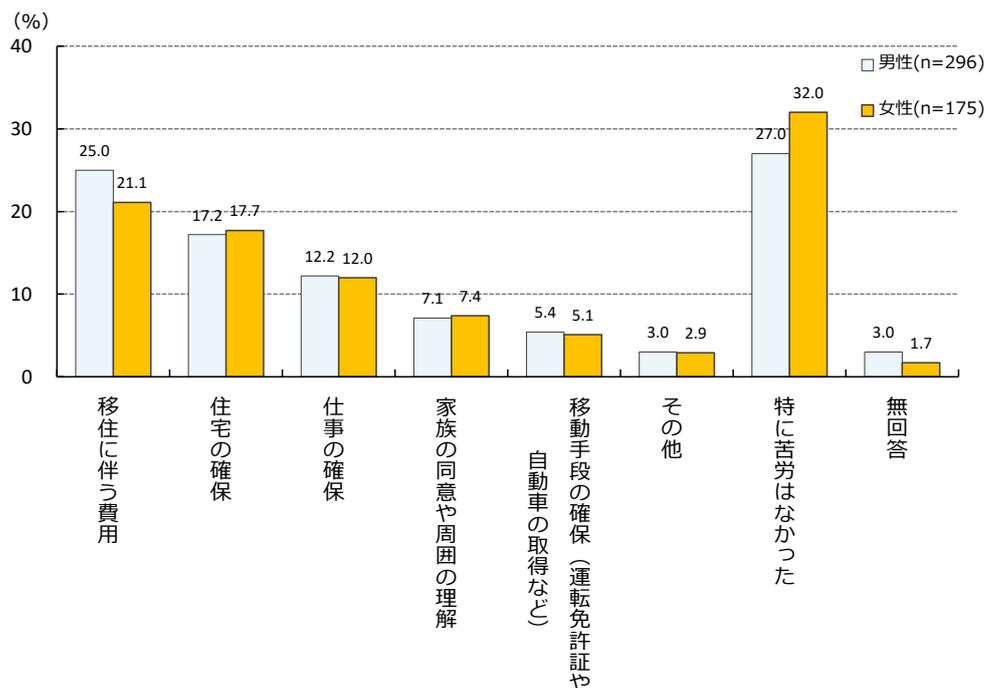


図 84 男女別最も苦勞した点別割合

最も苦勞した点について、男女別での特徴的な差はみられない。

【転職の有無別／最も苦勞した点】

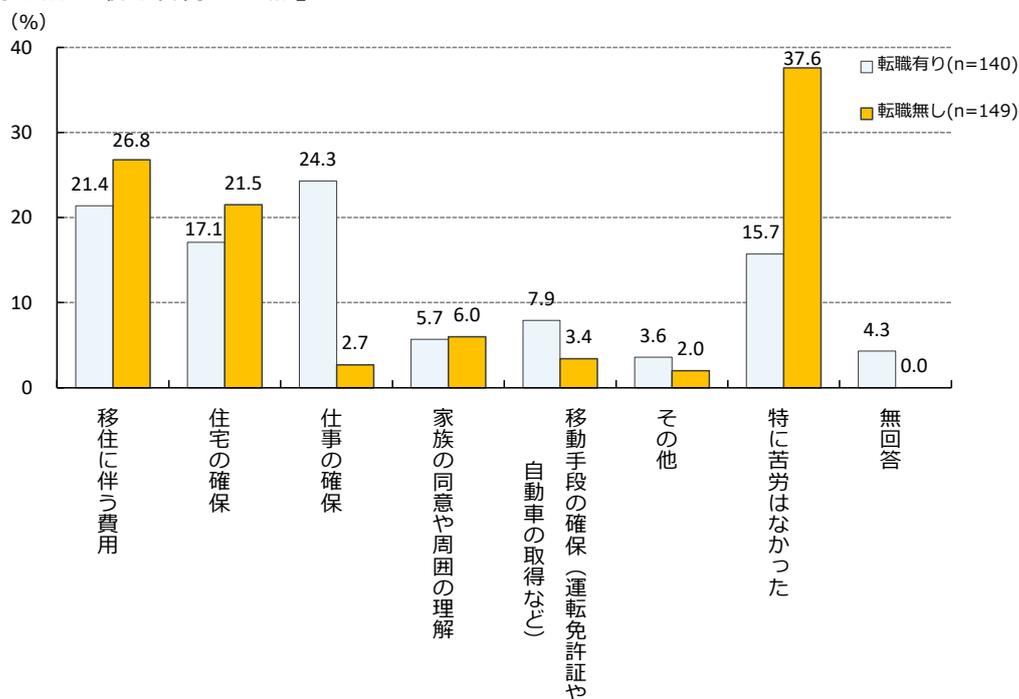


図 85 転職の有無別最も苦勞した点別割合

最も苦勞した点の割合を転職の有無別にみると、転職有りでは「仕事の確保」(24.3%)が、転職無しに比べ特に高くなっている。

一方、転職無しでは「特に苦勞はなかった」(37.6%)が、転職有りに比べ高くなっている。

(6) 特に必要だった情報

- ◇「生活環境」が55.7%と最も高く、次いで「住居」が48.9%で続く。
- ◇20歳代、50歳代では「就職・転職」が約5割を占めている。

Q19 移住するに当たり、特に必要だった情報を上位3つまで記入してください。

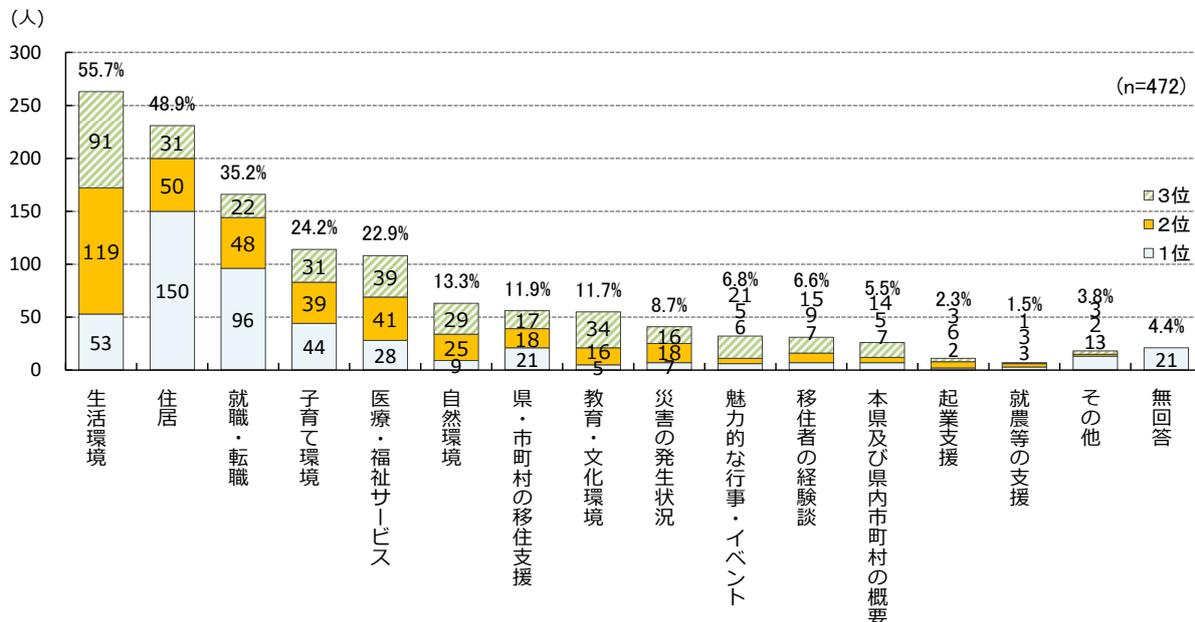


図 86 特に必要だった情報別順位別回答数

表 7 「特に必要だった情報」点数化集計表

特に必要だった情報	1位	2位	3位	合計点
住居	450点	100点	31点	581点
生活環境	159点	238点	91点	488点
就職・転職	288点	96点	22点	406点
子育て環境	132点	78点	31点	241点
医療・福祉サービス	84点	82点	39点	205点
県・市町村の移住支援	63点	36点	17点	116点
自然環境	27点	50点	29点	106点
教育・文化環境	15点	32点	34点	81点
災害の発生状況	21点	36点	16点	73点
移住者の経験談	21点	18点	15点	54点
魅力的な行事・イベント	18点	10点	21点	49点
本県及び県内市町村の概要	21点	10点	14点	45点
起業支援	6点	12点	3点	21点
就農等の支援	9点	6点	1点	16点

※1位として選択した件数に3点、2位に2点、3位に1点を付与し、合計点を算出。

特に必要だった情報（複数回答：1位から3位の合計）の割合をみると、「生活環境」が55.7%（263人）と最も高く、次いで「住居」（48.9%；231人）、「就職・転職」（35.2%；166人）の順となっている。

また、特に必要だった情報の優先度を考慮して1位に3点、2位に2点、3位に1点を付与し、点数化して集計を行ったところ、合計点の高いものから「住居（581点）」、「生活環境（488点）」、「就職・転職（406点）」の順となっている。

【年齢別／特に必要だった情報】

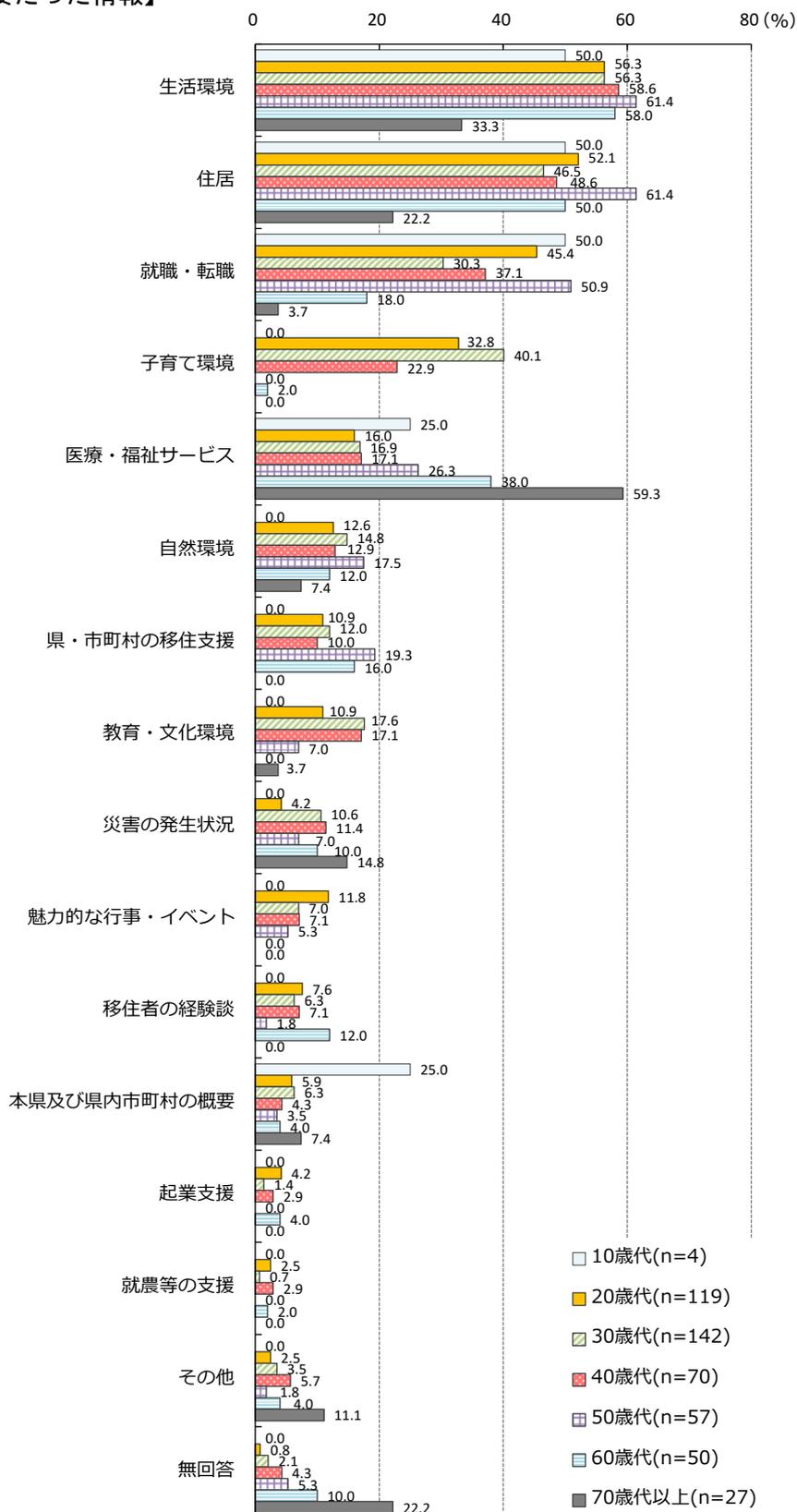


図 87 年齢別特に必要だった情報別割合

特に必要だった情報（複数回答：1位から3位の合計）の割合を年齢別にみると、10歳代、20歳代、50歳代では「就職・転職」が約5割、50歳代では「住居」も約6割と、他の年齢に比べ高くなっている。20歳代～40歳代では「子育て環境」が約2～4割と、他の年齢に比べ高くなっている。70歳代以上では「医療・福祉サービス」が約6割と、他の年齢に比べ特に高くなっている。

【移動パターン別／特に必要だった情報】

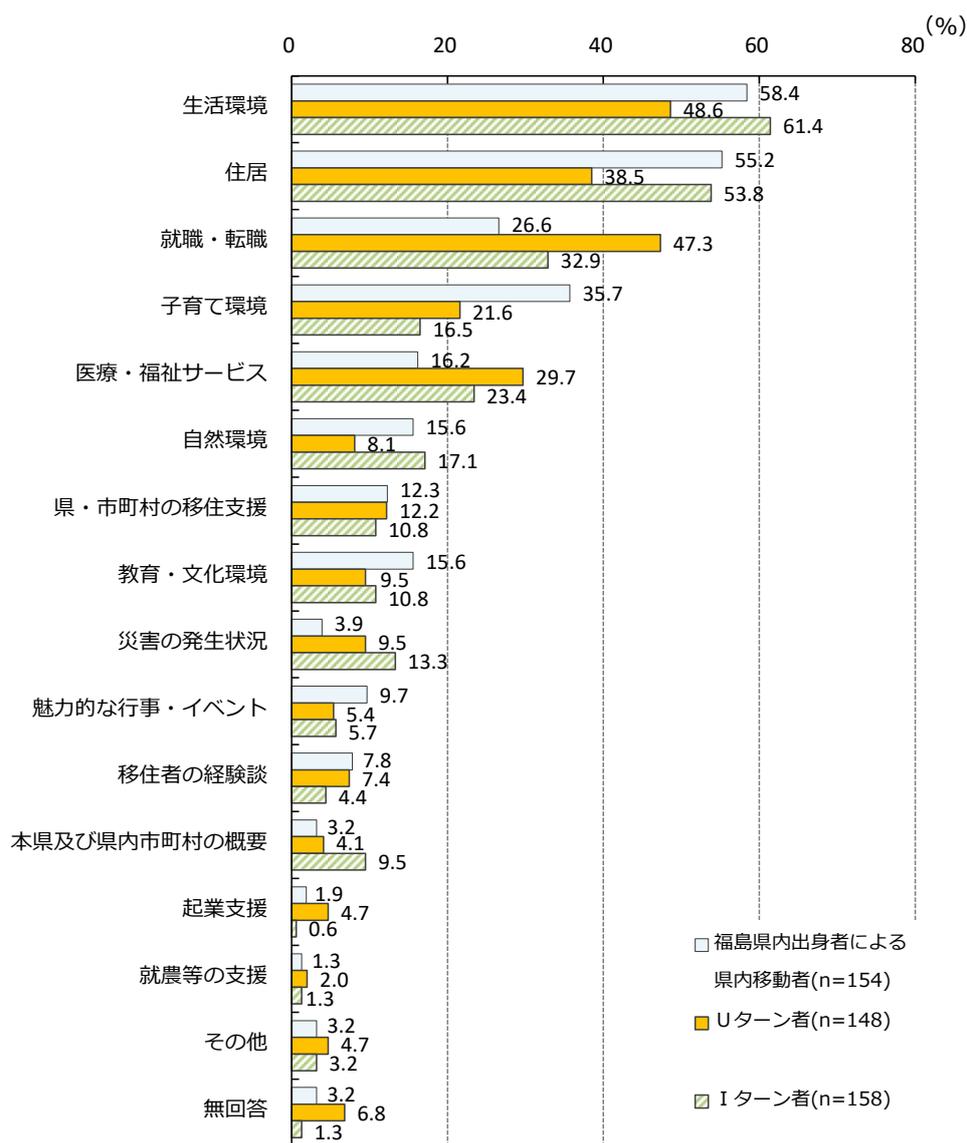


図 88 移動パターン別特に必要だった情報別割合

特に必要だった情報（複数回答：1位から3位の合計）について移動パターン別にみると、県内移動者では「子育て環境」（35.7%）の割合が、他の移動パターンに比べ特になくなっている。

一方、Uターン者では「就職・転職」（47.3%）が、他の移動パターンに比べ特になくなっている。

【転入元県内外別／特に必要だった情報】

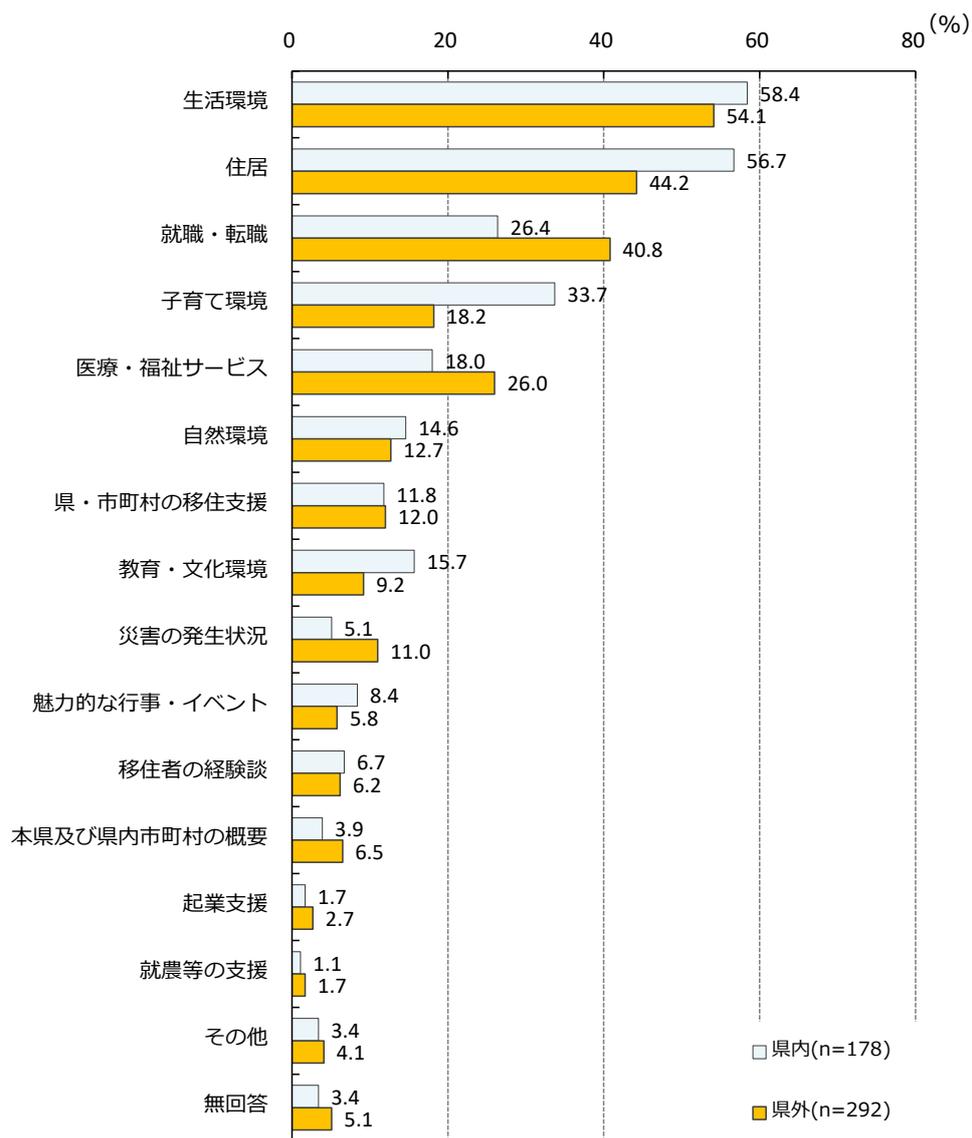


図 89 転入元県内外別特に必要だった情報別割合

特に必要だった情報（複数回答：1位から3位の合計）について転入元県内外別にみると、県内では「住居」（56.7%）、「子育て環境」（33.7%）の割合が、県外に比べ特に高くなっている。

一方、県外では「就職・転職」（40.8%）が、県内に比べ特に高くなっている。

【居住経験別／特に必要だった情報】

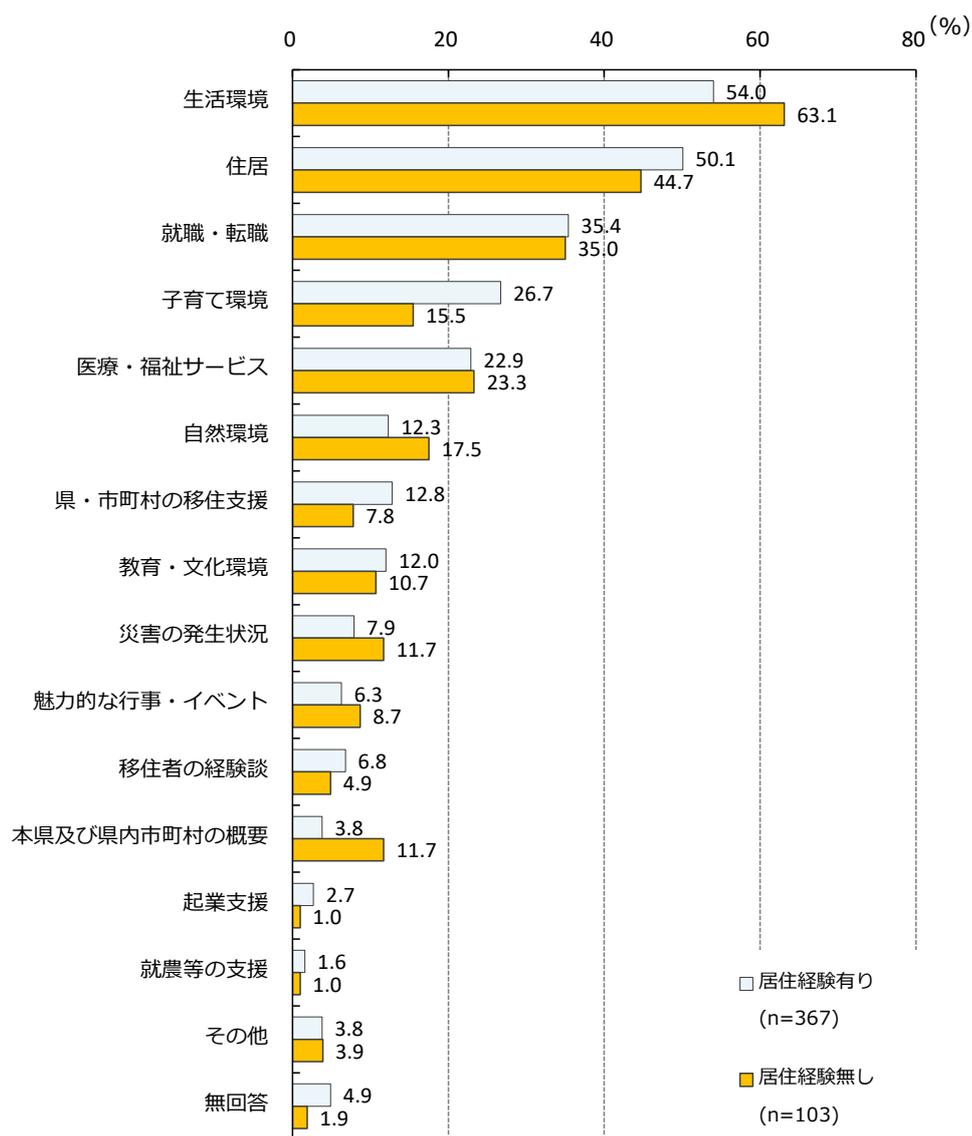


図 90 居住経験別特に必要だった情報別割合

特に必要だった情報（複数回答：1位から3位の合計）について居住経験別にみると、居住経験有りでは「子育て環境」（26.7％）の割合が、居住経験無しに比べ特にならなっている。

一方、居住経験無しでは「生活環境」（63.1％）、「本県及び県内市町村の概要」（11.7％）が、居住経験有りに比べ特にならなっている。

【性別／特に必要だった情報】

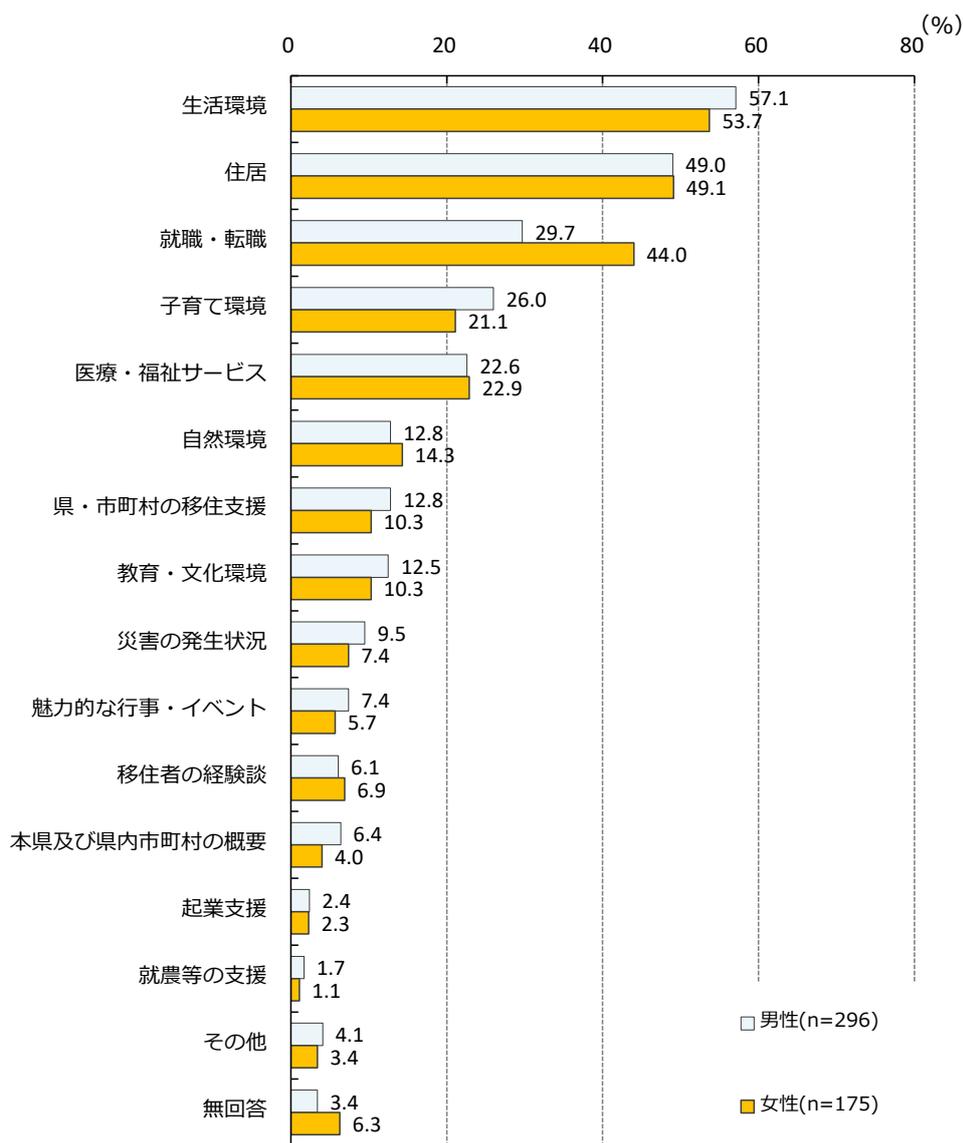


図 91 男女別特に必要だった情報別割合

特に必要だった情報（複数回答：1位から3位の合計）について男女別にみると、女性では「就職・転職」（44.0%）の割合が、男性に比べ特になくなってきている。

【転職の有無別／特に必要だった情報】

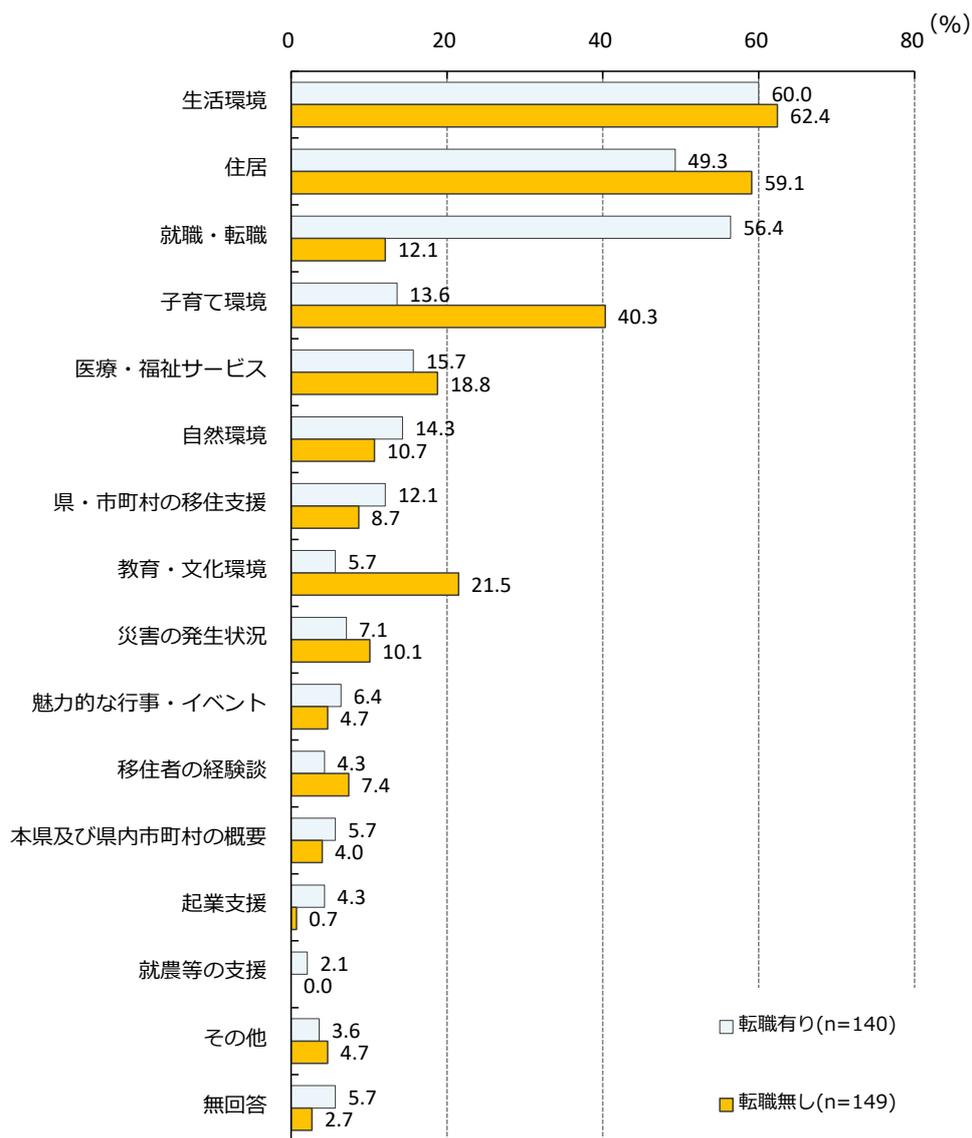


図 92 転職の有無別特に必要だった情報別割合

特に必要だった情報（複数回答：1位から3位の合計）について転職の有無別にみると、転職有りでは「就職・転職」（56.4%）の割合が、転職無しに比べ40ポイント以上高くなっている。

一方、転職無しでは「住居」（59.1%）、「子育て環境」（40.3%）、「教育・文化環境」（21.5%）が、転職有りに比べ特に高くなっている。

(7) 必要な情報の入手方法

◇「友人・知人からの口コミ」が46.8%と最も高い。次いで「親・親戚からの口コミ」「市町村ホームページ」が約4割となっている。

Q19-1 移住するに当たり、必要な情報の入手方法について効果的だったものを、上位3つまで記入してください。

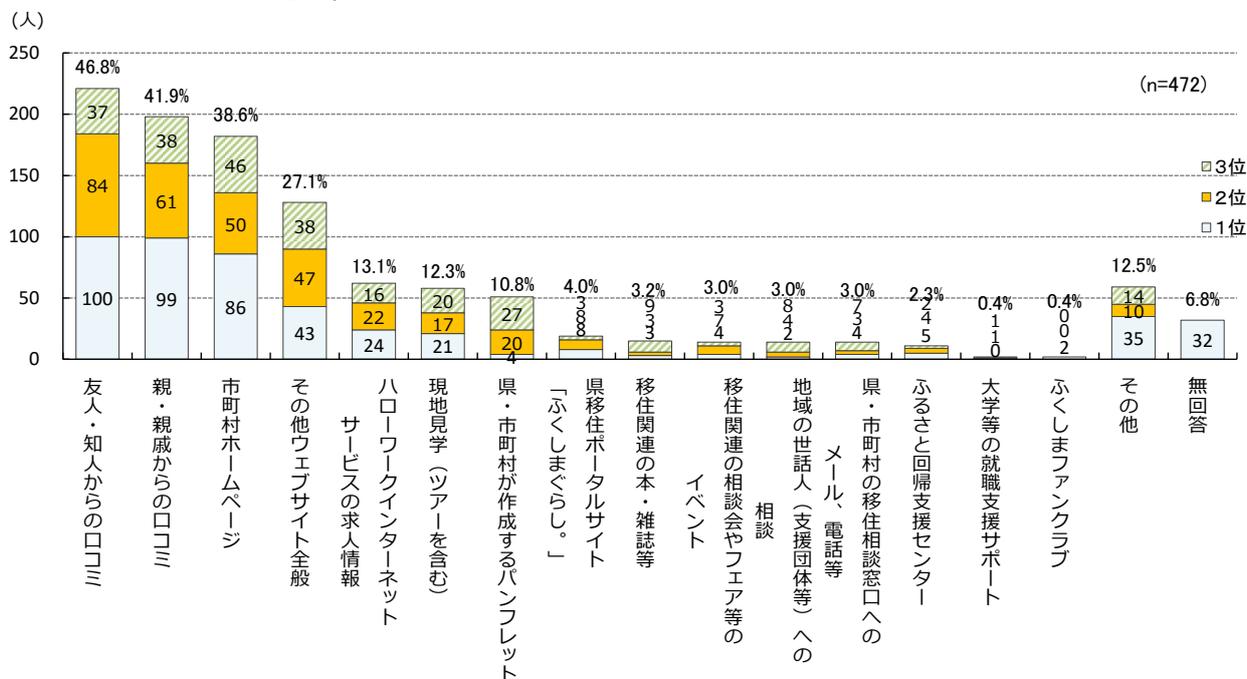


図 93 必要な情報の入手方法別順位別回答数

表 8 「必要な情報の入手方法」点数化集計表

必要な情報の入手方法	1位	2位	3位	合計点
友人・知人からの口コミ	300点	168点	37点	505点
親・親戚からの口コミ	297点	122点	38点	457点
市町村ホームページ	258点	100点	46点	404点
その他ウェブサイト全般	129点	94点	38点	261点
ハローワークインターネットサービスの求人情報	72点	44点	16点	132点
現地見学（ツアーを含む）	63点	34点	20点	117点
県・市町村が作成するパンフレット	12点	40点	27点	79点
県移住ポータルサイト「ふくしまぐらし。」	24点	16点	3点	43点
移住関連の相談会やフェア等のイベント	12点	14点	3点	29点
ふるさと回帰支援センター	15点	8点	2点	25点
県・市町村の移住相談窓口へのメール、電話等	12点	6点	7点	25点
移住関連の本・雑誌等	9点	6点	9点	24点
地域の世話人（支援団体等）への相談	6点	8点	8点	22点
ふくしまファンクラブ	6点	0点	0点	6点
大学等の就職支援サポート	0点	2点	1点	3点

※1位として選択した件数に3点、2位に2点、3位に1点を付与し、合計点を算出。

必要な情報の入手方法（複数回答：1位から3位の合計）については、「友人・知人からの口コミ」の割合が46.8%（221人）と最も高く、次いで「親・親戚からの口コミ」（41.9%；198人）、「市町村ホームページ」（38.6%；182人）の順となっている。

また、必要な情報の入手方法の優先度を考慮して1位に3点、2位に2点、3位に1点を付与し、点数化して集計を行ったところ、合計点の高いものから「友人・知人からの口コミ（505点）」、「親・親戚からの口コミ（457点）」、「市町村ホームページ（404点）」の順となっている。

【年齢別／必要な情報の入手方法】

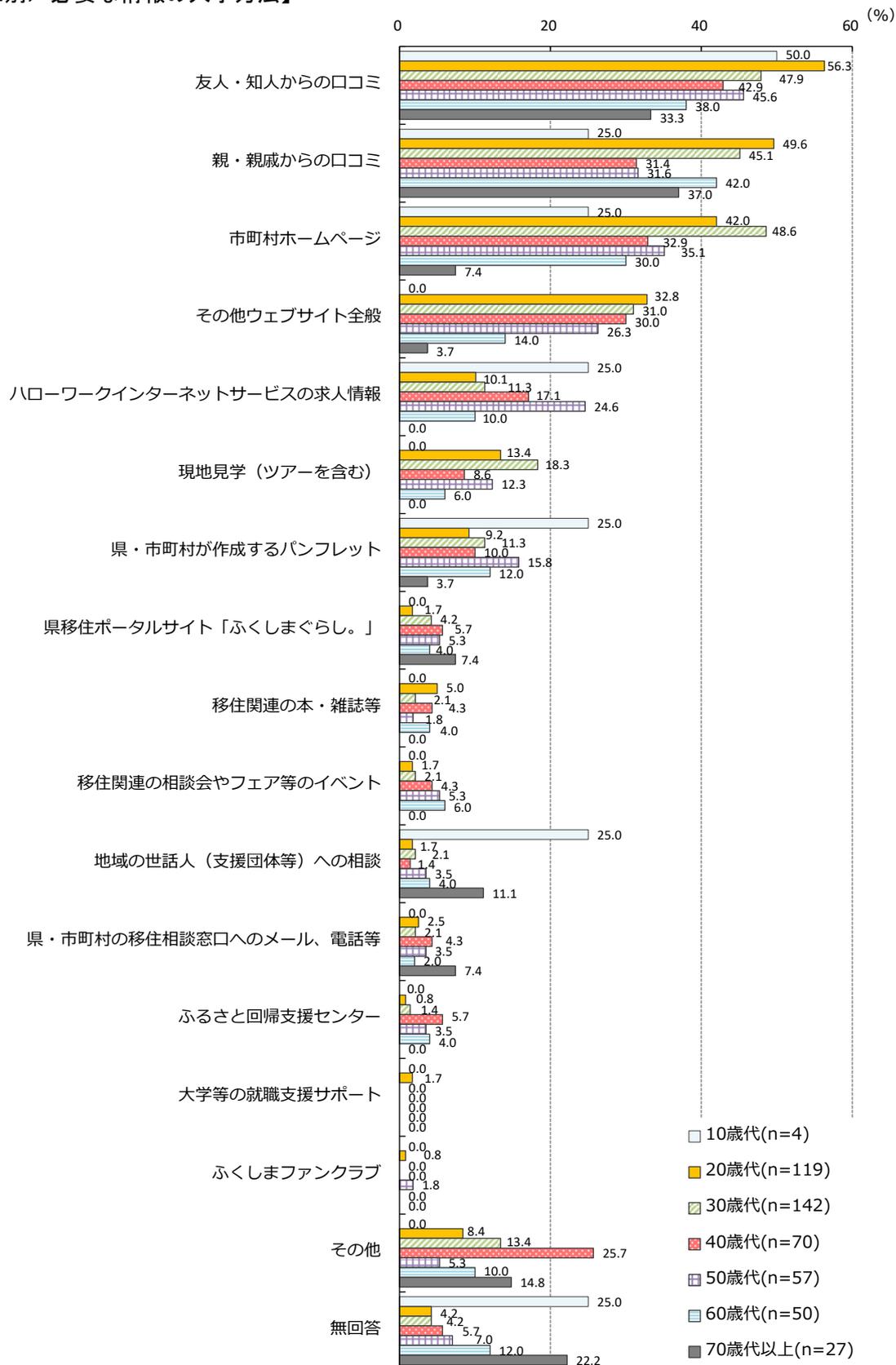


図 94 年齢別必要な情報の入手方法別割合

必要な情報の入手方法（複数回答：1位から3位の合計）について年齢別にみると、20歳代、30歳代、60歳代では「親・親戚からの口コミ」、20歳代、30歳代では「市町村ホームページ」の割合がそれぞれ4割以上と、他の年齢に比べ高くなっている。

【移動パターン別／必要な情報の入手方法】

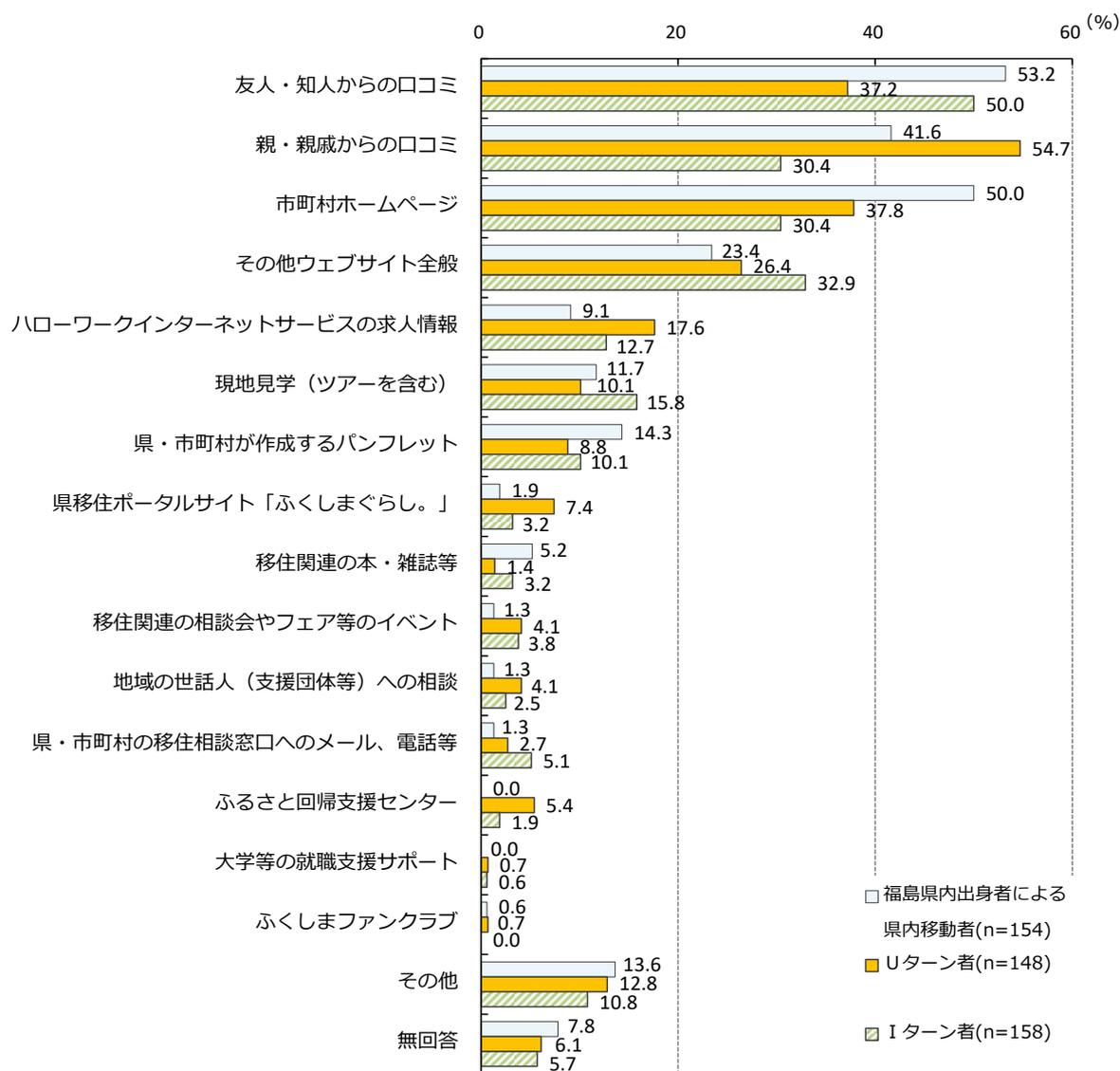


図 95 移動パターン別必要な情報の入手方法別割合

必要な情報の入手方法（複数回答：1位から3位の合計）について移動パターン別にみると、県内移動者及びIターン者では、「友人・知人からの口コミ」が5割以上で最も高く、県内移動者では「市町村ホームページ」も5割と高くなっている。一方、Uターン者では、「親・親戚からの口コミ」が5割以上で最も高くなっている。

【居住経験別／必要な情報の入手方法】

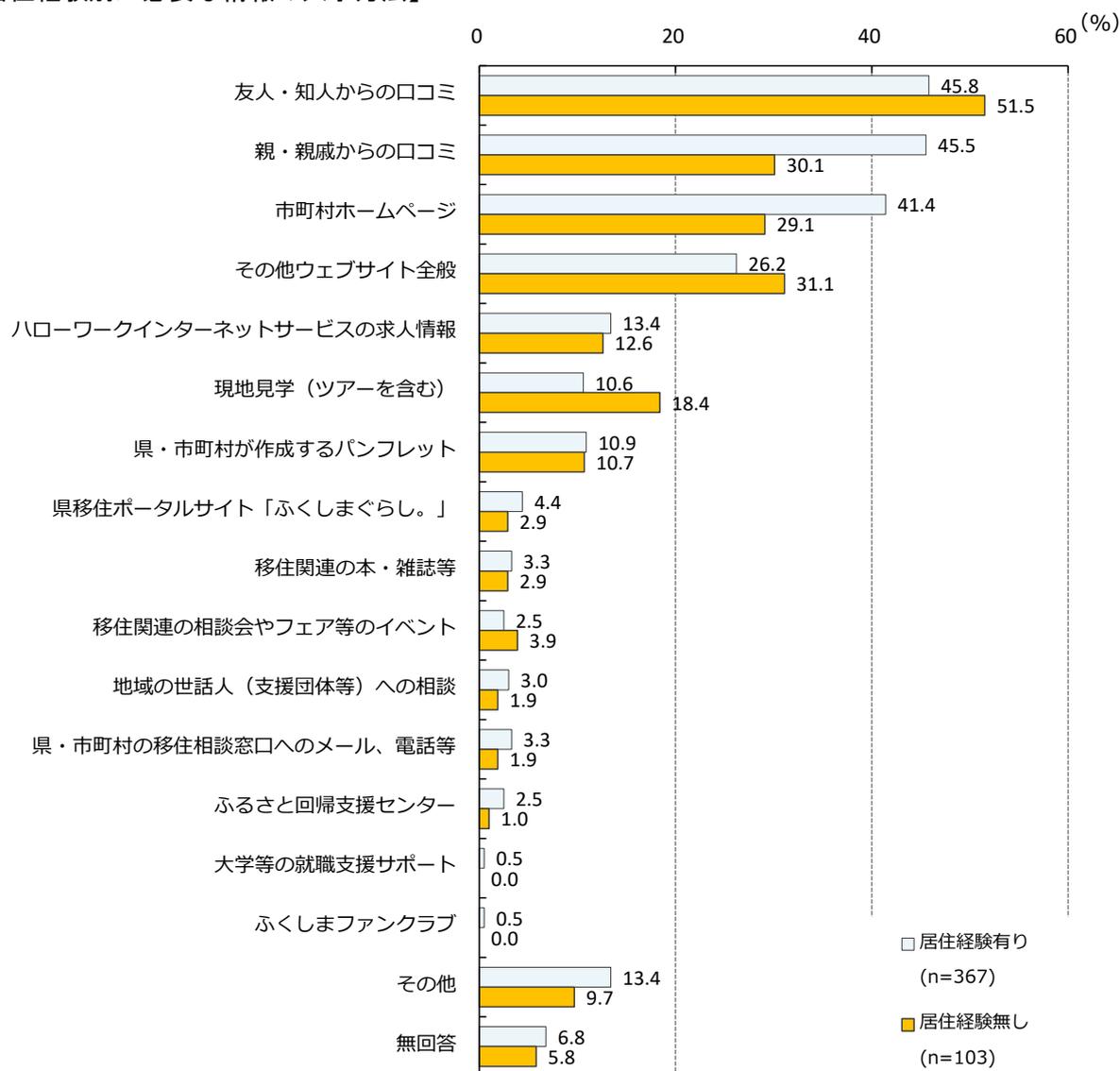


図 96 居住経験別必要な情報の入手方法別割合

必要な情報の入手方法（複数回答：1位から3位の合計）について居住経験別にみると、居住経験有りでは「親・親戚からの口コミ」及び「市町村ホームページ」の割合が4割以上と、居住経験無しに比べ特に高くなっている。

一方、居住経験無しでは「友人・知人からの口コミ」（51.5%）、「その他ウェブサイト全般」（31.1%）、「現地見学（ツアーを含む）」（18.4%）等が、居住経験有りに比べ高くなっている。

【性別／必要な情報の入手方法】

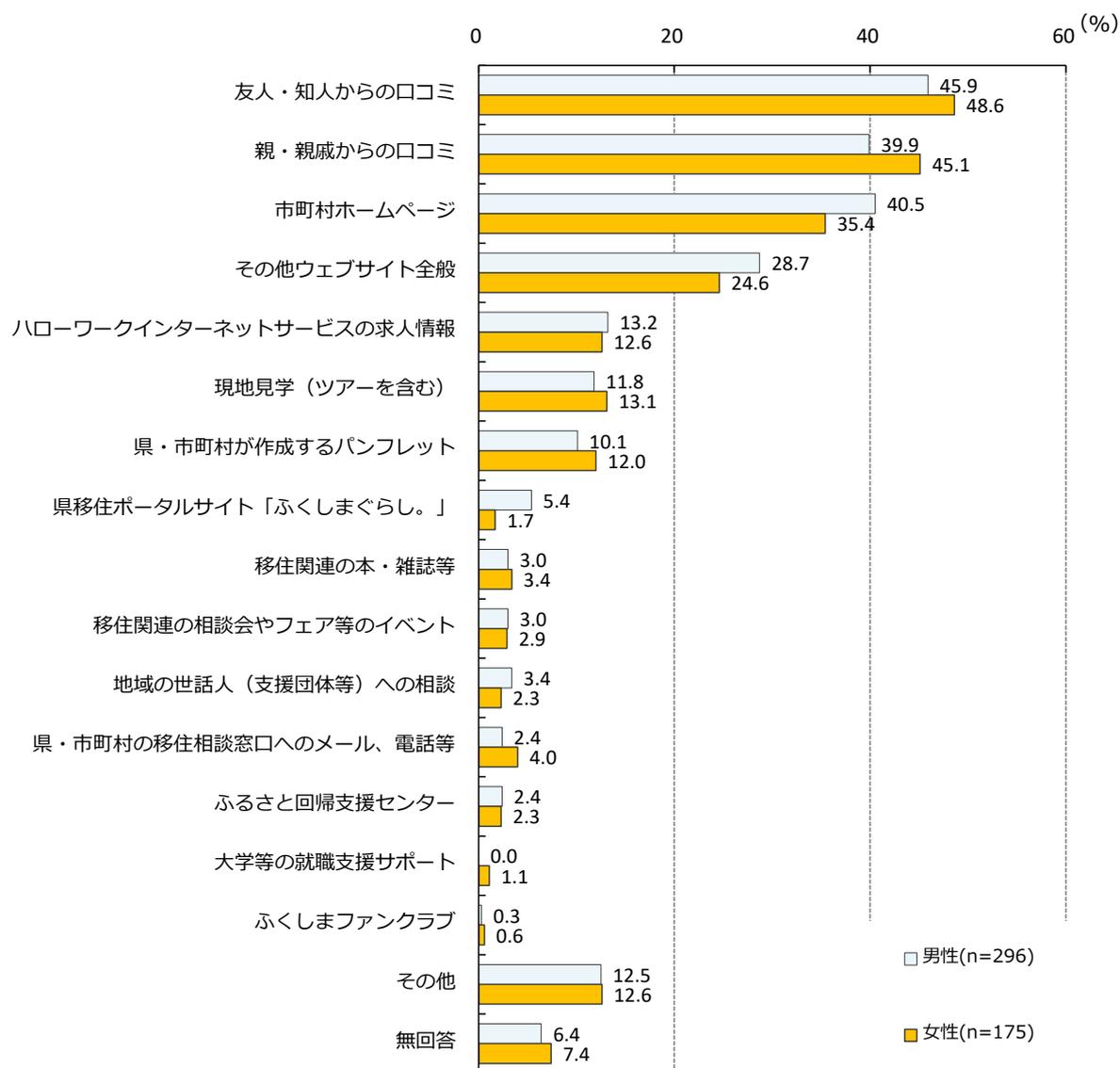


図 97 男女別必要な情報の入手方法別割合

必要な情報の入手方法（複数回答：1位から3位の合計）について男女別にみると、女性では「友人・知人からの口コミ」（48.6%）、「親・親戚からの口コミ」（45.1%）等の割合が男性に比べ高くなっている。

一方、男性では「市町村ホームページ」（40.5%）、「その他ウェブサイト全般」（28.7%）等が、女性に比べ高くなっている。

【転職の有無別／必要な情報の入手方法】

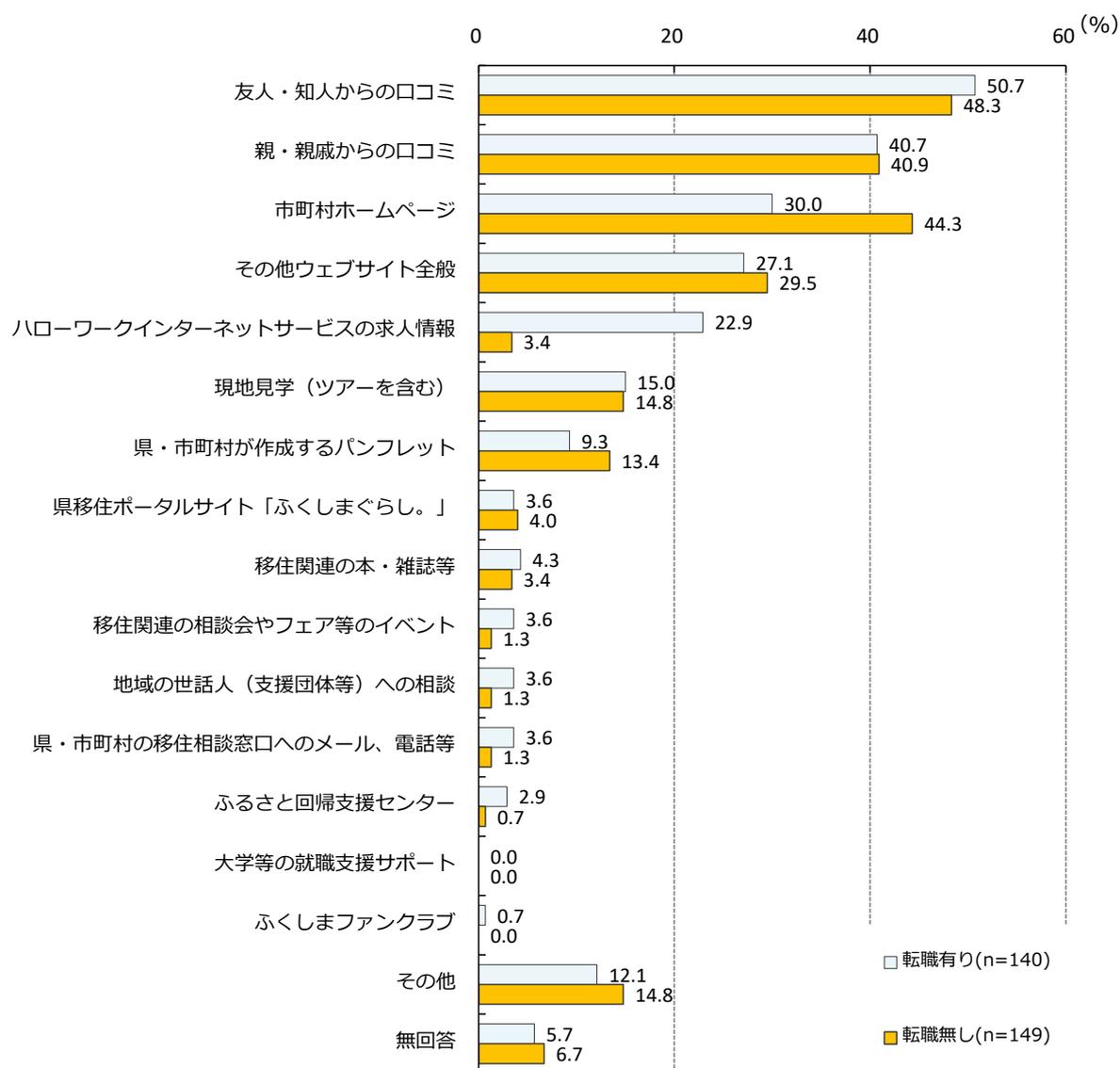


図 98 転職の有無別必要な情報の入手方法別割合

必要な情報の入手方法（複数回答：1位から3位の合計）について転職の有無別にみると、転職有りでは「ハローワークインターネットサービスの求人情報」（22.9％）の割合が、転職無しに比べ約20ポイント高くなっている。

一方、転職無しでは「市町村ホームページ」（44.3％）が、転職有りに比べ特に高くなっている。

(8) 最も必要なサポート

- ◇「仕事・暮らしの情報が一覧できる総合情報サイト」が38.1%と最も高く、次いで「仕事・暮らしのことが相談できる総合相談窓口」も3割以上となっている。
- ◇50歳代では「仕事・暮らしのことが相談できる総合相談窓口」が約4割と高くなっている。

Q20 移住するに当たり、最も必要なサポートについて教えてください。

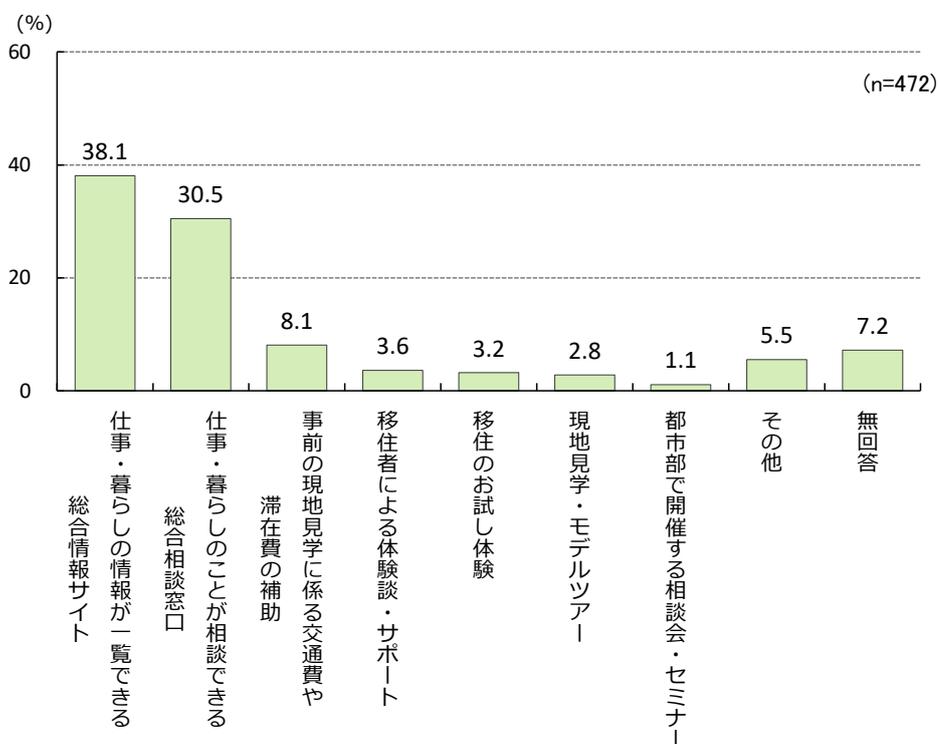


図 99 最も必要なサポート別割合

最も必要なサポートについては、「仕事・暮らしの情報が一覧できる総合情報サイト」の割合が38.1%と最も高く、次いで「仕事・暮らしのことが相談できる総合相談窓口」(30.5%)、「事前の現地見学に係る交通費や滞在費の補助」(8.1%)の順となっている。

【年齢別／最も必要なサポート】

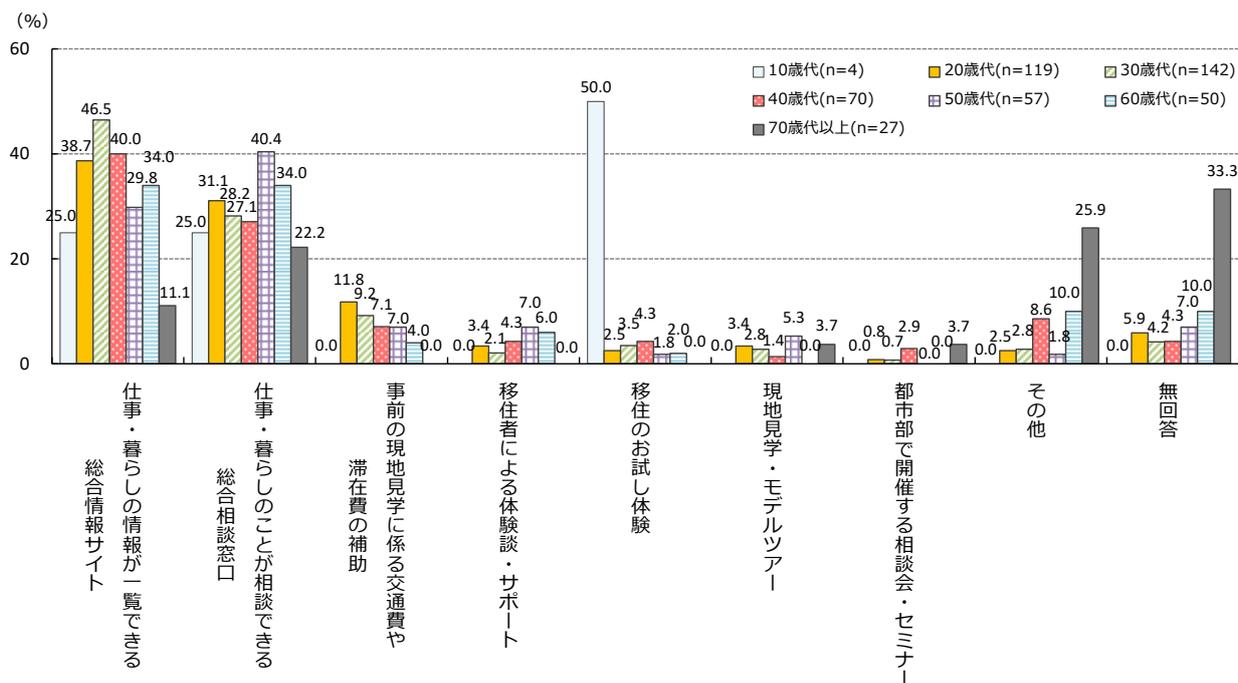


図 100 年齢別最も必要なサポート別割合

最も必要なサポートについて年齢別にみると、若年層ほど「事前の現地見学に係る交通費や滞在費の補助」の割合が高くなっている。

30歳代では「仕事・暮らしの情報が一覧できる総合情報サイト」(46.5%)、50歳代では「仕事・暮らしのことが相談できる総合相談窓口」(40.4%)が、他の年齢に比べ高くなっている。

【移動パターン別／最も必要なサポート】

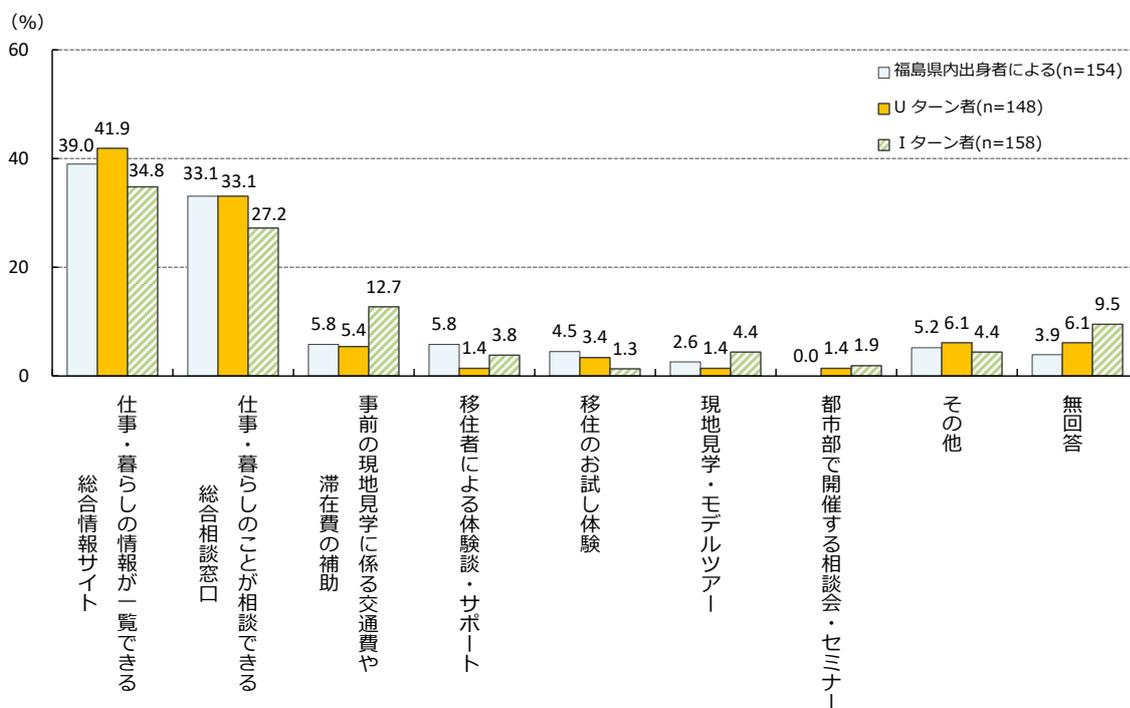


図 101 移動パターン別最も必要なサポート別割合

最も必要なサポートについて移動パターン別にみると、Iターン者では「事前の現地見学に係る交通費や滞在費の補助」(12.7%)等の割合が、他の移動パターンに比べ高くなっている。

【転入元県内外別／最も必要なサポート】

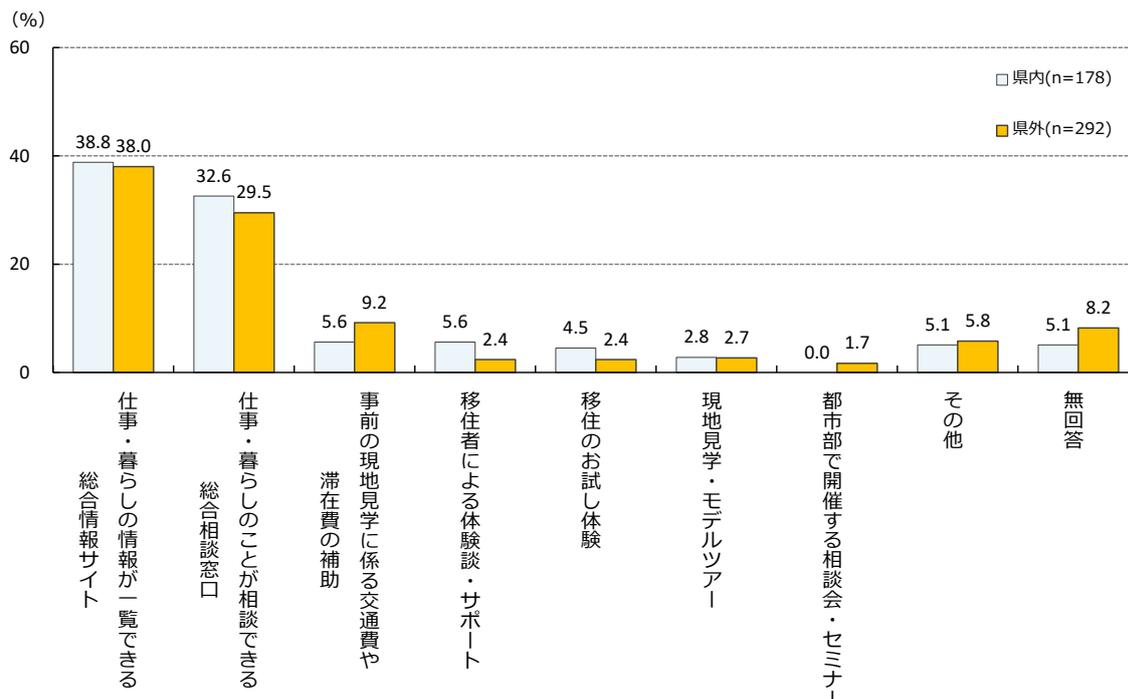


図 102 転入元県内外別最も必要なサポート別割合

最も必要なサポートについて、転入元県内外別での特徴的な差はみられない。

【家族構成別／最も必要なサポート】

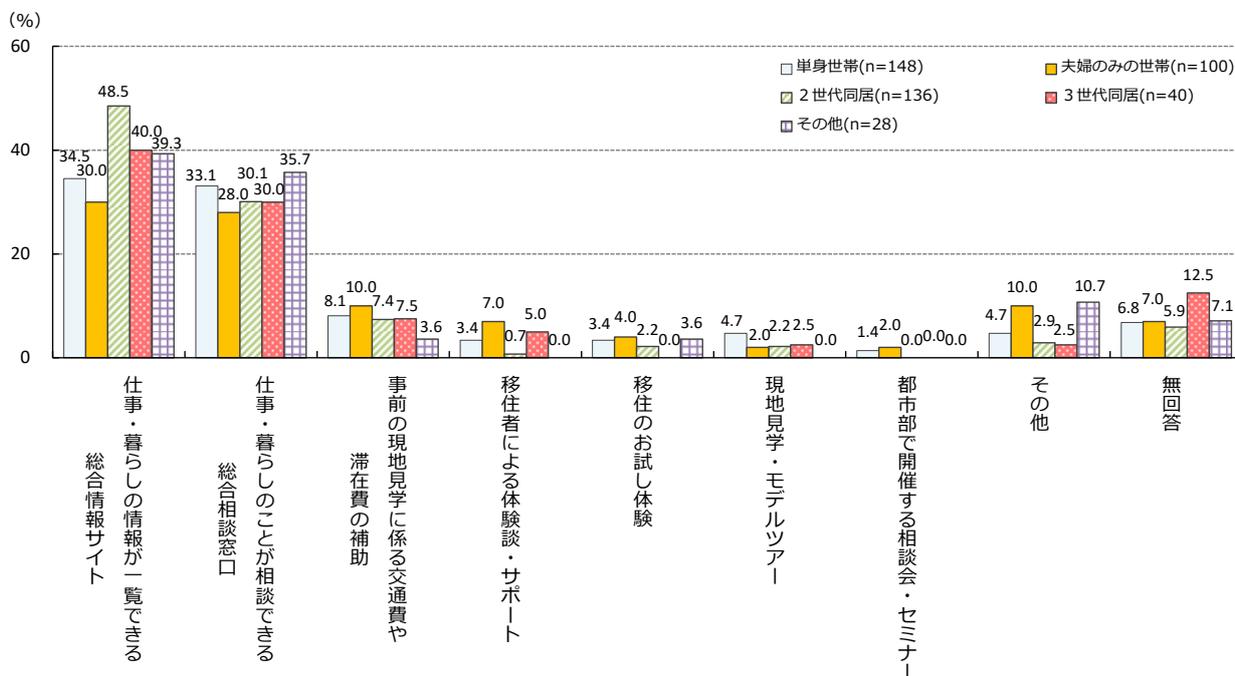


図 103 家族構成別最も必要なサポート別割合

最も必要なサポートについて家族構成別にみると、2世代同居では「仕事・暮らしの情報が一覧できる総合情報サイト」(48.5%)の割合が、他の家族構成に比べ高くなっている。

【居住経験別／最も必要なサポート】

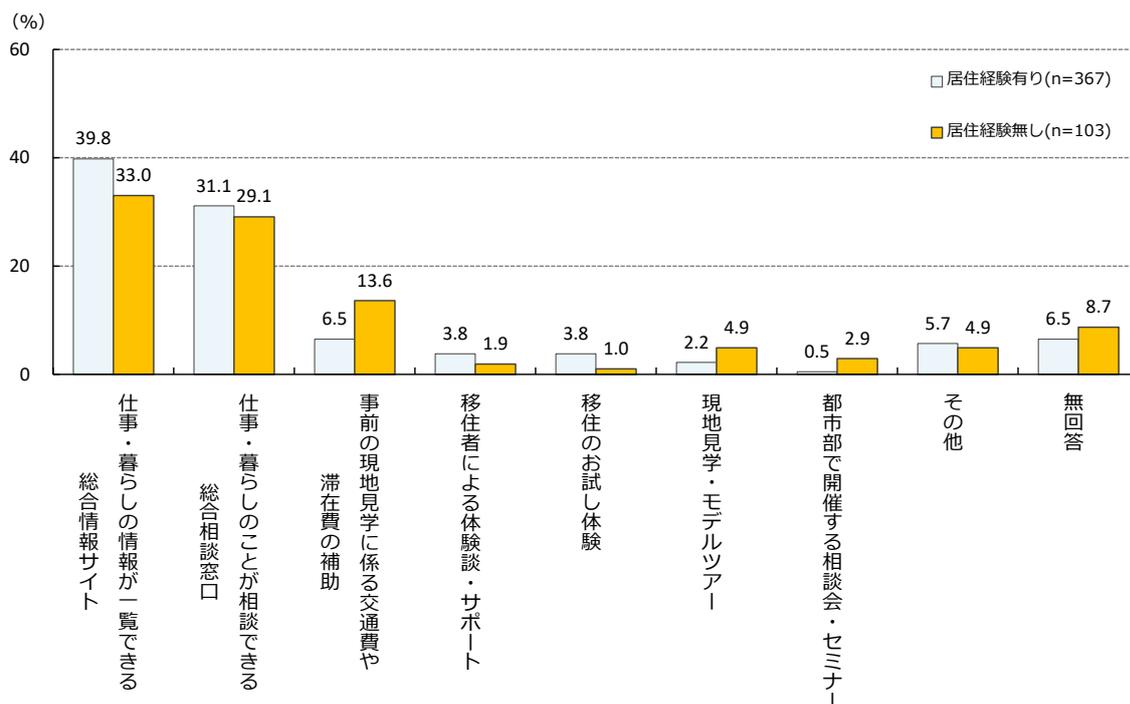


図 104 居住経験別最も必要なサポート別割合

最も必要なサポートについて居住経験別にみると、居住経験無しでは「事前の現地見学に係る交通費や滞在費の補助」(13.6%)等の割合が、居住経験有りに比べ高くなっている。

【転職の有無別／最も必要なサポート】

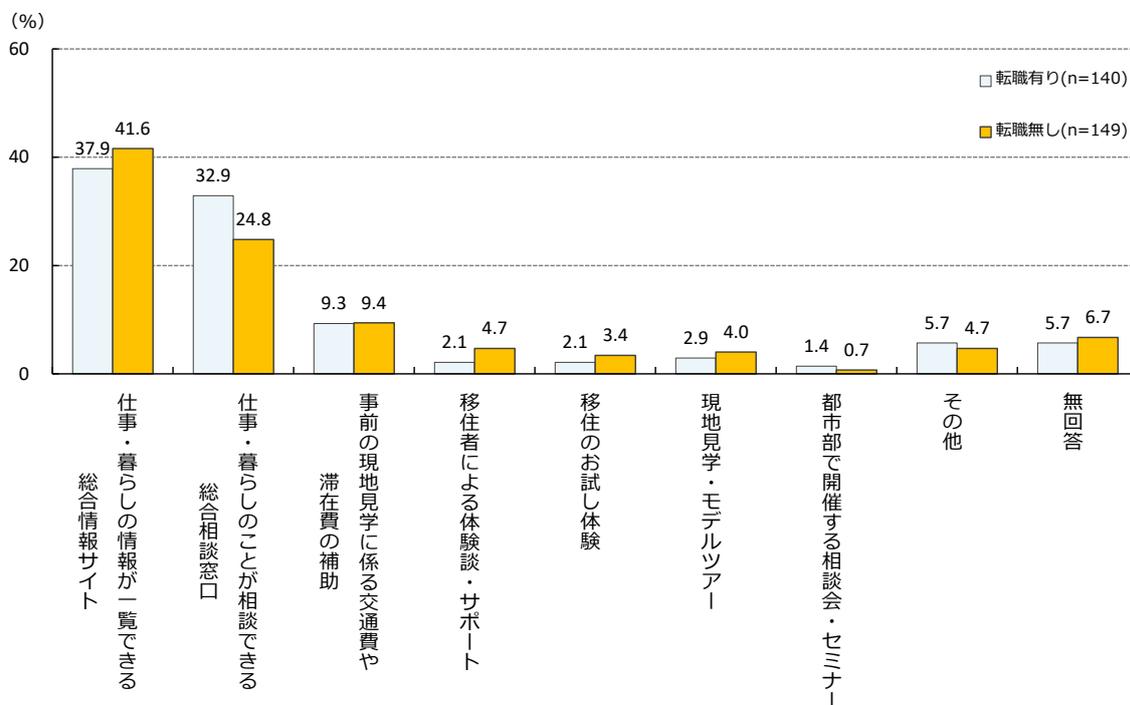


図 105 転職の有無別最も必要なサポート別割合

最も必要なサポートについて転職の有無別にみると、転職有りでは「仕事・暮らしのことが相談できる総合相談窓口」(32.9%)等の割合が、転職無しに比べ高くなっている。

## (9) 期待する支援策

◇「住宅・建物の取得、リフォームや家賃」「子育て・学校」が30件以上と多い。

Q21 移住するに当たり、期待する支援策等があれば教えてください。(自由記述)

表9 期待する支援策

期待する支援策	
住宅・建物の取得、リフォームや家賃に関する支援	44 件
子育て・学校に関する支援	35 件
移住のための情報・地域の情報取得に関する支援	26 件
就職や事業に関する支援	23 件
交通の利便性・移住のための交通費に関する支援	19 件
生活環境全般に関する支援	17 件
引っ越しの支援	14 件
医療・福祉に関する支援	14 件
その他の補助金による支援	13 件
相談による支援	12 件
高齢者の支援	6 件
コミュニティに溶け込むための支援	6 件
その他の支援・意見	12 件
計	241 件

期待する支援策については、181人から241件の意見が得られた。「住宅・建物の取得、リフォームや家賃に関する支援」が44件と最も多く、次いで「子育て・学校に関する支援」(35件)、「移住のための情報・地域の情報取得に関する支援」(26件)の順となっている。

## 【主な意見】

## ＜住宅・建物の取得、リフォームや家賃に関する支援＞

- ・賃貸物件が少なすぎるし、高いから一戸建を購入しやすい支援があるとうれしい。
- ・移住者に対する住宅の支援で、購入する場合だけでなく、賃貸に対しても助成金／支援金が適用されると、移住を迷っている人には大変心強いと思います。
- ・移住者は古民家に入居することが多くなると思いますので、その住宅の改修に対する支援が必要ではないでしょうか(暗い、汚い、寒いの解消)。
- ・住宅のあっせんなどがあれば良いのでは。

## ＜子育て・学校に関する支援＞

- ・出産に対しての補助金、小学校のトイレや校舎の新しい設置。
- ・子育て環境の充実化、放射能のこともあるので、どのようにみんな遊ばせているのか知りたい。
- ・児童手当金のほかに、子育て支援金が欲しい。
- ・子供を優先させながら就職活動ができる環境があれば助かります。子供たちが冬のあいだ外で遊べないでいるので無料の遊べる施設がほしい！

<移住のための情報・地域の情報取得に関する支援>

- ・その市町村民になる事で得られる、サービス等の情報があればうれしく思います。タイミングとしては転入届提出の際など。
- ・現在、引越して間もないのでわかりませんが、市のホームページ以外で SNS 等で、イベントやセミナーなどの情報があれば良いと思います。インスタグラムなどで通知があると便利だと思います。
- ・どこになにかがある、どこでなにかができる等、分かりやすくまとめた資料かなにかがあれば良いかもしれません（県内、町内はもちろん、隣接県の情報 etc）。

<就職や事業に関する支援>

- ・仕事の量、種類の少ない地域の住民に対する仕事確保の支援。
- ・起業したいと考えているのですが、空き店舗などを無料で貸して頂けたりするサービスや、資金面での支援があればぜひ受けたいです。
- ・仕事の情報が少なく、どの都道府県からも探せるようなシステムがあればうれしい。

<交通の利便性・移住のための交通費に関する支援>

- ・地方は車社会で、バス等交通機関が車がない老夫婦にとっては不便です。バス代も高くどこか（病院等）へ行こうと思ってもお金がかかりすぎる。
- ・自動車等の購入支援やリースなどの紹介。
- ・住宅取得補助金が 40 歳未満までで該当しなかった。交通費や滞在費を検討したが分かりにくく、利用できなかった。

<生活環境全般に関する支援>

- ・冬期の除雪を充実してほしい。
- ・都会にいと、光熱費や車を保有するにあたっての資金や維持費などをあまり気にしませんでした。引っ越ししてきてから、福島は光熱費が高いことを知りました。都会と田舎での生活費の違いの内訳などをあらかじめ知っておけば良かったと思ったので、そういった事に関する支援があると嬉しいです。
- ・初回分のゴミ袋の無料配布（他県から移住するとゴミの捨て方が全くわからないため）。

<引っ越しの支援>

- ・引っ越しにかかる費用を少しでも支援していただけるとうれしいです。

<医療・福祉に関する支援>

- ・仕事や暮らしの相談やフォローや医療福祉の案内。転入後の医療で地域での健康診断などの案内や無料で受けられる内容のものを転入届提出時に大まかに説明があれば、生活の不安が少なくなるのでは。
- ・介護（老親 4 人）する側への支援。

<その他の補助金による支援>

- ・ 移住する費用の一部負担や独自のサポート支援があれば助かるし、もっと人を呼べると思う。
- ・ 税金等一定期間減額。

<相談による支援>

- ・ 家のリフォーム費用、ハウスクリーニングに対する補助金の具体的な制約がわかりづらく、特に県外からの移住者は頻繁に県の建設事務所に事前相談に来られないので、簡素化や、詳しい説明を事前に受けやすくして欲しい。
- ・ 住宅・教育・介護と、役場の相談する窓口がバラバラだったので、コーディネーターさんがいてくれたらありがたかったです。

<高齢者の支援>

- ・ 来年65才となります。高齢者の仕事と今後の生活について気軽に相談支援を受けたい。
- ・ 一人くらしのため、健康面や老後の生活支援。

<コミュニティに溶け込むための支援>

- ・ 移住した人たちで集まれるようなイベントがあったら嬉しいです。(女性だけのイベントがあったらさらにうれしい…！)
- ・ 移住後の移住者のための相談会を希望します。また、医療機関の一覧や地域の民生委員さんの紹介も希望します。

<その他の支援・意見>

- ・ 移住手続きの簡素化。
- ・ 生活に必要な家電などの提供。
- ・ 移住者が定住し易くなるような期間限定の支援制度などが欲しい。
- ・ 移住者本人外に対するサポートが必要。本人は仕事等があるが家族は未知の地域に移住したので何もわからず引きこもりになってしまう。

(10) 交流会やイベントの案内の可否

◇「いいえ」が6割を占めている。

Q22 今後、移住後の不安等の解消や情報共有の場として、移住者同士のつながりをつくっていき  
たいので、交流会やイベントなどのご案内をしてよろしいでしょうか。



図 106 交流会やイベントの案内の可否別割合

交流会やイベントの案内の可否については、「はい」が37.1%、「いいえ」が60.0%となっている。

## 4 復興プロジェクトの認知について

### (1) 福島県が取り組んでいる復興プロジェクトの認知

- ◇「米の全量全袋検査の実施」が48.7%と最も高い。
- ◇「Jヴィレッジの再整備」「農林水産物の放射性物質モニタリング検査の実施」は約4割となっている。

Q23 福島県が復興に向けて取り組んでいるプロジェクトについて、知っているものをすべて教えてください。（複数回答）

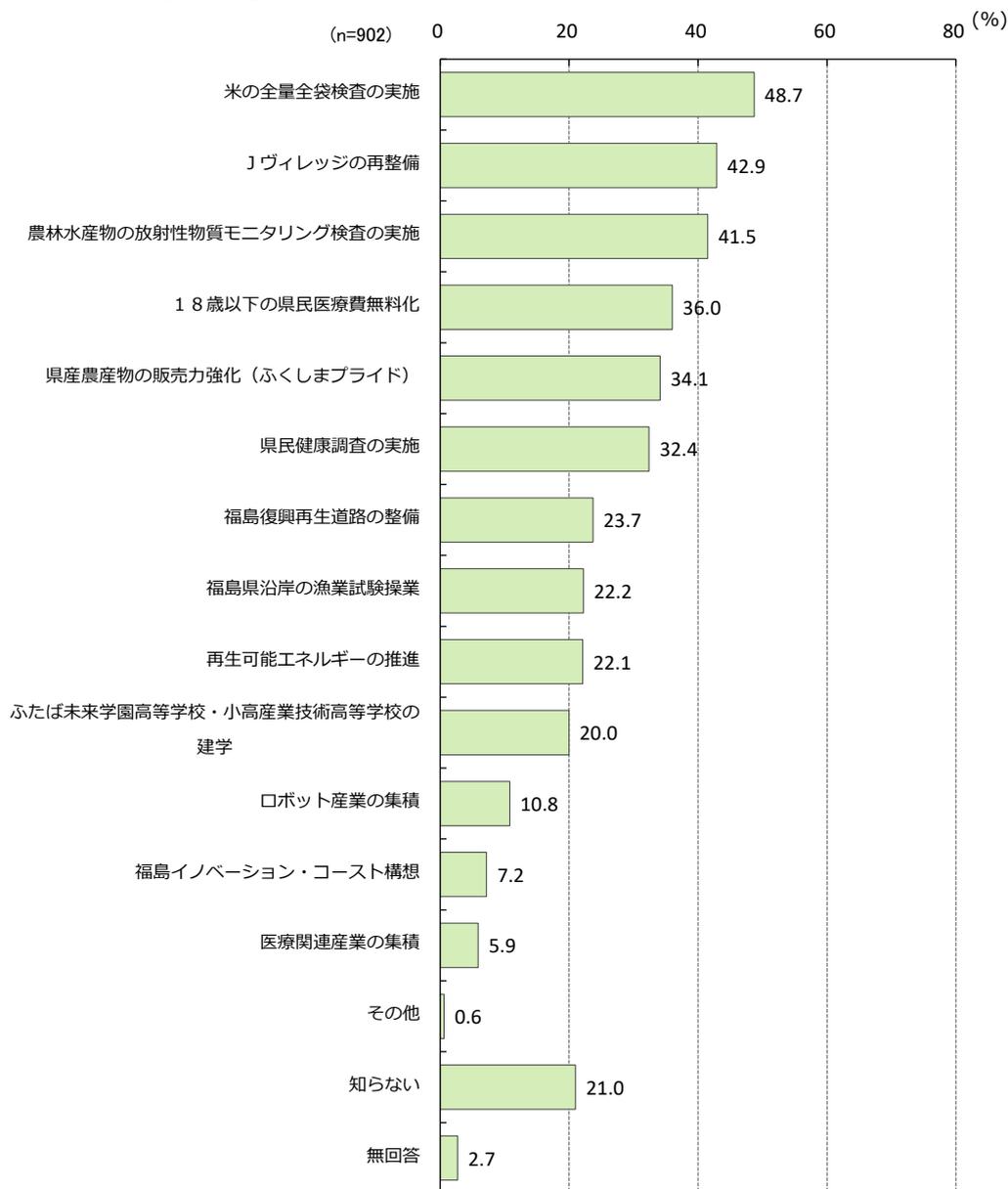


図 107 福島県が取り組んでいる復興プロジェクトの認知状況別割合

福島県が取り組んでいる復興プロジェクトの認知については、「米の全量全袋検査の実施」の割合が48.7%と最も高く、次いで「Jヴィレッジの再整備」（42.9%）、「農林水産物の放射性物質モニタリング検査の実施」（41.5%）の順となっている。

# IV 資料

## 1 使用した調査票

調査票 ID

# 福島県U Iターン実態調査

— 新規転入者アンケート —

### 《調査ご協力のお願い》

日頃から福島県政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

福島県では、将来にわたる地域活力の向上に向け、県外からの移住・定住・二地域居住を推進しています。このため、転入の実態と傾向を把握し、今後の施策にいかすことを目的に、新たに転入される皆さまを対象としたアンケート調査を行っております。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

福島県地域振興課

※調査結果は、統計データとして取りまとめ、個人が特定される形での公表はしません。  
また、個人情報については、「福島県個人情報保護条例」に則って適正に取り扱いますので、皆さまの率直なご意見を是非お聞かせください。

### 記入にあたってのお願い

- このアンケートは、転入届を提出した世帯の世帯主様が記入してください。
- 質問文を読み、当てはまる選択肢の番号を○で囲んでください。
- 「○は1つ」、「○はいくつでも」、など回答数の指定がありますので、設問文の案内に沿って回答してください。
- その他の（ ）内や自由意見欄には、あなたの考えや意見を具体的に記入してください。
- 記入は、黒または青のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。
- アンケートにご協力いただいた方の中から抽選でプレゼントをお送りします。プレゼントの抽選を希望される方は、Q24で「はい」を選択の上、発送先の氏名・住所等を記入してください。

※アンケートを複数回ご回答されている場合や、回答されている設問が少ない場合などは、希望された方であってもプレゼントの抽選を受けられない場合があります。

**福島県U Iターン実態調査担当**

[実施主体] 福島県地域振興課

[お問い合わせ先]

「福島県U Iターン実態調査事務局」  
(株式会社サーベイリサーチセンター東北事務所内)

電話：0120-663-734                      E-mail：fuku-uiturn@surece.co.jp

[設置期間] 平成30年7月23日(月)～平成31年2月28日(木)

平日 10時～16時半 ※12時～13時除く

※本アンケートはパソコンやスマートフォンなどからもご回答いただけます。  
こちらのQRコードを読み取りいただくか、下記URLよりご回答ください



[https:// research.surece.co.jp/fuku/](https://research.surece.co.jp/fuku/)

記入日：平成\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日 転入した市町村：\_\_\_\_\_（市・町・村）

## 1. あなた（世帯主様）のことがいえます

**Q 1** 性別を教えてください。（〇は1つ）

1. 男性 2. 女性

**Q 2** 結婚の状況について教えてください。（〇は1つ）

1. 未婚 2. 既婚

**Q 3** 年齢を教えてください。

満\_\_\_\_\_歳

**Q 4** 福島県に住んでいたことはありますか。「はい」と答えた方は、そのうち最近まで住んでいた市町村もご記入ください。（〇は1つ）

1. はい（市町村名：\_\_\_\_\_市・町・村） 2. いいえ

**Q 5** 現在のご職業（予定も含む）について教えてください。（〇は1つ）

1. 自営業 2. 会社員・団体職員 3. パート・アルバイト 4. 公務員 5. 学生 6. 無職 7. その他（\_\_\_\_\_）

▶ Q 5で「1」～「3」と答えた方のみ

**Q 5-1** 現在の業種について教えてください。（〇は1つ）

1. 農・林・漁業 2. 鉱業 3. 建設業 4. 製造業 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 6. 運輸・情報通信業 7. 卸売・小売業 8. 金融・保険業 9. 不動産業 10. サービス業 11. その他（\_\_\_\_\_）

現在、仕事に就いている方（Q 5で「1」～「4」、「7」と答えた方）のみ

**Q 5-2** 転入後のご職業をどのように見つけましたか。（〇はいくつでも）

1. 転入市町村に相談した 2. ハローワークに相談した 3. 友人・知人から紹介を受けた 4. インターネット等で独自に求人情報を探した 5. ふるさと福島就職情報センター（東京・有楽町）に相談した 6. その他（\_\_\_\_\_） 7. 転入前と同じ職業である

▶ Q 5-2で「1」～「6」と答えた方のみ

**Q 5-3** 転職に当たり、気がかりだった点がありましたか。（〇はいくつでも）

1. 求人が少ないこと 2. 収入が下がってしまうこと 3. 希望にかなう内容の仕事が見つからないこと 4. 自分のキャリア・スキルがいかせなくなること 5. 当時の仕事を辞めたくなかったこと 6. どこに相談したらよいか分からないこと 7. 通勤が不便になること 8. 起業・家業継承の資金や土地建物の確保 9. その他（\_\_\_\_\_） 10. 特にない

**Q 6** ご自身を含めて、転入前と転入後それぞれ世帯の人数を教えてください。

転入前：\_\_\_\_\_人 転入後：\_\_\_\_\_人

**Q 6-1** 転入後の家族構成について教えてください。(〇は1つ)

- |            |                     |           |
|------------|---------------------|-----------|
| 1. 単身世帯    | 3. 2世代同居(夫婦と子供など)   | 5. その他( ) |
| 2. 夫婦のみの世帯 | 4. 3世代同居(夫婦と子供と孫など) |           |

**Q 6-2** そのうち、子ども及び高齢者の人数を教えてください。

小学生以下 男性：\_\_\_\_\_人 女性：\_\_\_\_\_人  
 中学生・高校生 男性：\_\_\_\_\_人 女性：\_\_\_\_\_人  
 65歳以上の方 男性：\_\_\_\_\_人 女性：\_\_\_\_\_人

## 2. 今回の転入についておうかがいします

**Q 7** 転入前の住所及び出身地の住所について教えてください。

転入前の住所：\_\_\_\_\_ (都・道・府・県) \_\_\_\_\_ (市・区・町・村) その他(国外等) \_\_\_\_\_  
 出身地の住所：\_\_\_\_\_ (都・道・府・県) \_\_\_\_\_ (市・区・町・村) その他(国外等) \_\_\_\_\_

**Q 8** 転入理由について教えてください。(〇はいくつでも)

- |                       |                             |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1. 転勤による転入            | 7. 親族との同居に伴う転入              |
| 2. 福島県出身の学生の就職による転入   | 8. 地域おこし協力隊採用に伴う転入          |
| 3. 福島県外出身の学生の就職による転入  | 9. 地方暮らしや住環境を求めたことによる転入     |
| 4. 社会人の就職・転職・起業による転入  | 10. 復興に寄与するための取組を始めることによる転入 |
| 5. 進学(高校、短大、大学等)に伴う転入 | 11. その他( )                  |
| 6. 結婚に伴う転入            |                             |

**Q 9** 転入されたお住まいについて教えてください。(〇は1つ)

- |             |              |                       |
|-------------|--------------|-----------------------|
| 1. 実家に戻ってきた | 3. 一戸建てを借りた  | 5. アパート(民間)・マンションに入った |
| 2. 公営住宅に入った | 4. 一戸建てを購入した | 6. その他( )             |

**Q 10** 転入される際、空き家の購入(賃借)について教えてください。(〇は1つ)

- |  |       |
|--|-------|
| 1. 空き家の購入(賃借)を検討し、実際に空き家を購入(賃借)した          | ⇒Q11へ |
| 2. 空き家の購入(賃借)を検討したが、購入(賃借)しなかった、もしくはできなかった |       |
| 3. そもそも空き家を購入(賃借)することは検討しなかった              | ⇒Q11へ |

→ Q10で「2」と答えた方のみ

**Q10-1** 空き家を購入(賃借)しなかった、できなかった理由を教えてください。(〇はいくつでも)

- |                                    |
|------------------------------------|
| 1. 自分の希望する間取りや広さの物件がなかったから         |
| 2. 住みたいエリア・立地環境に、希望する物件がなかったから     |
| 3. 空き家としての期間が長く、建物の構造や整備状況が不安だったから |
| 4. 手続きや、所有者との交渉が面倒だと思ったから          |
| 5. 資産を持ちたくないから                     |
| 6. 資金が足りなかったから                     |
| 7. リフォームや設備導入にかかる費用が工面できなかったから     |
| 8. 家族からの合意が得られなかったから               |
| 9. 近所づきあいなどが大変だと思ったから              |
| 10. 転勤や転職などにより、定住することが考えにくかったから    |
| 11. どこから情報を得ていいのか分からなかったから         |
| 12. その他( )                         |

**Q11** 転入する際、自治体の移住支援を受けましたか。「はい」と答えた方は、具体的にどのような移住支援を受けたか教えてください。(〇は1つ)

1. はい	2. いいえ
↓	
具体的な支援内容：	
※移住支援の例：県・市町村の移住相談窓口へのメールや電話相談、お試し住居の活用、移住コーディネーターへの相談など	

**Q12** 転入する際、(転入前の相談等も含め、) 自治体の対応はいかがでしたか。(自由記述)

**Q13** 今回の転入市町村に概ね5年以上住むお考え(予定を含む)はありますか。(〇は1つ)

1. はい	2. いいえ	3. わからない
↓	↓	
Q14~Q24へお進みください	5ページ目のQ23~Q24へお進みください	

**Q14** 転入市町村を選ばれた理由について、上位3つまで、下の欄に番号を記入してください。

1. 出身地だから	8. 知人・友人がいる	15. 住宅価格や家賃が手頃
2. 福島県に愛着があった	9. 子育て環境が充実している	16. 親の意思
3. 自然・気候が良い	10. 教育・文化環境が良い	17. 転勤
4. 食べ物が美味しい	11. 医療・福祉の充実	18. 進学
5. 人柄が良い	12. 自分の趣味が楽しめる	19. 観光で来て良いと思った
6. 希望する仕事があった(転職含)	13. 生活費が安い	20. その他
7. 家族・親戚がいる	14. 都会を出たい	( )

上位3つまで番号記入

1位	2位	3位
----	----	----

**Q15** 移住するに当たり、転入市町村を訪問したことはありましたか。(〇は1つ)

1. はい(訪問回数：_____回)	2. いいえ
--------------------	--------

**Q16** 移住するに当たり、検討された他の候補地について、記入してください。

(県内)	(県外)
(市・区・町・村)	(都・道・府・県)
(市・区・町・村)	(都・道・府・県)
(市・区・町・村)	(都・道・府・県)

**Q17** 移住するに当たり、不安な点について、上位3つまで、下の欄に番号を記入してください。

- |               |                         |
|---------------|-------------------------|
| 1. 仕事の確保      | 9. 原発事故の影響              |
| 2. 収入の確保      | 10. 地震                  |
| 3. 住宅の確保      | 11. 冬の寒さ・積雪             |
| 4. 公共交通機関の不便さ | 12. 移住に伴う費用             |
| 5. 娯楽の少なさ     | 13. 家族の同意               |
| 6. 買物の不便さ     | 14. 人間関係（しきたり・近所づきあいなど） |
| 7. 医療・福祉      | 15. その他（ ）              |
| 8. 子育て環境・教育環境 | 16. 特に不安はなかった           |

上位3つまで番号記入

1位	2位	3位
----	----	----

**Q18** 移住するに当たり、最も苦労した点について教えてください。（○は1つ）

- |            |                                |              |
|------------|--------------------------------|--------------|
| 1. 仕事の確保   | 4. 家族の同意や周囲の理解                 | 6. その他（ ）    |
| 2. 住宅の確保   | 5. 移動手段の確保（運転免許証や<br>自動車の取得など） | 7. 特に苦労はなかった |
| 3. 移住に伴う費用 |                                |              |

**Q19** 移住するに当たり、特に必要だった情報を、上位3つまで、下の欄に番号を記入してください。

- |                 |                 |               |
|-----------------|-----------------|---------------|
| 1. 住居           | 6. 就職・転職        | 11. 医療・福祉サービス |
| 2. 自然環境         | 7. 就農等の支援       | 12. 子育て環境     |
| 3. 生活環境         | 8. 起業支援         | 13. 教育・文化環境   |
| 4. 本県及び県内市町村の概要 | 9. 県・市町村の移住支援   | 14. 災害の発生状況   |
| 5. 移住者の経験談      | 10. 魅力的な行事・イベント | 15. その他（ ）    |

上位3つまで番号記入

1位	2位	3位
----	----	----

**Q19-1** 移住するに当たり、必要な情報の入手方法について効果的だったものを、上位3つまで、下の欄に番号を記入してください。

- |                         |                            |
|-------------------------|----------------------------|
| 1. 県移住ポータルサイト「ふくしまぐらし。」 | 9. 友人・知人からの口コミ             |
| 2. 市町村ホームページ            | 10. 県・市町村が作成するパンフレット       |
| 3. その他ウェブサイト全般          | 11. 大学等の就職支援サポート           |
| 4. ふるさと回帰支援センター         | 12. 移住関連の本・雑誌等             |
| 5. 現地見学（ツアーを含む）         | 13. ふくしまファンクラブ             |
| 6. 移住関連の相談会やフェア等のイベント   | 14. ハローワークインターネットサービスの求人情報 |
| 7. 地域の世話人（支援団体等）への相談    | 15. 県・市町村の移住相談窓口へのメール、電話等  |
| 8. 親・親戚からの口コミ           | 16. その他（ ）                 |

上位3つまで番号記入

1位	2位	3位
----	----	----

**Q20** 移住するに当たり、最も必要なサポートについて教えてください。（○は1つ）

- |                           |                          |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 仕事・暮らしの情報が一覧できる総合情報サイト | 5. 仕事・暮らしのことが相談できる総合相談窓口 |
| 2. 移住のお試し体験               | 6. 移住者による体験談・サポート        |
| 3. 都市部で開催する相談会・セミナー       | 7. 事前の現地見学に係る交通費や滞在費の補助  |
| 4. 現地見学・モデルツアー            | 8. その他（ ）                |



平成 30 年度  
福島県Uターン実態調査事業  
調査報告書

---

平成 31 年3月発行

福島県地域振興課

〒960-8670 福島県福島市杉妻町 2 番 16 号  
電話 024-521-8023

調査委託:株式会社サーベイリサーチセンター